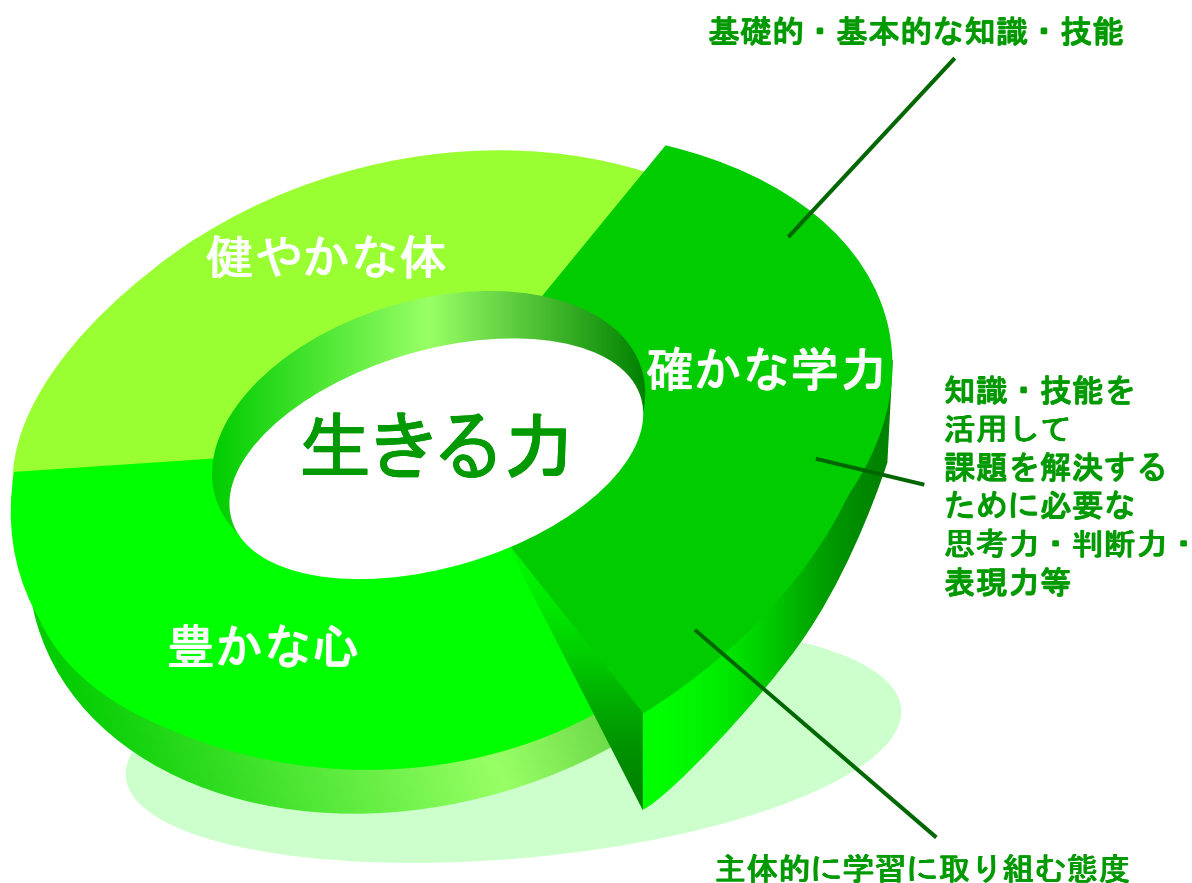


子どもたちに「生きる力」を育む

# 学 習 評 価

中 学 校 編

## 授 業 実 践 事 例 集



平成25年2月  
岡山県総合教育センター

この『学習評価 授業実践事例集』は、岡山県総合教育センターの所員研究として平成22～24年度の3年間にわたって取り組んだ「新学習指導要領の趣旨を踏まえた新しい学習評価の在り方に関する研究」の成果をまとめたものです。本年度は中学校編を作成し、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における授業実践事例を基に学習評価の在り方について解説しています。

この『学習評価 授業実践事例集（中学校編）』は、当センターのWebページからダウンロードすることができます。各学校における学習評価の妥当性、信頼性等の向上及び授業改善の一助として御活用いただければ幸いです。

【『学習評価 授業実践事例集（中学校編）』のURL】

<http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/chousa/kiyou/h24/12-03.pdf>

## 目次

### 【中学校編】

国語	1
社会	7
数学	13
理科	19
音楽	25
美術	31
保健体育	37
技術・家庭〔技術分野〕	43
技術・家庭〔家庭分野〕	49
外国語	55
総合的な学習の時間	61
特別活動	67

### 〈巻末〉

3年間の研究を終えるに当たって  
「学習評価研究を授業改善に生かす」

国立教育政策研究所 工藤文三



1

学習評価のポイント

国語科においては、五つの評価の観点をどの単元にも位置付け、評価しなければならないということはありません。単元を構想する際は、その単元で付けたい力はどの領域のどの能力なのかを、学習指導要領に示されている指導事項を基に明確にし、その指導事項を指導するためにふさわしい言語活動を選定し、評価規準を設定することが大切です。

2

学習評価のポイントを踏まえた学習指導と評価の実際

ここでは、第1学年「書くこと」の指導事項「オ 書いた文章を互いに読み合い、題材のとらえ方や材料の使い方、根拠の明確さなどについて意見を述べたり、自分の表現の参考にしたりすること」に重点を置きながら、指導事項「イ 集めた材料を分類するなどして整理するとともに、段落の役割を考えて文章を構成すること」を取り上げて指導することにしました。この二つの指導事項を指導するためにふさわしい言語活動として言語活動例「ア 関心のある芸術的な作品などについて、鑑賞したことを文章に書くこと」を具体化し、4枚の絵画の中からお気に入りの作品を選び、「お気に入りの絵画の鑑賞文を書いて、『絵画鑑賞会』を開く」という単元を構想しました。学習評価については、特に「国語への関心・意欲・態度」と「書く能力」の二つの観点を取り上げ、具体的に示します。

1 単元名 お気に入りの絵画の鑑賞文を書こう

—よさが伝わるように工夫して書く—（第1学年）

2 目標

- ・お気に入りの絵画について、自分の印象や感動を分かりやすく文章に書こうとする。  
〔国語への関心・意欲・態度〕
- ・作品のよさを挙げて要素ごとに整理し、段落の役割を考えて構成することができる。  
〔書く能力〕
- ・書いた文章を互いに読み合い、作品の捉え方や根拠の明確さなどについて意見を述べたり、自分の表現の参考にしたりすることができる。  
〔書く能力〕
- ・作品のよさを表す語句を集め、文脈に応じて使い分けすることができる。  
〔言語についての知識・理解・技能〕

3 評価規準

国語への 関心・意欲・態度	書く能力	言語についての 知識・理解・技能
・お気に入りの絵画について、自分の印象や感動を分かりやすく文章に書こうとしている。	・作品のよさを挙げて要素ごとに整理し、段落の役割を考えて構成している。(イ) ・書いた文章を互いに読み合い、作品の捉え方や根拠の明確さなどについて意見を述べたり、自分の表現の参考にしたりしている。(オ)	・作品のよさを表す語句を集め、文脈に応じて使い分けしている。(イ(ウ))

**Point1** 「国語への関心・意欲・態度」の評価の考え方

「国語への関心・意欲・態度」の評価をより効果的に行うためには、生徒が学習内容に関心を持ち、見通しをもって取り組むことができるような魅力的な学習課題を設定する必要があります。本単元の「お気に入りの絵画の鑑賞文を書いて、『絵画鑑賞会』を開く」というように、相手意識・目的意識を明確にして単元を構想し、学習内容への意欲の高まりを評価することが大切です。

**Point2** 言語活動を通じた指導と評価の考え方

「書くこと」の目標の冒頭に「目的や意図に応じ」とあるように、目的・場面・相手・意図に応じた書く能力を身に付けさせる必要があります。本単元では、選んだ絵画のどこが、なぜお気に入りのかを鑑賞会で分かりやすく伝えるという目的に応じた書く能力が身に付くよう指導し、評価することが大切です。

#### 4 指導と評価の計画（全9時間）

次	時	主な学習活動	評価規準及び評価方法
一	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>「お気に入りの絵画の鑑賞文を書いて、『絵画鑑賞会』を開く」という課題を理解し、学習への見通しをもつ。</li> <li>図画工作や美術の時間に学習した絵画の中から強く印象に残っているものについて、感想を交流する。</li> <li>教師のお気に入りの絵画の鑑賞文を読み、感想文と推薦文の違いについて考える。</li> </ul>	<p>〔関〕印象に残っている絵画について、自分の印象や感動を分かりやすく文章に書こうとしている。 (行動の様子, 発言の内容)</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>Point1</b> 「国語への関心・意欲・態度」の評価の考え方</p> <p>お気に入りの絵画の鑑賞文を書くことへの思いを膨らませ、絵画から受ける印象や感動を様々なに発想する姿を生徒相互の対話の様子や発言の内容に基づいて評価します。</p> </div>
二	1 ～ 7 本 時	<ul style="list-style-type: none"> <li>4枚の絵画からお気に入りの絵画を選び、作品から感じ取ったことや読み取ったことを付箋紙に書き出し、観点ごとに付箋紙を分類する。</li> <li>分類した付箋紙を基に、内容を整理する(図1)。</li> <li>構成メモを作成し、鑑賞文を書く。</li> <li>鑑賞文を交流し、作品の魅力について話し合い、よりよい鑑賞文にするために意見を述べ合う(本時)。</li> </ul>	<p>〔言〕作品のよさを表す語句を集め、文脈に応じて使い分けしている。 (発言の様子, ワークシートの記述)</p> <p>〔書イ〕作品のよさを挙げて要素ごとに整理し、段落の役割を考えて構成している。 (行動の様子, ワークシートの記述)</p> <p>〔書オ〕書いた文章を互いに読み合い、作品の捉え方や根拠の明確さなどについて意見を述べたり、自分の表現の参考にしたりしている。 (行動の様子, 発言の内容, 鑑賞文の記述)</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>Point2</b> 言語活動を通じた指導と評価の考え方</p> <p>構成、色彩や音等の観点に基づいて絵画を鑑賞し、理由を明らかにして自分の考えをまとめているかどうかを行動の様子や発言の内容、鑑賞文の記述に基づいて評価します。</p> </div>
三	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>「絵画鑑賞会」を開き、作品から受ける印象や感動について意見を述べ合い、これまでの学習の成果を振り返る。</li> </ul>	<p>〔関〕お気に入りの絵画について、自分の印象や感動を分かりやすく文章に書こうとしている。 (行動の様子, 発言の内容, 鑑賞文の記述)</p>



お気に入りの絵画の鑑賞文を書こう  
( )組( )番( )

本時の目標

◇わたしのお気に入りの絵画

◇作品から感じ取ったことや読み取ったことをまとめよう

【印象】

- ・楽しそう
- ・明るい
- ・にぎやか
- ・服装や髪型がかっこいい
- ・みんな笑顔
- ・暖かな日差し

【対象や素材】

- ・絵の中央にこちらを向いた二人の女の子がいる
- ・みんな穏やかな表情をしている
- ・同じような帽子をかぶった男の人がいる
- ・男の人と女の子がダンスをしている

【色彩】

- ・明るい色づかい
- ・全体の色調が上品
- ・やわらかな色の光
- ・黒色の服の人がたくさん

【音】

- ・バイオリンやピアノの音楽
- ・楽しそうな音楽
- ・話し声
- ・笑い声
- ・ワインを注ぐ音
- ・風の音
- ・足音
- ・明るいメロディ

【想像したこと】

- ・みんなパーティーを楽しんでいる
- ・年齢に関係なく、みんなが楽しく暮らしている
- ・この町のことをみんな好きなのだろう

【作者の思い】

- ・みんなこの町が好きだからこそ、この舞踏会に来て、思い思いに楽しむことができています
- ・平和な時間の大切さを伝えたい

本時のまとめ

図1 ワークシートと生徒の記述例（一部抜粋）

## 5 本時案（第二次 第7時）

### (1) 本時の目標

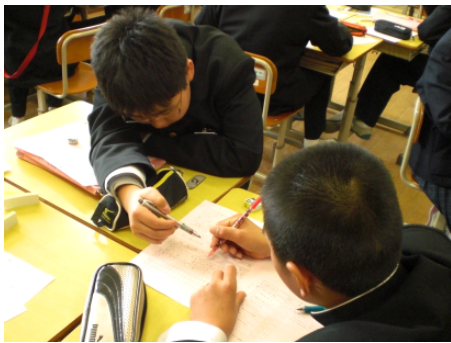
書いた文章を互いに読み合い、作品の捉え方や根拠の明確さなどについて意見を述べたり、自分の表現の参考にしたりすることができる。

### (2) 展開

学 習 活 動	○教師の支援, ★評価規準及び評価方法
1 本時の目標を確認する。	○「絵画鑑賞会」に向けて、同じ絵画を選んだ者同士のグループで意見交換をし、「絵画の魅力が伝わる鑑賞文を完成させよう」と投げかけ、学習への見通しをもたせる。
互いの鑑賞文を読み合い、より絵画の魅力が伝わる鑑賞文を完成させよう。	
2 自分の鑑賞文を読み直し、アドバイスを基に表現を工夫したいところを確認する。	○意見交換をする前に、アドバイスをもらいたいところに線を引かせることで、目的意識を明確にして意見交換を行うことができるようにする。
3 同じ絵画を選んだ者同士の小グループに分かれて鑑賞文を読み合い、参考にしたいところやこうすればもっとよくなる場所について、意見を交流する。	○気付いたことや考えたことをその都度付箋紙に書き出させることで、意見を交流することへの抵抗感を軽減する。 ○参考にしたいところとその理由は水色の付箋紙に、こうすればもっとよくなるというアドバイスは黄緑色の付箋紙に、それぞれ意見を分類しながら書き出させる。



4 他人の作品の捉え方や他人からの助言を基に、自分の鑑賞文を推敲する。



5 本時のまとめをする。

- 付箋紙を基にそれぞれの意見を交流させ、意見を発表するときには、根拠を明らかにするよう助言する。
- 各グループの意見交流での気づきのよいところを称揚しながら全体の場で共有し、鑑賞文の推敲の方向性を確認する。

- すぐに自分の鑑賞文を推敲することが難しい生徒には、他人からの助言の内容と一緒に確認し、より適切な語句を選択し、推敲することができるようにする。

### Point2

#### 言語活動を通じた指導と評価の考え方

「お気に入りの絵画鑑賞会」に向けて、互いの文章を読み合い、どのような助言をし、どのように自分の文章を書き換えているかを、行動の様子や発言の内容、鑑賞文の記述に基づいて評価します。

★〔書オ〕書いた文章を互いに読み合い、作品の捉え方や根拠の明確さなどについて意見を述べたり、自分の表現の参考にしたりしている。(行動の様子、発言の内容、鑑賞文の記述)

- 他人からの助言を基に修正したところを数名の生徒に発表させ、本時の目標を振り返らせる。
- 次回は、「お気に入りの絵画鑑賞会」に向けて、グループの代表作を選び、鑑賞会の準備をすることを告げる。

### (3) 板書の実例

絵画	絵画
絵画	絵画

交流するときの観点

## 6 指導と評価の実際

ここでは、指導事項「オ 書いた文章を互いに読み合い、題材のとらえ方や材料の使い方、根拠の明確さなどについて意見を述べたり、自分の表現の参考にしたりすること」に関する指導と評価を取り上げ、生徒の状況とそれに対する教師の働きかけをまとめています。小グループの交流で用いた付箋紙の助言の内容と鑑賞文の記述内容の変化を基に評価を行いました。

### (1) 「おおむね満足できる」状況（B）と判断した生徒の様子

本実践事例で、指導事項オについての指導過程における評価規準は、次のとおりです。

〔読オ〕書いた文章を互いに読み合い、作品の捉え方や根拠の明確さなどについて意見を述べたり、自分の表現の参考にしたりしている。

書いた文章を読み合い、意見を述べたり、自分の表現を見直したりしている姿について、例えば次のような生徒の状況を「おおむね満足できる」状況（B）と判断しました。

#### 《判断のポイント》

##### 【Bの状況】

- 書いた文章を互いに読み合い、作品の捉え方や根拠の明確さなどについて代案を示して助言をしたり、自分の表現を見直して書き換えたりしている。

(例)

〈助言の内容〉

- ◆ 「『微妙な色づかいが時間の流れをうまく表現している』のところは、『薄い緑から濃い緑へと色の濃淡をうまく表現し』として微妙な色づかいを具体的に表現した上で、『草原の動きが時間の流れを表しているようだ』というように具体的に作品のよさを表現するとよいと思います。」

〈鑑賞文の記述内容の変化〉

- ◆ 「草原の草木や空が、一つ一つ違った色づかいで描かれています。淡い色のグラデーションにより美しい自然が際立って見えます。」  
↓
- ◆ 「淡い色のグラデーションで遠近感がうまく表現され、自然の美しさがより際立って見えます。草原の向こうに描かれたパステルブルーから、海や町、山などの様々な風景を想像することができます。」

い	し	の	乗	い	て	こ	水	角	本	て	し	空	ま	ん	こ
で	て	の	が	る	い	え	茶	は	世	暗	て	の	ま	か	の
し	未	生	か	か	る	ん	葉	不	に	い	あ	音	ず	か	経
ょ	来	理	か	ら	い	て	ハ	母	波	暗	ろ	色	、	こ	経
う	ハ	出	を	ら	の	ん	の	を	が	い	は	は	空	の	画
か	極	し	見	に	に	と	角	表	打	音	川	明	七	の	見
	達	た	る	こ	川	え	セ	現	？	深	の	る	川	の	て
	を	光	と	こ	治	え	表	し	い	い	音	い	の	の	い
	準	、	希	こ	い	て	現	い	る	に	色	は	大	差	る
	いて	星	空	え	の	る	し	る	よ	重	は	胆	目	に	七
	く	が	が	て	家	か	て	い	う	ね	波	な	が	見	希
	ら	照	見	く	た	や	い	る	に	い	を	実	が	え	望
	した	ら	え	る	け	か	る	の	見	ま	実	に	い	て	が
	た	した	ま	ま	電	電	は	で	え	す	に	再	ま	ま	ま
	の	光	ま	ま	気	気	は	は	ま	す	再	現	ま	ま	ま
	で	が	ま	ま	が	が	は	ま	ま	す	現	し	ま	ま	ま
	は	明	ま	ま	つ	つ	ま	ま	ま	す	し	ま	ま	ま	ま
	は	日	ま	ま	い	い	ま	ま	ま	す	し	ま	ま	ま	ま
	な	そ	ま	ま	て	て	ま	ま	ま	す	し	ま	ま	ま	ま

図2 「十分満足できる」状況（A）の記述例

(2) 「十分満足できる」状況（A）と判断した生徒の様子

例えば次のような姿が見られた場合「十分満足できる」状況（A）と判断しました。

《判断のポイント》

【Aの状況】

- 書いた文章を互いに読み合い、作品の捉え方や根拠の明確さなどについて代案を示して助言をしたり、様々な角度から作品を捉え直し、新たに気付いた作品のよさが伝わるように、自分の表現を見直して書き換えたりしている。

(例)

〈鑑賞文の記述内容の変化〉

- ◆「空と海の青色の鮮やかさに魅了されます。暗い青は不安を表現し、明るい青はもうじき来る明日への希望を表現しているのではないのでしょうか。(中略)この絵を見ると、希望が見えてきます。今にも動いてきそうな店や波だからこそこの絵にひかれるのではないのでしょうか。」

↓

- ◆「空の青色は明るい水色が大胆なタッチで表現してあります。川の青色は波を忠実に再現して、暗い青を淡い青に重ねています。だから本当に波が打っているように見えます。暗い青は不安を表現し、明るい青はもうじき来る未来への希望を表現しているのではないのでしょうか。(中略)この絵を見ると希望が見えてきます。人間の生み出した光、星が照らした光が明日、そして未来へ私達を導いてくれるのではないのでしょうか。」(図2)。

(3) 「努力を要する」状況（C）と判断される場合における支援

「努力を要する」状況（C）として次のようなものが見られることが予想されます。

- 鑑賞文のどの表現に着目して、どのような助言をすればよいか分からない。
- 書き換えたい表現は決まっているが、どのように書き換えたらよいか分からない。

このような状況が見られる場合は、次のような具体的な支援を行うことが有効です。

《具体的な支援》

- どの表現が分かりにくいかを尋ね、それが絵画作品のどの部分を説明しているかを一緒に確認し、受ける印象などを基によさを伝えるための言葉を示しながら、具体的な表現を見付けることができるようにすることが大切です。
- 鑑賞文語彙集（教師が自作したもの）を提示し、その中から自分の気持ちに近い表現を幾つか選択させ、同じグループの鑑賞文の内容を参考にしながら、書き換えさせるなどの支援を行うことが大切です。

### 3 今後の学習評価に向けて

今回は、「書く能力」を育成するための指導と評価の実践事例を紹介しました。この実践事例のとおり、国語科は、五つの観点をどの單元にも位置付けて評価しなければならないということはありません。年間の指導計画に基づき、当該單元で重点的に指導する領域と指導事項及び取り上げる言語活動を確定し、指導事項を踏まえた評価規準を設定するとともに、具体の生徒の姿を想定した上で指導をし、評価を行うことが重要です。





## 1 学習評価のポイント

社会科においては、これまでの「資料活用の技能・表現」の観点から「資料活用の技能」に改められ、「社会的な思考・判断」の観点に「表現」という文言が加えられました。「資料活用の技能」には、「表現」という文言はなくなりましたが、これまで「資料活用の技能・表現」で評価してきた内容を引き続き評価します。「社会的な思考・判断・表現」の観点においては、言語活動を通して表現される、社会的な事象について思考したり判断したりしたことを評価することが大切です。また、地図や統計など各種の資料を活用して社会的な事象を多面的、多角的に考察し、社会的な事象の意味や意義を解釈したり、事象の特色や関連を説明したり、自分の意見を論述したりする言語活動を一層充実させることが大切です。

## 2 学習評価のポイントを踏まえた学習指導と評価の実践

ここでは、第3学年「基本的人権の尊重」の実践事例を基に、どのように言語活動を設定し、「社会的な思考・判断・表現」について学習評価を行うかについて示します。

### 1 単元名 基本的人権の尊重（第3学年）

#### 2 目標

- ・人間の尊重と基本的人権に対する関心を高め、それらを意欲的に追究し、基本的人権が尊重される社会生活について考えようとする。〔社会的な事象への関心・意欲・態度〕
- ・社会生活に関わる様々な事象から、人間の尊重や基本的人権の尊重に関わる課題を見だし、多面的、多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現する。〔社会的な思考・判断・表現〕
- ・人間の尊重や基本的人権の尊重に関する資料を収集し、有用な情報を適切に選択して読み取ったり図表などにまとめたりすることができる。〔資料活用の技能〕
- ・人間の尊重や基本的人権の保障について理解し、その知識を身に付けることができる。〔社会的な事象についての知識・理解〕

#### 3 評価規準

社会的な事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的な事象についての知識・理解
①身近な事例を基にして、基本的人権を中心とした人間の尊重についての考え方に対する関心を高め、意欲的に追究している。	①基本的人権の尊重と社会生活との関連から課題を見だし、対立と合意、効率と公正などの視点から考察して、その過程や結果を適切に表現している。 ②人間の尊重の考え方と社会の変化を関連付けて、多面的、多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	①人間の尊重についての考え方と日本国憲法をはじめとした法に関する資料を様々な手段で収集し、資料から情報を適切に選択して図表などにまとめている。 ②社会の変化と共に新しく主張されてきた権利に関わる情報を収集し、適切に図表などにまとめている。	①基本的人権を中心とした人間の尊重の考え方や、法によって基本的人権が保障されていることを理解し、その知識を身に付けている。 ②社会の変化や国際的な動向を踏まえて、基本的人権の保障に関する知識を身に付けている。

#### 4 指導と評価の計画（全11時間）

次	時	主な学習活動	評価の観点				評価規準及び評価方法
			関	思	技	知	
一	1	<p>日本国憲法をはじめとした法で保障されている基本的人権について、その内容や意味について理解しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本的人権の尊重の意味を捉えた上で、子どもの権利条約を基に、人権の保障について話し合う。</li> </ul>	○				<p>それぞれの単元において、学習評価に関連して観点別に適切な時期や方法を整理することが大切です。評価すべき点を見落としがないかを確認できるだけでなく、必要以上に評価機会を設けることで資料の収集・分析に多くの時間が必要になるといった事態を防ぐこともできます。</p>
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>平等権の意味を理解し、平等権の保障に関わる課題について理解する。</li> <li>平等権に関わる様々な法や、課題に対する取り組みに関する情報をまとめる。</li> </ul>			○	<ul style="list-style-type: none"> <li>平等権の意味を理解し、平等権の保障に関わる課題について、その知識を身に付けている。 〔知①〕（ノートの記事）</li> <li>平等権に関わる法や課題の解決に向けた取り組みに関する情報を収集し、適切に図表などにまとめている。 〔技①〕（ワークシートの記事）</li> </ul>	
	3	<p>「表現」の文言の有無にかかわらず、「資料活用の技能」については、基本的に従前の観点で評価してきたことを引き継ぎます。様々な資料の収集をはじめ、資料から有用な情報を適切に選択すること、資料が示す内容を読み取ること、そして図表や文章にまとめることなどが「技能」の観点に含まれます。</p>				○	<ul style="list-style-type: none"> <li>精神の自由、身体の自由、経済活動の自由などから自由権の意味を理解し、その知識を身に付けている。 〔知①〕（ノートの記事）</li> </ul>
	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>自由権との関係から社会権を捉え、日本国憲法で保障される社会権について理解する。</li> </ul>				○	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会権について、歴史的な成立の経緯とともに意味を理解し、その知識を身に付けている。 〔知①〕（ノートの記事）</li> </ul>
	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的人権が制限される場合を、社会生活の身近な事例を基に、効率と公正という視点から考察し、公共の福祉について考えを深める。</li> </ul>		○			<ul style="list-style-type: none"> <li>公共の福祉という視点から身近な事例を基に課題を設定し、対立と合意、効率と公正などの視点から考察して、その過程や結果を適切に表現している。 〔思①〕（ワークシートの記事）</li> </ul>
二	1	<p>変化する社会と基本的人権の保障という観点から、どのような課題があるのだろう。</p>					

	・社会の変化によって新しく主張され、尊重されてきた様々な人権について、法や制度を基に理解する。				○	・社会の変化によって主張されてきた新しい人権について理解し、その知識を身に付けている。 〔知①〕（ノートの記述）
2	・基本的人権の保障は国際的な課題であることを、国際連合の活動などを基に確認する。					<p style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; text-align: center;">日常的に行われる授業改善のための評価、指導に生かす評価を大切にす一方、指導後の生徒が「おおむね満足できる」状況（B）等にあるかどうかを記録するための評価場面を設定します。</p> <p style="text-align: right;">〔知②〕（ノートの記述）</p>
3	・新しい人権の学習を踏まえて自己決定権を取り上げて、自己決定権が尊重されている事例について情報を収集してまとめる。				○	・自己決定権に関わる情報を収集し、適切に図表などにまとめている。 〔技②〕（ワークシートの記述）
三	1 本 時	・自己決定権を尊重する臓器移植法が社会にどのような影響を与えているか考える。			○	・自己決定権を尊重する臓器移植法の社会的な意味や意義を、社会との関わりから多面的、多角的に考え、表現している。 〔思②〕（ワークシートの記述）
	2	・単元の学習内容をまとめるとともに、基本的人権の尊重に関わる課題を話し合い学習を振り返る。			○	・身近な事例を基にして、基本的人権の尊重について関心を高めている。 〔関①〕（発言の内容、ワークシートの記述）

### Point1 社会的事象の意義や特色、相互の関連を考える場面を設定すること

「社会的な思考・判断・表現」の観点の趣旨には、「社会的事象から課題を見だし、社会的事象の意義や特色、相互の関連を多面的、多角的に考察し、社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している」とあります。社会科の「思考力・判断力」の評価に当たっては、得られた情報から社会的事象の意味や意義を解釈したり、事象間の関連を多面的、多角的に考察したりする場面を意図的に設定することが大切です。また、習得した知識を活用して思考・判断する活動を設定する際には、単元の学習内容を見通して、ある程度の長い区切りの中で適切な時期を考えて設定していくことが大切です。実際の評価では、生徒が自ら観点別に分けて表現しようとしているわけではありませんので、教師がどの観点で評価しようとするのか、指導のねらいは何であるのかといった視点を明確にもち、評価場面を設定することが大切です。

### Point2 知識を活用して思考・判断したことを図や文章で表現させること

社会科における言語活動は、地図や統計、年表など様々な資料を活用することが特色です。そして、「社会的な思考・判断・表現」の観点の評価に当たっては、そのような諸資料を活用した言語活動を通じて思考・判断したことを図にまとめさせたり、文章で記述させたりすることを通して評価します。例えば、地理的分野では地図を有効に活用して地理的事象を説明させたり、歴史的分野では歴史的事象について考察したことを自分の言葉で表現させたりする活動を通して評価します。公民的分野では習得した知識、概念や技能を活用して、社会的事象について考えたことを説明させたり、自分の考えを論述させたり、議論を通して考えを深めさせたりする活動などを通して、図や文章で表現されたものから評価します。





## 5 本時案（第三次 第1時）

### (1) 本時の目標

臓器提供意思表示カードを基に、自己決定権を尊重する臓器移植法の社会的な意味や意義を、社会との関わりから多面的、多角的に考え、表現することができる。

### (2) 展開

学習活動・内容	教師の支援	学習評価
<p>1 前時までの学習を振り返り、臓器提供について様々な立場で見方が異なることを確認する。</p> <p>2 本時の目標を知る。</p>	<p>○前時でまとめたワークシートの内容について、幾つかの例を示しながら全体で確認する。</p> <p>○臓器提供意思表示カードが自己決定権の尊重に関わる一つの例であることを確認する。</p>	
<p>臓器提供意思表示カードを基にして、臓器移植法の意味や意義を考えよう。</p>		
<p>3 臓器提供意思表示カードを基にして「臓器提供」をテーマにディベートを行う。</p> <p>(1) 三つの班を一つのグループとしてそれぞれの立場に分かれる。</p>  <p>(2) それぞれの立場から班で考えをまとめて発表し、意見交換を行う。 ※判定は行わない。</p>  <p>(3) ディベートにおいてのそれぞれの立場を離れて、臓器提供に対する個人の意見をまとめる。</p> <p>4 臓器移植法が社会にどのような影響を与えているか考える。</p>	<p>○ディベートの基本的なルールを簡単に説明する。</p> <p>○二つの班は、臓器提供の意思表示ができることに賛成か反対か、という立場に分かれ、一つの班は司会役になることを確認する。 ※六つの班を、二つのグループに分ける。</p> <p>○班で意見をまとめる際には、前時でまとめたワークシートや収集した情報も参考にしよう助言する。</p> <p>○ディベートの前と後を比較する形で個人の意見をまとめさせる。</p> <p>○個人でまとめた意見も踏まえて、臓器提供に関わり、自己決定権が尊重されているという視点を確認する。</p>	<div style="border: 1px solid purple; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p><b>Point1</b></p> <p>社会的事象の意義や特色、相互の関連を考える場面を設定すること</p> <p>前時に学習したことを踏まえて、ここでは立場を明確にしたディベート形式の討論を設定しています。型式を示した上で、最終的には個人で考えをより深めるための活動ですので、討論をした後の判定は実施していません。</p> </div> <p>○自己決定権を尊重する臓器移植法の社会的な意味や意義を、社会との関わりから多面的、多角的に考え、表現している。</p>

## Point2

知識を活用して思考・判断したことを図や文章で表現させること

本実践では、学習活動3を通して様々な視点から個人の考えをより深める活動を行っています。そして、個人の考えをもった上で自己決定権を尊重する臓器移植法について社会的な視野から意味や意義を考え、自分の言葉で文章にまとめて表現する場面を設定しています。

〔社会的な思考・判断・表現〕  
（ワークシートの記述）

5 数名の生徒の発表を基に、自己決定権の尊重と社会への影響を確認して本時のまとめとする。

○数名の生徒に学習活動4でまとめたことを発表させ、本時のまとめとする。

### (3) 板書の実例

臓器移植法の意味や意義を考えよう。

——臓器提供意思表示カードと自己決定権——

ディベート

臓器提供意思表示カードで「意思が表示できる」ことに賛成か反対か。

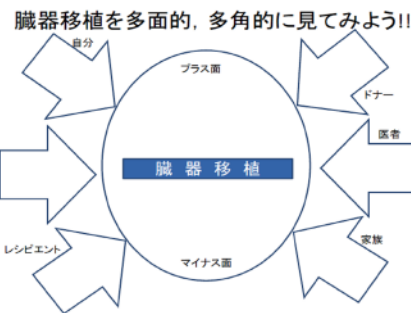
- |         |            |
|---------|------------|
| 1 賛成側立論 | 6 ディスカッション |
| 2 反対側立論 | 7 作戦タイム    |
| 3 作戦タイム | 8 賛成側まとめ   |
| 4 賛成側反論 | 9 反対側まとめ   |
| 5 反対側反論 | 10 判定      |

※ 判定は行わない。  
※ ディスカッションの時間をとる。

臓器提供意思  
表示カード

臓器提供に関する  
記入欄や本人、家族  
の署名欄など

臓器移植法は社会にどのような影響を与えているのだろう



## 6 指導と評価の実例

(1) 「おおむね満足できる」状況（B）と判断した生徒の様子

《判断のポイント》

- ◆本実践では、臓器提供意思表示カードを基にしたディベートでの議論を参考にしながら、臓器提供に関わる個人としての考えをもたせた上で、臓器移植法に基づく臓器提供の在り方が社会に与える影響について記述させています。この記述において、以下の内容が表現されていることを「おおむね満足できる」状況（B）と判断しました。
- ・自己決定権を尊重する臓器移植法の意味や意義について、複数の視点から社会への影響をまとめ、自分の考えを記述している。

臓器提供をしてもいいという人が増えてたくさんの方が助かるようになった。個人の意見が尊重されているのはいいが、家族などとトラブルを起さなければいい。

「レシピエント／ドナー」「個人／家族」といった立場の違いに着目して、社会への影響をまとめて記述しています。その他にも、臓器移植に「関心があった人／なかった人」「患者／医者」といった複数の立場に着目した記述を含む生徒についても「おおむね満足できる」状況（B）と判断しました。

生徒の記述例（一部抜粋）

## (2) 「十分満足できる」状況（A）と判断した生徒の様子

### 《判断のポイント》

- ◆ 次の事例では、記述された内容から（B）を達成していると判断した上で、社会に存在する多様な立場や議論を踏まえてさらに広い視野から関連すると考えられる社会的事象に着目し、記述していることから（A）と判断しました。
- ◆ 「おおむね満足できる」状況（B）を踏まえて、「十分満足できる」状況（A）の姿を、ある程度、事前に想定しておくことも大切です。

様々な立場の違いに着目して社会的影響を記述していることに加えて、法律制定の意味を一般化して広く捉えて考えていることが見取れる記述が含まれていることから「十分満足できる」状況（A）と判断しました。

たとえ、法律ができて臓器提供すること  
良いことだけれど、臓器が売ることに対しては  
個人の意思を尊重することが必要だと思う。

生徒の記述例（一部抜粋）

臓器移植法の改正点に着目して様々な立場を踏まえて記述していることに加えて、医療分野の発展の必要性について、法律をきっかけにして考えていることを見取ることができるので「十分満足できる」状況（A）と判断しました。

小さな子ども  
も移植できるようになって助かる人がふえると思  
う。でも、小さな子どもへの移植は難しいから  
医療の技術をもっと発展させないといけないと思  
います。

生徒の記述例（一部抜粋）

## (3) 「努力を要する」状況（C）と判断した生徒に行った支援

### 《具体的な支援》

- ◆ 発問に対して「病気の人がより多く助けられる」といった記述しか見られない場合、複数の視点から社会的影響を捉えているかどうか判断することが困難です。「なぜ多くの人を助けることができるようになったのか」を問いながら、レシピエントとドナーの関係を中心に、法制定がどのような社会的影響を与えたのか、考えを引き出していきました。
- ◆ 発問に対して「人間の命はとても大切だと感じた」など、抽象的な個人の考えしか表現していない場合は、「なぜ、そう思ったのか」を問いかけながら、ディベートなどでの議論を踏まえて様々な立場に注目するなど、考える際の視点について助言しました。

## 3 今後の学習評価に向けて

本実践は第3学年の公民的分野での実践でしたが、分野を問わず単元の後半で思考・判断したことを表現させる場面を設定する場合には、思考・判断する材料となる知識や技能を生徒がそれまでの学習を通して身に付けていることが重要です。課題に即して、具体的に調査したり、各種の基礎的資料を活用したりして調べたことが、問いに基づいた思考・判断の基盤となるよう単元の計画を構成することが大切です。また、生徒が日々の生活の中ですでに身に付けている知識や技能が思考・判断する場面での基盤となる場合もあります。

指導者の立場からは、思考・判断するための十分な情報は与えられているか、という視点で課題を吟味することが大切です。これらのことを踏まえて、単元等のある程度長い期間を見通して評価計画を作成し、「思考・判断・表現」の観点を見取ることのできる妥当な評価場面を設定することが重要です。



## 1 学習評価のポイント

数学科においては、これまでの「数学的な表現・処理」の観点から「数学的な技能」に改められました。観点名は変わりましたが「数学的な技能」では、これまで「数学的な表現・処理」で評価してきた内容を引き続き評価します。

また、「数学的な見方や考え方」の趣旨の中に「表現」という文言が加えられました。「数学的な見方や考え方」では、「思考・判断・表現」についての評価を行います。この観点において評価する「表現」とは、事象を数学的な推論の方法を用いて論理的に考えた過程や結果を表したものを指します。したがって、「数学的な見方や考え方」の評価については、主に言語活動を通して行います。



## 2 学習評価のポイントを踏まえた学習指導と評価の実際

ここでは、第1学年「資料の散らばりと代表値」の実践事例を基に、「数学的な見方や考え方」の評価を行うために、言語活動を取り入れた学習活動を設定し、その学習活動からどのようにして「数学的な見方や考え方」について学習評価を行うかについて示します。

### 1 単元名 資料の散らばりと代表値（第1学年）

### 2 目標

- ・ヒストグラムや代表値，相対度数などを用いて資料の傾向を捉え説明することに関心を持ち，問題の解決に生かそうする。 [数学への関心・意欲・態度]
- ・問題を解決するために，ヒストグラムや代表値，相対度数などを用いて，資料の傾向を捉え説明することができる。 [数学的な見方や考え方]
- ・問題を解決するために，ヒストグラムや代表値，相対度数などを用いて，資料を整理することができる。 [数学的な技能]
- ・ヒストグラムや代表値，相対度数などを用いて，問題を解決する手順を理解することができる。 [数量や図形などについての知識・理解]

### 3 評価規準

数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解
・ヒストグラムや代表値，相対度数などを用いて資料の傾向を捉え説明することに関心を持ち，問題の解決に生かそうとしている。	・問題を解決するために，ヒストグラムや代表値，相対度数などを用いて，資料の傾向を捉え説明している。	・問題を解決するために，ヒストグラムや代表値，相対度数などを用いて，資料を整理している。	・ヒストグラムや代表値，相対度数などを用いて，問題を解決する手順を理解している。



#### 4 指導と評価の計画（全10時間）

次	時	主な学習活動	評価の観点				評価規準及び評価方法
			関	思	技	知	
一	1	・目的に応じた判断を行うための条件を整理する。	◎				・提示された資料に関心を持ち、その特徴を読
	2	・与えられた資料を度数分布表を用いて整理する。					
	3	・度数分布表からヒストグラムや度数折れ線を作成する。		○	◎		
	4	・相対度数の必要性や意味を知る。				○	(ノートの記述) ・度数分布表から相対度数を求めている。 (発言の内容, ノートの記述)
	5	・資料の範囲や代表値について考える。				◎	・資料の範囲や代表値の必要性と意味を理解している。 (発言の内容, ノートの記述)
	6	・目的に応じた代表値を選び、自分なりに考えて説明する。	○		◎		・代表値を用いて、資料の傾向を捉え、問題の解決に生かそうとしている。 (ワークシートの記述) ・資料の目的と様子に応じて、代表値を選択し、特徴を読み取っている。 (ワークシートの記述)
	7 本 時	・問題解決のために、既習事項を用いて資料を分析し説明する。		◎			・問題を解決するために、ヒストグラムや代表値などを用いて、資料の傾向を捉え説明している。 (発言の内容, ワークシートの記述)
					◎	・近似値や誤差の意味を理解している。 (ノートの記述)	
						・有効数字の意味を理解し、ある数値を有効数字を使って、適切に表している。 (ノートの記述)	
						・既習事項を活用することに関心を持ち、問題解決に生かそうとしている。 (ノートの記述, ペーパーテストの記述)	

評価計画には、◎と○の2種類を記しています。

◎は、評価規準に照らして、全員の学習状況を見取り記録に残す評価です。これは単元の総括の資料となります。

○は、評価規準に照らして、判断した結果を指導に生かす評価です。「おおむね満足できる」状況（B）であるかどうかを判断し、「努力を要する」状況（C）の生徒に対して適切な支援を行うとともに、「十分満足できる」状況（A）と判断できる生徒を把握し、必要に応じて記録に残して総括の参考資料とします。

本単元では、◎をこれまでの学習のまとめを行う場面や学習内容を活用する場面に設定し、単元の終わりに◎を付けました。「数学的な見方や考え方」は、単元前半から単元後半にかけて高まることが考えられます。この特性を考慮すると、観点別評価を総括する際には、単元の後半の評価に重きを置くことが考えられます。

## Point1

### 既習事項を活用して思考・判断・表現させること

思考力や表現力を育成するためには、これまでの学習内容である既習事項を活用させることが大切です。例えば、単元の前半では、知識・理解に関する内容や技能に関する内容の指導に重点を置き、その習得と定着を図ります。そうした上で既習事項を必要に応じて意図的に選択し、活用する場を設定することが考えられます。この場面において、「数学的な見方や考え方」を評価することができます。

また、問題を解決する過程を的確に捉えて評価することが大切です。そのためには設定する課題に対して、その目的に応じた問題解決のための動機付けや見通しをもたせることが重要です。こうした意図ある問題の設定により、生徒が主体的に既習事項である知識や技能を活用していくことが可能となります。加えて家庭学習においても、関連性をもった既習事項の定着と活用を図る内容を意図的に取り入れるようにしていくなどの工夫も必要です。

## Point2

### 根拠を明確にして自分の考えを説明する場面を設定すること

「数学的な見方や考え方」の評価を行うことは、他の観点に比べて多くの手間と時間がかかります。そこで、単元の中でその評価場面を明確にしておくことが大切です。本単元においては、生徒が自分の考えをもち、その根拠を明確にして説明する評価場面を設定しています。特に「数学的な見方や考え方」においては、生徒が主体的に問題を解こうとする目的意識をもたせることができる問題を設定し、その問題解決のために生徒自身に自分の考えをもたせることが重要です。そして、具体的な評価規準の設定において見取るべき知識や技能が整理されていることが大切であり、こうした学習活動の中で生徒が自分の考えをまとめるための時間を保障していく必要があります。その際には、ワークシートの利用やレポートの作成も有効な手段となります。

## 5 本時案（第一次 第7時）

### (1) 本時の目標

問題を解決するために、ヒストグラムや代表値などを用いて、資料の傾向を捉え説明することができる。

### (2) 展開

学習活動	生徒の主な反応と教師の支援	学習評価
<p>《問題文》 生活委員会が行っている「朝のあいさつ運動」を基にして、「新入生歓迎のあいさつ運動」を計画してみましょう。 問題1 アンケートの分析を行い、資料の傾向を説明しましょう。 問題2 問題1から「新入生歓迎のあいさつ運動」はどのように行えばよいでしょうか。</p>		
1 学習課題をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の身の回りの事象を問題場面に設定することで関心を高めるようにする。</li> <li>○学習の目標を明確に伝え、資料の分析に必要な情報を想起させる。</li> </ul>	
<p>これまでに習ったことを使って資料の傾向を説明し問題を解決しよう。</p>		
<p><b>Point1</b> 既習事項を活用して思考・判断・表現させること</p> <p>問題解決への見通しをもたせるために必要な情報や方法は何かを想起させます。ここでは資料を整理するために既習事項であるヒストグラムや代表値の利用がポイントです。このように知識や技能を活用しながら解決する問題を意図的に設定していくことが大切です。</p>		
2 問題1に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○資料（アンケートの結果）の提示を行う。まず、個人で問題解決の見通しをもたせる。</li> </ul>	

- ランダムな資料の状態から、これまでの学習内容を想起させ、学級全体で資料の整理を進めていく。
- 生徒の発言を通して、既習事項の確認を行う。
- 時間があれば複数の代表値を求めさせる。

## Point2

### 根拠を明確にして自分の考えを説明する場面を設定すること

本時では、「代表値の選択を行い、根拠を明確にして自分の考えを説明する活動」を評価場面に設定しています。生徒自身が与えられた資料を整理し、度数分布表や代表値を導き出すことは重要ですが、ここでは問題解決のために必要な代表値等を選択し、それを根拠として自分の考えをもち説明できることが大切です。したがって、資料の整理における自力解決等の場面においては、個に応じた指導を充実させることに重点を置きます。そして、中心課題に取り組む場面では、既習事項を基に自分の考えをまとめ、説明できる準備が整うように支援します。知識・理解や技能の評価のように、一つの考え方や解法を求めているわけではないため、場合によっては代表値の提示などの支援を行いながら解答の完成へ向かわせませす。

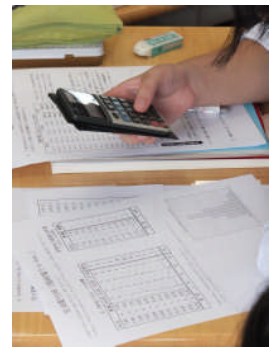


3 資料を整理した結果を考察する。

- 代表値を選択して資料の傾向を記述するよう指示する。
- 代表値を求めることができない生徒にはヒントカードによって代表値を提示する。

4 問題2の解決を行う。

- 学習活動3の考察を基にして、「新入生歓迎のあいさつ運動」についての提案を考えさせる。
- 学習活動3で「努力を要する」状況（C）と判断した生徒を中心に、ノートやワークシート等を振り返らせながら、度数分布表等に囲み線や言葉を書き込ませて、自分の考えをもつことができるようにする。



資料を整理する様子

5 グループ内で説明を行い、意見をまとめる。

- グループ内で自分の考えを説明させる際には、「用いた代表値」と「根拠」を明確に説明するように指示する。
- 聞く側の生徒には、指定されたポイントに留意して聞き取らせ、比較させる。
- 自分の考えとの共通点や相違点を見いだすような聞き方をするように伝える。
- グループの意見を一つにまとめさせる。このとき代表者を選ぶのではなく、よい点を補足し合い、よりよい解答を作成するように伝えておく。

- 問題を解決するために、ヒストグラムや代表値などを用いて、資料の傾向を捉え説明している。

〔数学的な見方や考え方〕  
（発言の内容、ワークシートの記述）

6 グループでまとめたことを発表する。

- 各グループのまとめた意見を黒板に掲示し、比較ができるようにする。

これまでに学習した度数分布表、ヒストグラム、代表値はその特徴を理解した上で、資料の分析に用いることが大切である。

7 学習を振り返る。

- ワークシートを用いて振り返りをさせる。グループの説明での気づきやまとめる段階での意見交換で考えたことや分かったことを具体的に書かせることにより、理解の深化などを自覚することができるようにする。



振り返りの様子



### (3) 板書計画

**目標** これまでに習ったことを使って資料の特徴を説明し問題を解決しよう

**問題1**

以上	未満	度数
7:35	7:45	1
7:45	7:55	11
7:55	8:05	7
8:05	8:15	5
8:15	8:25	4
8:25	8:35	0
計		28

**問題2**  
【各グループの意見】

グループ 発表意見	グループ 発表意見	グループ 発表意見
グループ 発表意見	グループ 発表意見	グループ 発表意見

**まとめ**  
これまでに学習した度数分布表，ヒストグラム，代表値はその特徴を理解した上で，資料の分析に用いることが大切

代表値など	
最頻値	7時50分
中央値	8時
平均値	8時
最大値	8時20分
最小値	7時42分

## 6 指導と評価の実際

### (1) 「おおむね満足できる」状況（B）と判断した生徒の様子

#### 《判断のポイント》

◆本時の問題では，解決方法を多様に考えることが可能です。多様に考えることは思考力として大切な要素の一つですが，本時は既習事項を活用することができているかに着目して評価しました。したがって，これまでの既習事項を用いて，与えられた資料に関して誤りなく分析し記述しているということを判断の目安にしました。本時では，ヒストグラムや代表値などの語句を用いて解答していることと，資料の見方や捉え方が正しいことで，「おおむね満足できる」状況（B）と判断しました（図1，2）。

資料より，最頻値は7時50分であり，最も登校人数が多いのは7時45分から7時55分の間である。また，中央値，平均値ともに8時である。

図1 生徒の記述例（一部抜粋）

最頻値から1年生は，7:45~55にかけて登校してくる人が多いということが分かります。この時間帯にくる人も多いたが，最小値と最大値を43と，7時42分から8時20分と38分間の範囲があるということもあります。

図2 生徒の記述例（一部抜粋）

### (2) 「十分満足できる」状況（A）と判断した生徒の様子

#### 《判断のポイント》

◆本時の問題では，既習事項を活用して資料の特徴や傾向を分析し説明している点に着目して評価しました。本時では，「おおむね満足できる」状況（B）に加え，資料の特徴を考察し記述していることと，そこから得られた根拠によって問題の解決を図る記述ができていることにより，「十分満足できる」状況（A）と判断しました（図3，4）。

せ、かく実施するので多くの人々が登校する時間帯が良いと思う。最頻値が7時50分だから7時45分～7時55分は、実施時間にした。また、その階級の一つ上の階級と一つ下の階級を比較して下の階級の人が登校してくる人が多いので、一つ下の階級の～8時5分も実施時間にする。  
ここで実施すれば半分以上の人が登校してくる。

図3 生徒の記述例（一部抜粋）

＜実施時間は7時35分から7時55分です＞  
 このデータは、今の1年生のデータだし、調査時期が2学期です。来年に実施する月は4月なので、その時期なら1年生は今より早く登校することと思います。だから最小値が示す7時42分を考慮して、最頻値が示す最も登校する生徒が多い時間帯から10分早めたこの時間を実施時間として選んだ。

図4 生徒の記述例（一部抜粋）

### (3) 「努力を要する」状況（C）と判断した生徒に対して行った支援

#### 《具体的な支援》

◆「努力を要する」状況（C）と判断した生徒に対しては、次の三つのステップで支援を行いました。

- ①既習事項である度数分布表を基に、資料の見方や整理についてノート等で振り返らせる。
- ②代表値を求める段階では、①を基にして自分が取り組みやすい資料を選択させる。
- ③②を基にして資料の傾向をまとめさせる。

また、(図5, 6)のような解答には、生徒に「代表値」などのキーワードに線を引かせ、その生徒が何を利用したいのかを明確にさせました。こうしたキーワードに着目することは、ノート等で「代表値」などの意味を復習することにもつながります。生徒にこの問題の解答に必要なことに目を向けさせ、自分の解答は何を利用しているのかを明確にさせることで「おおむね満足できる」状況（B）を達成できるよう指導をしました。

1番早く来る人が7時42分で1番遅く来る人が8時20分です。また、7時50分までに来る人が一番多いです。8時までに来る人が多いです。

図5 生徒の記述例（一部抜粋）

1年生は平均値が8時なのでそれまでに来ている人が多いと思います。中央値は8時なので、8時周辺に来ている人が多いと思います。

図6 生徒の記述例（一部抜粋）

資料から代表値を数値として捉えることはできています。そこで、数値に下線を引き、それぞれが何を表しているのか具体的に記述させました。

この生徒は代表値を用いて解答していますが、捉え方が不十分です。ノート等を用いて代表値の意味を振り返らせ、よりの確な表現を考えさせました。

## 3 今後の学習評価に向けて

今回は「資料の活用」での実践でしたが、思考力や表現力を育てるためには、学年や単元・領域に関わりなく考えの根拠や着想を問うことが大切です。また、本実践では考えをもつ場面を中心に評価を行いました。複数の解法を比較するなどして、考えを深める場面での評価も重要です。基礎的・基本的な知識や技能の習得は大切ですが、同時に既習事項の活用を意図した「思考・判断・表現」を求める学習活動を積極的に取り入れていくことが重要です。そのためにはそうした授業を意図的に計画し、単元全体を総合的に捉えた指導と評価の計画を作成することが大切です。



## 1 学習評価のポイント

理科においては、これまで「科学的な思考」としてきた観点が「科学的な思考・表現」に改められました。また、「表現」については、「科学的に探究する過程において思考・判断したことを表現すること」として捉えられるようになりました。

本観点の評価に当たっては、生徒が自然の事物・現象の中に問題を見だし、目的意識をもって観察、実験を行い、その結果を分析して解釈する学習活動や科学的な概念を使用して考えたり説明したりするなどの学習活動において生徒の学習状況を捉えるようにします。そのために、次の視点で分析するようにします。

- ・観察、実験記録やデータを適切に反映させた結論が導き出せているかどうか。
- ・考察の過程において論理的に矛盾や飛躍がないかどうか。
- ・用語や図などを適切に用いて考察の過程が表現できているかどうか。

## 2 学習評価のポイントを踏まえた学習指導と評価の実際

ここでは、第3学年「満ち欠けしてかがやく金星」の実践事例を基に、「科学的な思考・表現」の評価と言語活動の一体化を図るために、どのように言語活動を設定し、その活動からどのようにして「考察の過程を用語や図などを適切に用いて表現する」について学習評価を行うかについて示します。

### 1 単元名 地球と宇宙（第3学年）

### 2 目標

- ・太陽の様子、月の運動と見え方、惑星と恒星に関する事物・現象に進んで関わり、それらを科学的に探究しようとするとともに、自然環境の保全に寄与しようとする。  
〔自然事象への関心・意欲・態度〕
- ・太陽の様子、月の運動と見え方、惑星と恒星に関する事物・現象の中に問題を見だし、目的意識をもって観察、実験などを行い、太陽の観察記録や資料に基づく太陽の特徴、月の観察記録や資料に基づく月の公転と見え方との関連、観測資料などに基づく惑星の見え方と太陽系の構造との関連などについて、自らの考えを導いたりまとめたりして表現することができる。  
〔科学的な思考・表現〕
- ・太陽の様子、月の運動と見え方、惑星と恒星に関する観察などの基本操作を習得するとともに、観察の計画的な実施、結果の記録や整理、資料の活用の仕方などを身に付けることができる。  
〔観察・実験の技能〕
- ・太陽の特徴、月の公転と見え方との関連、惑星と恒星などの特徴、惑星の見え方と太陽系の構造との関連について基本的な概念を理解し、知識を身に付けることができる。  
〔自然事象についての知識・理解〕

### 3 評価規準

自然事象への関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解
・太陽の様子、月の運動と見え方、惑星と恒星に関する事物・現象に進んで関わる	・太陽の様子、月の運動と見え方、惑星と恒星に関する事物・現象の中に問題を見	・太陽の様子、月の運動と見え方、惑星と恒星に関する観察などの基本操作を習得	・太陽の特徴、月の公転と見え方との関連、惑星と恒星などの特徴、惑星の

り、それらを科学的に探究しようとするとともに、自然環境の保全に寄与しようとしている。	いだし、目的意識をもって観察、実験などを行い、太陽の観察記録や資料に基づく太陽の特徴、月の観察記録や資料に基づく月の公転と見え方との関連、観測資料などに基づく惑星の見え方と太陽系の構造との関連などについて、自らの考えを導いたりまとめたりして表現している。	するとともに、観察の計画的な実施、結果の記録や整理、資料の活用の仕方などを身に付けている。	見え方と太陽系の構造との関連について基本的な概念を理解し、知識を身に付けている。
--	---	---	--

#### 4 指導と評価の計画（全9時間）

次	時	主な学習活動	評価の観点				評価規準及び評価方法
			関	思	技	知	
一	1, 2	○日によって、月の形や位置が変化するかを調べる。 ・観測3「月の形と位置の変化を調べてみよう」の結果を発表する。  ・観測3の結果及びモデルを用いて、太陽、月、地球の位置関係の変化によって月の満ち欠けや変化が起きることを調べ、ワークシートにまとめる。	○	◎			<p>評価計画には、◎と○の2種類を記しています。</p> <p>◎は、評価規準に照らして、全員の学習状況を見取り記録に残す評価です。これは単元の総括の資料となります。</p> <p>○は、評価規準に照らして、判断した結果を指導に生かす評価です。「おおむね満足できる」状況（B）であるかどうかを判断し、「努力を要する」状況（C）の生徒に対して適切な支援を行うとともに、「十分満足できる」状況（A）と判断できる生徒を把握し、必要に応じて記録に残して総括の参考資料とします。</p>
	3	○太陽、月、地球の位置関係を基に、日食、月食の現象を理解する。 ・ワークシートの図を基に日食、月食の起こる仕組みをまとめる。					
二	1, 2	○太陽系の天体の特徴を調べて、発表する。 ・資料集等を基に、惑星の軌道や大きさなどの特徴について話し合いながらまとめる。		○			・太陽系の天体の特徴について、資料集等を用いながらまとめている。 (行動の様子、ワークシートの記述)
	3	○惑星や衛星、小惑星などについて調べたことを発表し、それぞれの天体の特徴をまとめる。 ・地球型惑星と木星型惑星について話し合いながらグループに分ける。 ・衛星や小惑星の特徴を理解する。			○		・太陽系の天体の特徴に基づいて分類している。 (行動の様子)  ○ ・衛星や小惑星の特徴を理解してまとめている。 (ワークシートの記述)
	4	○地球から見た惑星の動きについて理解する。 ・金星が真夜中に観察できない理由をモデルを用いながら調べる。	○				・地球からの金星の見え方をモデルを用いて調べている。 (行動の様子)



	<ul style="list-style-type: none"> <li>金星の複雑な動きについて理解する。</li> </ul>				◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>金星が星座の間を動いていくように見えるのは、地球と金星の公転周期の違いによって起こることを理解している。 (ワークシートの記述)</li> </ul>
5 本 時	<ul style="list-style-type: none"> <li>○金星がどのように満ち欠けし、いつ、どの方向に見えるかを調べる。</li> <li>金星の見かけの大きさや形の変化などを地球と金星の位置関係から説明する。</li> </ul>				◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>地球から見た金星の見かけの大きさや形の変化を、太陽、金星、地球の位置関係の変化と関連付けながら捉えて説明している。 (行動の様子、ワークシートの記述)</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>○内惑星と外惑星の見え方の違いを理解する。</li> <li>単元のまとめを行う。</li> <li>単元のまとめのテストを解く。</li> </ul>				◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>火星の見え方と比較をすることで、内惑星と外惑星の見え方の違いを理解している。 (ワークシートの記述)</li> </ul>

## Point1 科学的な思考力・表現力を高める問題解決の過程を設定する

「科学的な思考・表現」の観点の趣旨には、「自然の事物・現象の中に問題を見だし、目的意識をもって観察、実験などを行い、事象や結果を分析して解釈し、表現している」とあります。理科の「思考力・表現力」の評価に当たっては、目的意識をもって観察、実験に取り組み、得られた結果を基に、目的や仮説と関連付けながら多面的、多角的に考察する場面を意図的に設定することが大切です。

なお、評価の場面については、次の二つが考えられます。

- 1 予想・仮説をもつとともに、変化の要因に目を向け、推論したり条件制御したりして予想・仮説を検証する計画を立てる場面
- 2 観察、実験の結果を予想・仮説に照らし合わせ、結論を導く「考察」の場面  
特に、「考察」の場面においては、観察、実験の結果を根拠に、自らの言葉で結論を述べる活動の充実が課題です。

## Point2 表現内容が「課題に対しての結論になっているか」で評価する

理科における言語活動では、思考したことを文字や記号、式として表現するだけでなく、イメージ図や立体的なモデルを用いて視覚に訴える表現を行うのが特色です。こうした表現を通して、目に見えない自然事象が推論によって説明できたり、長大なスケールの自然事象が擬似的な再現によって説明できたりします。


そこで留意したいのは、表現内容が「課題に対しての結論」となっており、かつ「説明として分かりやすいものか」という視点で評価することが大切です。本実践では、金星の公転軌道上における地球と太陽の位置関係をモデル化することで再現します。そして立体的なモデルを用いて観察した、地球から見た金星の満ち欠けの様子と大きさをワークシートに記録し、それを言葉で説明する場面を設定しています。

## 5 本時案 (第二次 第5時)

### (1) 本時の目標

地球から見た金星の見かけの大きさや形の変化を、太陽、金星、地球の位置関係の変化と関連付けながら捉えて説明することができる。

(2) 展開

学 習 活 動	教 師 の 支 援	学 習 評 価
<p>1 太陽、金星、地球の位置関係を確認する。</p> <p>2 本時の目標を確認する。</p>	<p>○実際に観測した金星の太陽面通過時の映像を示しながら金星に興味をもたせるとともに、太陽、金星、地球の位置関係を確認する。</p>	<div data-bbox="1070 338 1457 943" style="border: 1px solid purple; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;"><b>Point1</b></p> <p>科学的な思考力・表現力を高める問題解決の過程を設定する</p> <p>月の満ち欠けの学習内容を想起し、比較することを通して金星の満ち欠けについて予想させます。その後、実際にモデルを用いて、地球から見た金星の満ち欠けと大きさの変化の仕組みを説明する活動を設定しています。</p> </div>
<div data-bbox="185 506 1046 562" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>金星がどのように満ち欠けし、いつ、どの方向に見えるかを調べよう。</p> </div> <p>3 観察の計画について話し合い、観察方法を確認する。</p> <p>4 金星の満ち欠けと、見かけの大きさが変化する仕組みを調べる。 ・金星がワークシート上の8か所にあるときの地球からの見え方を、球を使ったモデルで考え、ワークシートに記録する。</p>	<p>○金星は太陽の光を反射している面だけが光っていることを踏まえて、金星に見立てた球を正しく置くように指示する。</p> <p>○地球からの見え方を記録するので、観察者の視点に注意するように指示する。</p> <p>○筒を用いながら観察することで、満ち欠けとともに大きさの比較を行わせ、ワークシートに記録させる。</p> <p>○机間指導を行いながら、観察のポイントがつかみにくい生徒に対して、グループ内でアドバイスするよう指示する。</p>	
<div data-bbox="140 1144 1054 1496" style="border: 1px solid purple; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p><b>Point2</b> 表現内容が「課題に対しての結論になっているか」で評価する</p> <p>本実践では学習活動4において、モデルを基に金星がいつ、どの方向に見えるかを長大な空間をイメージしながらワークシートにまとめる場面を設定しています。その際、金星の形の変化だけでなく、地球から見た場合の見かけの大きさの変化にも着目させるようにします。また、学習活結果を基にグループ内で金星の見え方について説明することにより、理解をより深める活動を行っています。</p> </div>	<p>○筒を用いながら観察することで、満ち欠けとともに大きさの比較を行わせ、ワークシートに記録させる。</p> <p>○机間指導を行いながら、観察のポイントがつかみにくい生徒に対して、グループ内でアドバイスするよう指示する。</p>	 <p>モデルを用いた金星の満ち欠けの観察</p>
	<p>5 観察結果を基にグループ内で、満ち欠けの仕組みを説明し合う。</p> <p>6 数名の生徒の発表を基に、金星の満ち欠けの仕組みと大きさの変化を確認し、本時のまとめをする。</p>	<p>○机間指導を行いながら、満ち欠けの様子と大きさに着目した説明ができているかを確認する。</p> <p>○地球上における観察者の位置に着目させ、前時までの学習内容と照らし合わせながら、金星が明け方と夕方に観測できることに気付かせるとともに、ワークシートに大きさや形を記録させる。</p> <p>○黒板にワークシートと同じ図を用意し、金星の満ち欠けと大きさを確認させながら、ワークシートにまとめさせる。</p>

### (3) 板書計画

**目標** 金星がどのように満ち欠けし、いつ、どの方向に見えるかを調べよう。

日の入りの頃、西の方向に見える。

- A 太陽と同じ方向にあるため見えない。
- B 見える部分は多いが、遠いため小さい。
- C 見える部分が半分くらい。
- D 見える部分は少ないが、近いため大きい。

日の出の頃、東の方向に見える。

- E 反射している部分が地球から見えない。
- F 見える部分は少ないが、近いため大きい。
- G 見える部分が半分くらい。
- H 見える部分は多いが、遠いため小さい。

## 6 指導と評価の実際

### (1) 「おおむね満足できる」状況 (B) と判断した生徒の様子

#### 《判断のポイント》

◆本実践では、太陽、金星、地球の位置関係を示すモデルを用いて、金星の満ち欠けの様子と大きさを図で表しました。そして、「それぞれの場所に金星があるとき、いつ、どの方向にどれくらいの大きさで見える(結論)」という考察の型を踏まえていることを前提に、次の観点から生徒の記述を分析しました(図1)。

- ・観察結果を適切に反映させた結論を導き出しているかどうか。
- ・観察結果と結論との間に論理的に矛盾や飛躍がないかどうか。

・距離によって大きかったり、小さかったりする。  
 ・地球と太陽を結ぶ線にあると見えない。(A, E)  
 ・日の入るときは西側に、日の出るときは東側に見える。  
 (B, C, D) (F, G, H)

**Point2** を踏まえて、金星の大きさの変化及び見える時間帯と方向を記述することができています。グループ内での説明活動では、実際にモデルを示しながら説明するように促します。

図1 「おおむね満足できる」状況 (B) と判断した生徒の考察例

### (2) 「十分満足できる」状況 (A) と判断した生徒の様子

#### 《判断のポイント》

◆「十分満足できる」状況 (A) の判断の目安として、次の観点が捉えられているかどうかで判断しました(図2)。

- ・太陽、金星、地球の位置関係を基に説明をするという結論とともに、金星と月の満ち欠けの様子を対比しながら「根拠を示し、比較しながら説明ができています」こと。

月と比較をしながら、太陽、金星、地球の位置関係と金星の大きさの変化及び見える時間帯と方向を正しく記述することができています。

月は大きさが変わりませんが、金星は大きさが変わるということがわかりました。  
 月は地球のまわりを1周すると月に新月があり、見えなくなるときがあります。  
 金星は、地球と金星との間に太陽があると、光っている部分が地球から見えないと、見えなくなるといことがわかりました。また、月は、南の空に見えることや、真夜中に見えることがありますが、金星は、日の入りのときに西、日の出るときに東から見えないことがわかりました。

図2 「十分満足できる」状況 (A) と判断した生徒の考察例



### (3) 「努力を要する」状況（C）が生じないように行った支援

#### 《具体的な支援1》

◆ワークシートへの記入が滞りがちな生徒には、個別指導を行うとともにグループ内で協力して学習に取り組むよう促しました（図3）。三次元のモデルを二次元で記録するためには、地球から見た金星の満ち欠けの様子を観察する視点とモデル全体を俯瞰する視点という二つの異なる視点を意識させる支援が必要になります。その後、月の満ち欠けの学習の際に利用したワークシートと比較をしながら、理解を促すようにしました（図4）。



図3 協力しながら学習に取り組む様子



図4 ワークシートを見直す生徒

#### 《具体的な支援2》

◆机間指導を行っている際に、ワークシートの記述に、課題に対する結論が示されていないため（図5）、いつ、どの方向に見えたかを再度モデルを用いながら説明をしました（図6）。その結果、なぜ金星が真夜中に観測できないかを理解させることができました。

見え方は月と同じだったけど、真夜中に見えないところが月と違った。モデル実験は分かりやすかった。

図5 「努力を要する」状況（C）と判断した時点での生徒の考察例

天体の学習は、縮尺・視点・時間の3要素を組み替えながら、実際に自分が観察した天体と授業で提示されるモデルを結び付けて考察し、規則性を考えなければならないため、生徒にとっては理解が難しい単元の一つとなっています。本実践のようにモデルを用いたり、映像資料等を活用したりしながら理解を促すことが重要です。



図6 個別指導の様子

## 3

### 今後の学習評価に向けて

理科の柱である観察、実験を行わせるに当たっては、目的に合わせて予想を基に条件を設定するとともに、予想を確かめるために変数やそろえる条件を考慮して観察、実験を計画する学習活動の充実を図る必要があります。「科学的な思考・表現」の評価を行うに当たっては、結果と考察を的確にかき分ける指導を行うことが大切です。そのためには、考察に迫ることができる適切な「問い」を準備しておくことが必要です。

また、理科の学習においてはグループで観察、実験を行うことが多く、行動の様子を観察するだけでは、グループの誰が、どの程度の力をもっているかを適切に評価することが難しいと考えられます。そこで、個別に配付したワークシートの記述内容を基に評価をすることが重要です。いずれにしても、理科では「目的意識をもって観察、実験などを行い・・・」と目標に示されているように、観察、実験の目的や意義を明らかにし、課題に対する結論を示すことが大切です。



## 1 学習評価のポイント

音楽科では、鑑賞における評価の観点は、「音楽への関心・意欲・態度」と「鑑賞の能力」の二つになりました（表1）。これまでの、「音楽的な感受や表現の工夫」のうち「音楽的な感受」で見取っていた力も「鑑賞の能力」に含めて評価することになりました。この観点に関する指導では、音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わり、文化・歴史等、音楽の多様性を理解し、そのことが思考・判断に結び付くように、「自分にとって、この音楽はこのような価値がある」といった判断をしながら味わって聴くことができる学習を大切にします。そこで、音楽的な感受に基づきながら解釈したり価値を考えたりして、音楽のよさや美しさを味わって聴いている状況を把握します。

表1 音楽科の評価の観点

	A 表現	B 鑑賞
音楽への関心・意欲・態度	○	○
音楽表現の工夫	○	
音楽表現の技能	○	
鑑賞の能力		○

## 2 学習評価のポイントを踏まえた学習指導と評価の実際

ここでは、第1学年「声や音楽の特徴から、それぞれの曲の魅力を感じ取ろう」の実践事例を基に、鑑賞領域で構成した題材の中で、どのようにして観点ごとの学習評価を行うかについて示します。学習評価については、特に「鑑賞の能力」を取り上げ、具体的に示します。

### 1 題材名 声や音楽の特徴から、それぞれの曲の魅力を感じ取ろう（第1学年）

### 2 目標

- 我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴に関心をもち、それらを感じ取り、対比するなどして、それぞれの音楽の魅力について考える学習に主体的に取り組もうとする。 [音楽への関心・意欲・態度]
- 我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽において、音楽を形づくっている要素や、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を知覚・感受し、言葉で説明するなどして、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができる。 [鑑賞の能力]

### 3 評価規準

音楽への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
①我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴に関心をもち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。 ②我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴を感じ取り、対比するなどして、それぞれの音楽の魅力について考える学習に主体的に取り組もうとしている。	①我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽において、音楽を形づくっている要素や、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を知覚・感受し、言葉で説明するなどして、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。

### 4 教材

- 「ソーラン節」 北海道民謡
- 「南部牛追い歌」 岩手県民謡
- 「魔王」 j. W. v. ゲーテ作詞 F. P. シューベルト作曲

## Point1 [共通事項] を関連させた指導

学習指導要領では、音楽的な感受に相当する指導内容を〔共通事項〕として示し、〔共通事項〕を支えとしながら、思いや意図をもって表現したり、味わって聴いたりする力の育成を重視しています。そのため、年間指導計画への位置付けや題材ごとで指導する〔共通事項〕を明確にする必要があります。題材を通して、全ての生徒が共通に学ぶ音楽を形づくっている要素や音楽の仕組み等を評価規準や目標へ明確に位置付け、生徒がそれらを活用する場面を設定します。評価においては、生徒の発言内容や行動の様子、ワークシートの記述等の〔共通事項〕を踏まえた内容に基づきます。中学校における鑑賞の活動では、「音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解して聴き、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと」（第2学年及び第3学年）と学習指導要領に示されています。音楽のよさや美しさなどを味わって聴くことが生徒にとって意味ある学習となるように、〔共通事項〕の学習を支えとして、音楽を解釈したり価値を考えたりする過程を大切にします。このことが、鑑賞における思考力・判断力・表現力を育む学習指導のポイントとなります。

## Point2 音楽の活動を高めるための言語活動の位置付け

音楽科においては、合唱や合奏、グループによる創作や鑑賞の活動に言語活動を位置付けることが考えられます。その際、どのように表すかについて思いや意図を伝え合ったり、他者の考えに共感しながら、全員で一つの音楽をつくったりする指導が大切です。その中で、音楽を形づくっている要素や音楽の仕組みを聴き取り、自分の考えと関連させながら、互いに感じたことを言葉によって伝え合う活動を取り入れることによって、自分では気付かなかった改善点やよさを見付けることができるなど、活動の内容をより高め合うことができます。鑑賞の活動においては、音楽的な特徴などを理由として挙げながら音楽のよさや美しさなどについて述べる活動を位置付けて、主体的、創造的に味わって聴くことが重要となります。

## 5 指導と評価の計画（全3時間）

時	主な学習活動	評価の観点				評価規準及び評価方法
		関	創	技	鑑	
1	○「ソーラン節」「南部牛追い歌」のDVDを鑑賞し、それぞれの曲の <u>リズム</u> 、 <u>音色</u> 、 <u>旋律</u> の特徴を感じ取る。	①			①	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの楽曲の音楽を形づくっているリズム、音色、旋律に関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。 (発言の内容、ワークシートの記述)</li> <li>「ソーラン節」「南部牛追い歌」の音楽を形づくっているリズム、音色、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じている。 (発言の内容、ワークシートの記述)</li> </ul>
2	○「魔王」を日本語で鑑賞し、教師から曲についての説明を聞き、「魔王」の音楽的な特徴を理解する。  ○「魔王」をドイツ語で鑑賞して、父、子、魔王のリズム、音色、旋律の特徴を感じ取る。				①	<ul style="list-style-type: none"> <li>「魔王」の音楽を形づくっているリズム、音色、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じている。 (発言の内容、ワークシートの記述)</li> </ul>

**Point1** [共通事項] を関連させた指導  
題材の学習全体を貫いて扱う〔共通事項〕を明らかにしておくことが重要です。

本事例では、導入時の「音楽への関心・意欲・態度」と終末時の様子を比較できるようにし、題材を通しての高まりを見取ることができるよう設定しています。



3 本時	○再度「ソーラン節」「魔王」をDVDで鑑賞し、それぞれの曲のリズム、音色、旋律の特徴について理解する。	②				・「ソーラン節」や「魔王」の音楽的な特徴を感じ取り、対比するなどして、それぞれの音楽の魅力について考える学習に主体的に取り組もうとしている。 (発言の内容、ワークシートの記述)
	○「ソーラン節」「魔王」から感じ取ったそれぞれの曲のよさを、リズム、音色、旋律に意識しながら、紹介文を書く。					①

## Point2

### 音楽の活動を高めるための言語活動の位置付け

生徒が自分の思いや意図を伝え合う手法として、ワークシートを工夫して提示することが考えられます。イメージを具体化するために、絵やデザイン(図1)、体を動かす活動などを取り入れることは、個人やグループで考えたことを具体的に表現することができる有効な手段として考えられています。鑑賞においては、題材を貫いて扱う〔共通事項〕を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取ったものをワークシート(図2)に記入させ、グループ協議や紹介文を書く際に活用することがよいでしょう。

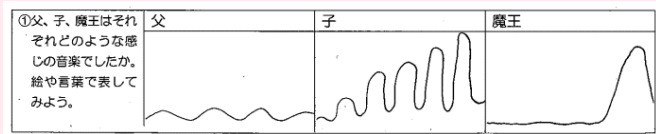


図1 絵や図を用いたワークシート

【それぞれの役割による旋律の雰囲気や歌い方の違いを感じ取りながら聴こう】

①父、子、魔王はそれぞれどのような感じの音楽でしたか。絵や言葉で表してみよう。	父	子	魔王
②そのような感じしたのは、音楽のどのようなところからですか。	魔王に気がいらないから、普通に会話をしているような感じだった。	最初は弱そうなお声だったけど、最後は大きな声になっていた。	ほとんど喋りてお声だったけど、最後は低い声だった。ここは強い男の子だった。
リズム	ゆっくりしたリズムで歌い方	最初はゆっくりだったけど、だんだん速いリズムになった。	早口だった。
音色	普通に会話をしているような声で、子どもの声と真逆だった。	弱そうなお声	低い声、高い声
旋律	ゆっくりしたリズムで、声も高くはない、低くもない、普通の声だった。	最初の「おとうさんちのせん」の歌詞は一緒に歌ったけど音が全然違った。	高い声だったけど、最後はとて低く声だった。


図2 授業で使用したワークシート

## 6 本時案(第3時)

### (1) 本時の目標

- ・「ソーラン節」や「魔王」の音楽的な特徴を感じ取り、対比するなどして、それぞれの音楽の魅力について考える学習に主体的に取り組むことができる。
- ・「ソーラン節」や「魔王」の音楽を形づくっているリズム、音色、旋律や、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を知覚し、言葉で説明するなどして、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができる。

### (2) 展開

学習活動	教師の支援	学習評価
1 前時までの内容を振り返り、本時の活動内容を知る。	○前時までのワークシートを見ながら、「ソーラン節」と「魔王」の音楽的な特徴について振り返らせ、本時の学習課題を提示する。	

声や音楽の特徴から、それぞれの曲の魅力について考え、紹介文を書こう。

2 音楽を形づくっているリズム、音色、旋律に注目しながら、「ソーラン節」「魔王」をDVDで鑑賞し、音楽的な特徴を個人でワークシートにまとめる。

3 二つの曲の音楽的な特徴を基に、それぞれの楽曲の魅力が伝わる紹介文を書き、発表する。

(1) 個人で書く。

(2) グループ内で発表する。

(3) グループで出た意見を全体で発表する。

4 題材のまとめをする。



○前時までのワークシートも参考にしながら、音楽を形づくっているリズム、音色、旋律に注目して鑑賞するよう助言する。

○二つの曲の音楽的な特徴として異なるところ、似ているところや、曲の特徴を生かして演奏者がどのような歌い方をしていたかに注目して記述するよう助言する。

○グループ内で紹介文を発表し合い、他の人の紹介文を聞いて、どのように感じたかを話し合うことで、互いに思いや考えを共有できるようにする。

○グループごとに一人ずつ紹介文を発表し、それを聞いてどのように感じたかを同じグループの別の生徒に発表させる。

○題材全体を振り返らせ、的確に内容を捉えているものを発表させ、全体で共有させる。

・我が国の音楽文化に愛着をもつとともに、他国の音楽文化を尊重することについて説明し、題材のまとめとする。

○「ソーラン節」や「魔王」の音楽的な特徴を感じ取り、対比するなどして、それぞれの音楽の魅力について考える学習に主体的に取り組もうとしている。

〔音楽への関心・意欲・態度〕  
(ワークシートの記述、発言の内容)

○「ソーラン節」や「魔王」の音楽を形づくっているリズム、音色、旋律や、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を知覚・感受し、言葉で説明するなどして、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。

〔鑑賞の能力〕  
(ワークシートの記述、発言の内容、行動の様子)



### (3) 板書計画

声や音楽の特徴から、それぞれの曲の魅力を感じ取ろう  
-「ソーラン節」「魔王」を聴いて-

目標  
声や音楽の特徴から、それぞれの曲の魅力について考え、紹介文を書こう。

- ・音楽的な言葉を使って、自分が感じた声や音楽の特徴を、言葉で表現しよう。
- ・「ソーラン節」と「魔王」の曲の魅力について考え、友達に紹介しよう。

**聴くポイント**

リズム	は(か)り～
音色	は(か)り～
旋律	は(か)り～

→ なので、私は○○感じました。  
○○は、美しい、明るい、軽やか  
など、質感を表す言葉を使おう。

**ポイント**  
自分のイメージと関連させる

速度
形式
強弱
構成
テクスチャ

#### Point1

〔共通事項〕を関連させた指導

題材内で扱う〔共通事項〕は板書カードにしておき、教師や生徒が適宜活用できるような工夫をしておきます。

## 7 指導と評価の実際

### (1) 「おおむね満足できる」状況 (B) と判断した生徒の様子

#### 《判断のポイント》

- ◆ 「ソーラン節」と「魔王」の曲の特徴の違いを比較し、リズム、音色、旋律など音楽を形づくっている要素や、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を知覚・感受し、具体的に言葉で説明している紹介文が記入できている場合に「おおむね満足できる」状況 (B) としました (図3)。

ソーラン節は、拍節的なリズムでリズムをとりやすい。音色は、<sup>アコ</sup>田とたいこと弦楽器(三味線に似ている)音がきこえた。旋律は、とても長い引きのぼしはなかった。少しの引きのぼしでは、声が少しふるえていた。同じメロディーが何回もきこえた。音の高低差があまりない。波やかむめなど海に関する言葉もたくさんでていて、漁師や海について書かれた曲というイメージが強い。

魔王は、ソーラン節と同じで拍節的なリズムだが、ソーラン節のようにリズムはとりやすい。音色は、ピアノのみだった。旋律は、1人1人の役で声の高さと歌い方が違っていた。語り手は、客観的に見ているので落ちついた低い声。父は、子どもをなぐさめるように、優しく話しかけていた。4人の中で一番声が低い。子どもは、どんどん不安でこわくなり、父にひしひしと呼びかけていた。声が高くなっていた。魔王は、子どもに優しい声で語りかけていたので声が高い。ぜひ聞いてみてください。

図3 「おおむね満足できる」状況 (B) と判断したワークシートの記述例

### (2) 「十分満足できる」状況 (A) と判断した生徒の様子

#### 《判断のポイント》

- ◆ 「ソーラン節」と「魔王」の曲の特徴の違いを比較し、リズム、音色、旋律など音楽を形づくっている要素や、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を知覚・感受し、より具体的に根拠をもって言葉で説明できている紹介文が記入できている場合に「十分満足できる」状況 (A) としました (図4)。

ソーラン節は、日本の伝統的な音楽を演奏しています。音色は、いろんな楽器が聞こえて、明るく華やかで、少しさわがしいお祭り気分を感じます。夏祭りとかで歌ったりするんじゃないかなと思います。お祭りみたいだと思った理由は、こぶしが多いこと、たくさんのお祭りで演奏していること、かけ声が入りやすいことだと思います。「魔王」は、1人で4役くらい演じて歌っている。「ソーラン節」はみんなのいっしょと歌っている感じがします。手拍子でもと盛り上がりやすいです。

魔王は、悲しい感じがします。ソーラン節とは反対で、ピアノで演奏します。そして、1人で4役の声をだして歌います。音色は、感情やその場面の様子が分かるように歌っていて、歌う人の表情でも分かります。例えば、おどろかしている時は、恐怖を目を見開いて、声が高くなっています。リズムは、細かいリズムで、鳥が速いスピードで飛んでいる感じが分かります。旋律は、長めで、恐怖を誘う感じがよく伝わってきます。お祭りの時は低めで、子どもの時は高めで、

ぜひ聞いてみてください。

図4 「十分満足できる」状況 (A) と判断したワークシートの記述例

### (3) 「努力を要する」状況 (C) と判断した生徒に対して行った支援

#### 《具体的な支援》

- ◆ この題材で扱う〔共通事項〕の音楽を形づくっている要素(リズム、音色、旋律)について感じ取ったことを、上手く言葉で表現しにくい生徒に対して、それぞれの言葉の説明を机間指導等を利用して行いました。そして、音楽を聴いて感じ取ったことを表現する際に、音楽的な言葉をどのように使えばよいのか、使い方が正しいのかということに不安な生徒がいました。そこで、次の三つのステップで支援を行いました。

- ①音楽を形づくっている要素について気付いたことや感じたことを全体で共有する場面を設定し、確認しました。
- ②曲を聴き、イメージしたものを言葉で表現しにくい生徒に対して、絵や線、図形を用いて説明させ、具体的にどのような言葉を使えばいいのかアドバイスをしました。

③この題材のまとめとして、友達に「ソーラン節」と「魔王」の紹介文を書く学習をしました。その際、グループ内で発表した後に加筆・修正をする時間を設定しました。友達の紹介文や自分に対する意見を聴くことにより、具体的にどのようなことを書けばよいのか確認することができました。

これらの支援を行うことにより「おおむね満足できる」状況（B）を達成できるようになりました（図5～7）。

【日本の民謡の声や音楽の特徴を感じ取って聴こう】

	ソーラン節	南部牛追い歌
①どのような感じの音楽でしたか。絵や言葉で表してみよう。		
②そのように感じたのは、音楽のどのようところからですか。	リズム (拍や拍子、拍節的なリズムから)	
	音色 (音の感じや歌い方の特徴など)	女性と男性が歌っていた 男性1人
	旋律 (音のつながり方、旋律線など)	コブシ

図5 「努力を要する」状況（C）と判断し、支援を行った生徒のワークシートの記述

【それぞれの役割による旋律の雰囲気や歌い方の違いを感じ取りながら聴こう】

	父	子	魔王
①父、子、魔王はそれぞれどのような感じの音楽でしたか。絵や言葉で表してみよう。	あまりかわらない	こわがっている感じ	いろいろわかる
②そのように感じたのは、音楽のどのようところからですか。	リズム		途中かわった
	音色		さそう感じ こわい
	旋律	かわらない	声が高くなったり低くなったりしていた

図6 「努力を要する」状況（C）と判断し、支援を行った生徒のワークシートの記述

ソーラン節は、男性と女性が歌っていて、掛け声が入っているのが特ちょうです。楽器は和太鼓を使っていて、手拍子ができるようなリズムです。同じ旋律が続いていました。

魔王は、旋律が高くなったり低くなったりします。父の声は強い感じで、子はこわがっていて、魔王はやさしい声で子に話しかけていました。

ぜひ聴いてみてください。

図7 「おおむね満足できる」状況（B）と判断した生徒のワークシートの記述

音楽を形づくっている要素（今回はリズム、音色、旋律）を知覚し、その要素の働きによってどのような質感や雰囲気を感受したのかを確認し、結び付けていくことを意識させました。そうすることにより、イメージと要素が関連付けられるようになり、少しずつですが、グループ内で意見が発表できるようになりました。

### 3 今後の学習評価に向けて

今回の改訂で、言葉で説明する活動が重視されました。「言葉で説明する」とは、音楽を形づくっている要素や構造などを理由として挙げながら音楽のよさや美しさなどについて述べることです。その際、対象となる音楽が、自分にとってどのような価値があるのかを明らかにすることが重要です。音楽について言葉で表すことは、生徒にとって、音楽によって喚起された自己のイメージや感情を意識し、確認することにつながります。また、その過程で音楽に対する感性が豊かに働くようにする必要があります。そのためには、生徒が音楽活動を通して音楽に関する用語やその意味などを知り、それらを適切に用いて表すことができるように指導することが大切です。





## 1

### 学習評価のポイント

美術科では、「A表現」の指導内容が「発想や構想の能力」と「創造的な技能」の観点から整理され、指導内容と評価の関係が明確に示されました。表現や鑑賞の各題材においてどのような力を身に付けさせたいのかを4観点から一層明確にし、そのための具体的な指導と評価の手だてを設定していくことが求められています。

学習指導要領の改訂により、美術科において領域や項目などに共通する資質や能力が〔共通事項〕として示されるとともに、言語活動をこの〔共通事項〕の視点なども活用しながら充実させることが求められています。〔共通事項〕は、生徒の活動を具体的に捉え、美術科の基礎的な能力を育て、表現活動や鑑賞活動を豊かにするために設けられたものです。形や色、イメージなどの〔共通事項〕の視点から生徒の学習内容を明らかにし、目標が達成された状況を具体的な姿で想定して見取っていくことが大切です。

#### 〔共通事項〕

- ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。
- イ 形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。

## 2

### 学習評価のポイントを踏まえた学習指導と評価の実際

ここでは、第2学年「和心・気心で描こう！—日本美術の表現に挑戦—（墨の濃淡や筆の勢い、余白の学びを通して作品を制作し、掛け軸や屏風に表装する題材）」の実践事例を基に、形や色、イメージなどの〔共通事項〕の視点から生徒の学習内容を明らかにし、どのように言語活動を設定し、その活動からどのように学習評価を行うかについて示します。

#### 1 題材名「和心・気心で描こう！—日本美術の表現に挑戦—」（第2学年）

#### 2 目標

- ・材料や技法、掛け軸や屏風の特性を生かし表現方法を工夫して表現しようしたり、日本の美術の特性や表現方法に関心を持ち、主体的に日本の美術文化を理解しようとしたりする。  
〔美術への関心・意欲・態度〕
- ・材料や技法、掛け軸や屏風の特性を生かしたり、遠近や余白を意識したりしながら主題を生み出し、創造的な構成を工夫し、心豊かな表現の構想を練ることができる。〔発想や構想の能力〕
- ・材料や用具の特性を生かし、表したいイメージをもちながら自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして創造的に表現することができる。〔創造的な技能〕
- ・作品の形や色彩などの特徴や印象などから全体の感じ、本質的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り、日本の美術や伝統と文化のよさなどを味わうことができる。〔鑑賞の能力〕

#### 3 評価規準

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
<b>表現</b> 関①材料や技法、掛け軸や屏風の特性を生かし表現方法を工夫して表現しようとしている。 <b>鑑賞</b> 関②日本の美術の特性や表現方法に関心を持ち、主体的に日本の美術文化を理解しようとしている。	<b>発</b> 関①材料や技法、掛け軸や屏風の特性を生かしたり、遠近や余白を意識したりしながら主題を生み出し、創造的な構成を工夫し、心豊かな表現の構想を練っている。	<b>創</b> 関①材料や用具の特性を生かし、表したいイメージをもちながら自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして創造的に表現している。	<b>鑑</b> 関①作品の形や色彩などの特徴や印象などから全体の感じ、本質的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り、日本の美術や伝統と文化のよさなどを味わっている。

## Point1

### 〔共通事項〕の視点で生徒の姿を具体的に捉えること







学習指導要領で設定された〔共通事項〕は、生徒の活動を具体的に捉え、美術科の基礎的な能力を育て、造形活動や鑑賞活動を豊かにするために設けられました。そこで、表現や鑑賞の各題材について、そのねらい、生徒の学習活動、指導方法などを〔共通事項〕の視点で見直すとともに、生徒の具体的な活動を考えながら指導を工夫し改善することが求められています。例えば、一つの題材の評価規準を考える際に、形や色、イメージなどの〔共通事項〕の視点から生徒の学習状況を明らかにし、目標が達成された状況を具体的に設定していくことが大切です。具体的には「工夫して表すことができる」としていた評価規準を、「形や色、光などの効果を生かして構成やアングルなどを工夫して表すことができる」といったように、〔共通事項〕を手がかりに具体的な活動へと見直してみることが大切です。

## Point2

### ねらいを達成するための言語活動を位置付け見取ること

美術科において「思考力・判断力・表現力」を育成していくためには、主に「発想や構想の能力」や「鑑賞の能力」を働かせる場面において言語活動を適切に位置付け、指導し評価していくことが大切です。その際、ワークシートを活用することは、生徒の学習活動や自己評価において効果的であると同時に、教師による評価として重要な資料にもなります。題材のねらいに即して書き込ませる内容を精選するなど、発達段階を踏まえて「どの題材の何次の何時に位置付けるか」「どの程度の時間を費やすか」などに配慮する必要があります。特に「鑑賞の能力」を働かせる場面では、自分の価値意識をもって批評するなどして、幅広く味わい、より主体的な鑑賞の能力を高めたり、感想だけでなく、それが作品のどこからそう思ったのかを問うことで、根拠が明確に分かるような形式にしたりすることも大切です。


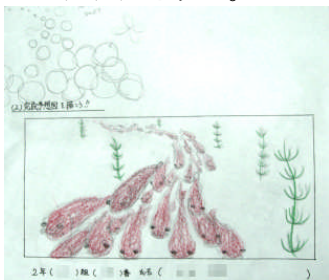
## 4 指導と評価の計画（全12時間）

次時	主な学習活動	評価の観点				評価規準及び評価方法
		関	発	技	鑑	
一	1 ○宮本武蔵 <sup>むさし</sup> の作品を鑑賞する。 ○水墨画の基本を知る。 ・墨の濃淡・技法 2 ○見本を見ながら、練習をする。 ・動植物・風景 3 ○水墨画の本番に挑戦する。 ・次の特徴を美術作品から気付かせ、「気」で描くことを伝える。 [構図, 余白, 勢い] [濃淡, 筆さばき]  4 ○描き上げた作品をミニ掛け軸に表装する。 					<b>表現 関①</b> 材料や技法、掛け軸や屏風の特性を生かし表現方法を工夫して表現しようとしている。 [美術への関心・意欲・態度] (行動の様子, 対話の内容) <b>発①</b> 材料や技法、掛け軸の特性を生かしたり、遠近や余白を意識したりしながら主題を生み出し、創造的な構成を工夫し、心豊かな表現の構想を練っている。 [発想や構想の能力] (行動の様子, 対話の内容, ワークシートの記述, 作品)  <b>創①</b> 材料や用具の特性を生かし、表したいイメージをもちながら自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして創造的に表現している。 [創造的な技能] (行動の様子, 対話の内容, 作品)


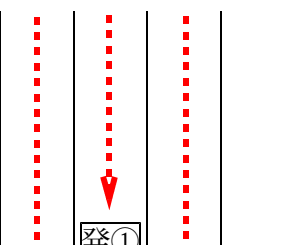



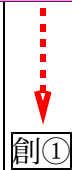
## Point1

### 〔共通事項〕の視点で生徒の姿を具体的に捉えること

〔共通事項〕の形や色、イメージなどの視点に着目し、「よく描けているね」という称賛の言葉を「やわらかなイメージを表すために、墨の濃淡を工夫して、とても効果的に表現できているね」のような具体の姿が分かる言葉にしていくことが大切です。

5	<p>○自分たちの作品について感じたことや思ったことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>互いの作品のよいところを見付け、そう感じた理由を明確にして表現のよさや面白さを伝え合う。</li> </ul> 	鑑賞 関②		<p><b>鑑賞 関②</b>日本の美術作品の特性や表現方法に関心をもち、主体的に日本の美術文化を理解しようとしている。 〔美術への関心・意欲・態度〕 〔行動の様子、対話の内容〕</p> <p><b>鑑①</b> 作品の形や濃淡などの特徴や印象などから全体の感じ、よさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取っている。〔鑑賞の能力〕 〔行動の様子、ワークシートの記述〕</p>
<p style="text-align: center;"><b>言語活動を通して高める鑑賞の能力</b></p> <p>「鑑賞の能力」は、感じたことや思ったことを話したり書いたり、話し合ったりする言語活動を通して高めていくことができます。自分たちの作品を相互に鑑賞する活動では、形や色、イメージなどの〔共通事項〕の視点を意識して鑑賞させることが大切です。本題材では、互いの作品のよいところを見付け、〔共通事項〕を手がかりに表現のよさや面白さを伝え合い、作品を見る視点が見つかるよう工夫しています。</p>				
二 本時	<p>たわらやうたつ ○俵屋宗達「風雷神神図屏風」を鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作品の表現方法の工夫</li> <li>屏風の折れ目の効果</li> </ul>	鑑賞 関②		<p><b>鑑賞 関②</b> 日本の美術作品の特性や表現方法に関心をもち、主体的に日本の美術文化を理解しようとしている。 〔美術への関心・意欲・態度〕 〔行動の様子、対話の内容〕</p> <p><b>鑑①</b> 作品の形や色彩などの特徴や印象などから全体の感じ、本質的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り、日本の美術や伝統と文化のよさなどを味わっている。 〔鑑賞の能力〕 〔行動の様子、ワークシートの記述〕</p>
<p style="text-align: center;"><b>評価の観点を絞る</b></p> <p>1 単位時間の中で評価する観点をできるだけ絞り込むようにします。第二次では授業の後半で「鑑賞の能力」を「関心・意欲・態度」と合わせて見取るようにします。</p>				
三	<p>1 、 2</p> <p>○屏風の特性を生かして、表したい感じが出るような表現方法などを工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>参考作品から作者の心情や意図、表現の工夫を見付ける。</li> <li>ワークシートにアイデアスケッチをする。</li> </ul>  <p>3</p> <p>○友達作品を見合い、一人一人が思いついたことを自由に出し合い、自分のアイデアスケッチを修正する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループで作品を見合い「よいところ」や「アドバイス」を伝え合う。</li> </ul>	表現 関①	発①	<p><b>発①</b> 材料や技法、屏風の特性を生かしたり、遠近や余白を意識したりしながら主題を生み出し、創造的な構成を工夫し、心豊かな表現の構想を練っている。 〔発想や構想の能力〕 〔行動の様子、対話の内容、ワークシートの記述、作品〕</p>
<p style="text-align: center;"><b>発と技は相互に関連、数単位時間の中で評価</b></p> <p>「発想や構想の能力」と「創造的な技能」の表現に関する能力は、相互に関連し合い高まっていくものであることから、数単位時間という期間の中で評価していくことが大切です。その際、前半は特に「努力を要する」状況（C）の生徒の指導に留意し、制作途中の作品を中心に、完成作品からも再度評価し、高まりを読み取ることも大切です。</p> <p style="text-align: center;"><b>ワークシートの活用</b></p> <p>ワークシートは生徒の学習活動の記録や自己評価に活用するとともに、教師が評価する際の重要な資料となります。題材のねらいに即して書き込ませる内容を精選することが大切です。</p>				



<p>4 ○アイデアスケッチを基に作品を制作する。</p> 		<p><b>表現 関①</b> 材料や技法，掛け軸や屏風の特性を生かし表現方法を工夫して表現しようとしている。 〔美術への関心・意欲・態度〕 (行動の様子，対話の内容)</p>
<p>6 ○作品を屏風に表装する。</p>  	<p>屏風の折れから生じる効果や空気遠近法，色彩遠近法，上下遠近法等の遠近の工夫をしたり，自分のイメージに応じた表現方法の工夫をしたりしているかを見取ります。</p>  	<p><b>発①</b> 材料や技法，屏風の特性を生かしたり，遠近や余白を意識したりしながら主題を生み出し，創造的な構成を工夫し，心豊かな表現の構想を練っている。 〔発想や構想の能力〕 (行動の様子，対話の内容，ワークシートの記述，作品)</p> <p><b>創①</b> 材料や用具の特性を生かし，表したいイメージをもちながら自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして創造的に表現している。 〔創造的な技能〕 (行動の様子，対話の内容，作品)</p>

## 5 本時案 (第二次 第1時)

### (1) 本時の目標

- ・日本の美術作品の特性や表現方法に関心をもち，主体的に日本の美術文化を理解しようとする。
- ・作品の形や色彩などの特徴や印象などから全体の感じ，本質的なよさや美しさ，作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り，日本の美術や伝統と文化のよさなどを味わうことができる。

### (2) 展開

学習活動	指導上の留意点	学習評価
<p>1 本時の目標を知る。</p>	<p>○本時の目標を伝えるとともに，前時の学習活動の成果を称賛し，意欲と見通しをもって本時の学習に取り組むことができるようにする。</p>	<p><b>Point1</b></p> <p>〔共通事項〕の視点で生徒の姿を具体的に捉えること</p> <p>描かれているものの形や色，材質や表情，動き等から，作品の雰囲気やイメージ，場面等を考えることを通して作品のよさや特徴に気付くことができているかを見取ります。</p> <p>本題材では屏風の鑑賞を通して，日本美術のよさや特性，表現方法を理解し味わうことができているかも見取っていきます。</p>
<p>2 風神，雷神の正体は何なのか考えて発表する。</p>	<p>○用紙に印刷した風神と雷神を配付し，はさみで切り取り，形やポーズ，表情や服装などから二つの像の正体を想像させ発表する。その際教師は，生徒に根拠を問う(作品名は伏せておく)。</p>	
<p>3 画面の中に風神と雷神をどのように配置するかを考えて，その根拠を二つの像から捉える。また，その場面も想像し，ワークシートに記入する。</p>	<p><b>Point2</b> ねらいを達成するための言語活動を位置付け見取ること</p> <p>○切り取った風神と雷神の像をワークシートの枠に貼り付け，その場所に決定した根拠を記入させる。そしてどのような場面になるかを自由に考えさせ，一人一人が思い付いたことを自由に出し合うことで思いを広げたり，作品のイメージを膨らませたりできるようにする。</p> <p>○発表時に，生徒全員に分かりやすくするために二つの像の拡大コピーを黒板に掲示する。</p>	



<p>言語活動を活用したワークシートの工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○二つの像の位置を試しながら構図を考えさせる。</li> <li>○ワークシートに根拠を記入するよう指示する（根拠を記入する枠を準備することも有効である）。</li> <li>○二つの像の向きや位置、表情やポーズから場面を自由に考えている生徒の意見を共感的に称賛し、意欲を高める。</li> </ul>	<p>ワークシートの例</p>
<p>4 3で考えた構図と場面を発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○風神と雷神の位置を確認させる。そのときに感じたことを発表させ、その根拠も問う。</li> <li>○主体的な発表に応じて、より深まりを考えさせるものや相反する考えのものを意識的に発表させる。</li> </ul>	<p>鑑賞 関② 日本の美術作品の特性や表現方法に関心をもち、主体的に日本の美術文化を理解しようとしている。 〔美術への関心・意欲・態度〕 (行動の様子、対話の内容)</p> <p>鑑賞 関① 作品の形や色彩などの特徴や印象などから全体の感じ、本質的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り、日本の美術や伝統と文化のよさなどを味わっている。 〔鑑賞の能力〕 (行動の様子、ワークシートの記述)</p>
<p>5 風神雷神図屏風を鑑賞する。</p>	<p><b>Point2</b> ねらいを達成するための言語活動を位置付け見取ること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の発言を受容し、復唱することで、教室内で共有し、発表の基になっている根拠を生徒に聞き返し、内容を深めさせる。</li> <li>○生徒の発言に対し、他の生徒から同じ意見や異なる意見等を引き出したり、批評し合わせたりしながら、考えを広げさせたり深めさせたりする。</li> </ul>	<p>鑑賞 関② 日本の美術作品の特性や表現方法に関心をもち、主体的に日本の美術文化を理解しようとしている。 〔美術への関心・意欲・態度〕 (行動の様子、対話の内容)</p> <p>鑑賞 関① 作品の形や色彩などの特徴や印象などから全体の感じ、本質的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り、日本の美術や伝統と文化のよさなどを味わっている。 〔鑑賞の能力〕 (行動の様子、ワークシートの記述)</p>
<p>6 ワークシートに本時の鑑賞で気付いたことや、感じたことについて記入し発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○作品のよさや美しさ、作者の意図や表現の工夫等について記入したものと、日本の美術のよさや特徴等について記入したものを発表させる。</li> </ul>	<p>鑑賞 関② 日本の美術作品の特性や表現方法に関心をもち、主体的に日本の美術文化を理解しようとしている。 〔美術への関心・意欲・態度〕 (行動の様子、対話の内容)</p> <p>鑑賞 関① 作品の形や色彩などの特徴や印象などから全体の感じ、本質的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り、日本の美術や伝統と文化のよさなどを味わっている。 〔鑑賞の能力〕 (行動の様子、ワークシートの記述)</p>
<p>7 学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○次時からは、前時までに学習した水墨画の技法を生かしながらオリジナル屏風を作成することを伝える。</li> </ul>	<p>鑑賞 関② 日本の美術作品の特性や表現方法に関心をもち、主体的に日本の美術文化を理解しようとしている。 〔美術への関心・意欲・態度〕 (行動の様子、対話の内容)</p> <p>鑑賞 関① 作品の形や色彩などの特徴や印象などから全体の感じ、本質的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り、日本の美術や伝統と文化のよさなどを味わっている。 〔鑑賞の能力〕 (行動の様子、ワークシートの記述)</p>

## 6 指導と評価の実際

### (1) 「おおむね満足できる」状況（B）と判断した生徒の様子

#### 《判断のポイント》

- ◆風神と雷神を配置したり作品の場面を考えたりしていく中で、形や色、イメージなど〔共通事項〕の視点で捉え、自分なりに配置した理由を明確にし、場面を想像して考えることができている姿を「おおむね満足できる」状況（B）として主に観察やワークシートなどから捉えました（図1）。
- ◆本時の活動で見取る評価の観点は「鑑賞の能力」が中心であり、作品のよさや特徴、表現方法を感じ取るとともに、日本美術のよさや特性、表現方法も理解し味わっている姿を見取ることが大切です。

(3) AとBはどうしてここだと思った？

AとBが1にらみあっていて思ったから

(4) どんな場面だと思う？

AとBが1にらみあっていてAは雷を使ってる、Bは風を使ってるってこと。

(5) 今日の授業でわかったこと（箇条書きで）

・風神雷神図屏風を鑑賞して作者の人の工夫がよく分かりました。  
・屏風の工夫したとこも分かって、それを考えたよさもすごいと思いました。

ここでは、作品から得た情報から、風神と雷神の位置を想像した理由が考えられ、その場面やイメージをどのように想像したかを自分なりの言葉で記入しているかどうかで評価しています。

図1 生徒の記述例（一部抜粋）

## (2) 「十分満足できる」状況（A）と判断した生徒の様子

### 《判断のポイント》

- ◆「主体的」「継続的」「総合的」などのキーワードを基に質的な高まりが捉えられた状況を、「十分満足できる」状況（A）と判断し、見取るようにしました。例えば、次の生徒（図2）は、発言だけでなくワークシートにおいても、作品を形やポーズ、表情や体格など多様な視点から総合的に考え、根拠も丁寧に取り上げながら自分なりの考えをまとめることができたとして（A）と評価しました。また、今回の実践では、ワークシートの他の項目も含めて総合的に評価しています（図3）。

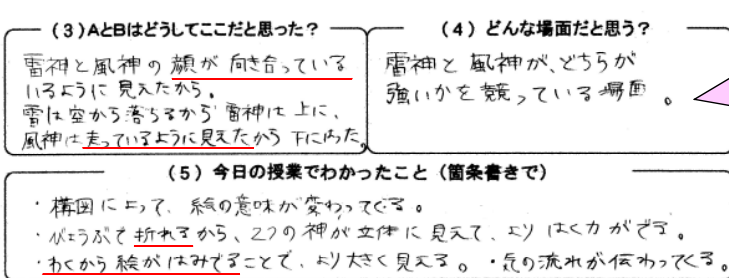


図2 生徒の記述例（一部抜粋）

作品から受けた雰囲気や内容から、生徒は場面を想像します。その時にそう考えた根拠を作品から明らかにし、より具体的に根拠を用いて自分の考えを記入できているかどうかを評価しました。感じたイメージや作者の心情などを、生徒の言葉で表現させ、そう感じたり考えたりした根拠（下線部）を作品の中から探し出し、確認させることが大切です。

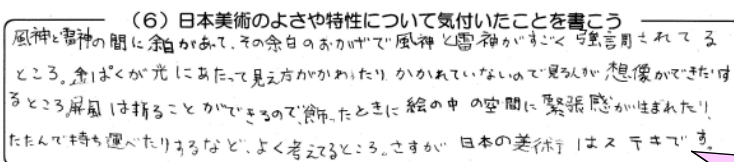


図3 生徒の記述例（一部抜粋）

日本の美術のよさなどを味わい理解しているかを評価しました。「感想を書こう」といった質問では、具体的な評価は難しいので、目標に応じた問いを準備することが大切です。ワークシートの各項目を総合的に判断し、発言内容も含めて評価しています。

## (3) 「努力を要する」状況（C）が生じないように行った支援

### 《具体的な支援》

- ◆本時の「鑑賞の能力」の観点では「努力を要する」状況（C）と判断する生徒がいませんでした。これは、授業者が、次のような深い教材研究に基づいた配慮を十分行っていたからです。
  - ①生徒の予想されるつまづきや悩みを予測し、本時の目標や発問を的確に説明したこと。
  - ②ワークシート記入前に、学級全員での鑑賞を行い、他の生徒の意見を参考に自分の意見を考えたり、まとめやすくしたりすることができていたこと。
  - ③ワークシート記入時に、机間指導から「努力を要する」状況（C）の生徒を確認し、ワークシートへの記入の設問の意味や記入方法を寄り添いながら丁寧に説明したこと。

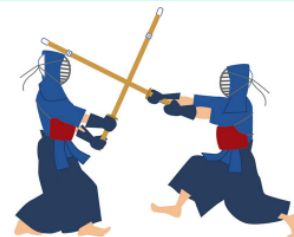
## 3 今後の学習評価に向けて

鑑賞の活動では、まず生徒に作品をよく見ることを意識させることが大切です。特に第2学年及び第3学年では、造形的なよさや美しさ、対象のイメージ、作者の心情や意図と表現の工夫等を感じ取らせると同時に、自分の価値意識をもって批評し合う活動を取り入れ、生徒がより幅広く深く味わえるようにしていきます。今回の実践では、評価をする際に、造形的なよさや美しさ、対象のイメージ、作者の心情や意図と表現の工夫について生徒が感じたことを見取るだけでなく、その根拠を対話やワークシートの記入から捉え評価しました。今後は鑑賞の評価をする際に、生徒の感じたことや考えたことを具体的に捉えたり、その根拠を明確にできたりするワークシートや発問等を研究していくことが必要です。また、表現の活動では、評価を見取る場面を具体的に計画し、数回分を分析して判断することが大切です。



## 1 学習評価のポイント

保健体育科の「運動についての思考・判断」の観点においては、思考・判断した結果としての表現が運動の場づくりや練習方法の工夫などの場面で多く見られるということから、「思考・判断」の中に「表現」を含んでいることを考慮して評価することが大切です。



## 2 学習評価のポイントを踏まえた学習指導と評価の実際

ここでは、第1学年「武道（剣道）」の実践事例を通して、「表現」を含む「思考・判断」について、どのように学習評価を行うかについて示します。

### 1 単元名 武道（剣道）（第1学年及び第2学年）

#### 2 目標

- 相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、打ったり受けたりするなどの攻防を展開することができる。〔技能〕
- 剣道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、禁じ技を用いないなど健康・安全に気を配ることができる。〔態度〕
- 剣道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫することができる。〔知識，思考・判断〕

### 3 評価規準（●：第1学年，○：第2学年，◎：第1学年，第2学年共通の評価規準）

	運動への 関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能	運動についての知識・理解
単 元 の 評 価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> <li>●剣道の学習に積極的に取り組もうとしている。</li> <li>●分担した役割を果たそうとしている。</li> <li>●禁じ技を用いないなど健康・安全に留意している。</li> <li>○相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとしている。</li> <li>○仲間の学習を援助しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●技を身に付けるための運動の行い方のポイントを見付けている。</li> <li>●仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた協力の仕方を見付けている。</li> <li>○課題に応じた練習方法を選んでいる。</li> <li>○学習した安全上の留意点を他の練習場面に当てはめている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎打ったり受けたりするなどの攻防を展開するための相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技ができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●剣道の特性や成り立ちについて、学習した具体例を挙げている。</li> <li>●技の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。</li> <li>○剣道の伝統的な考え方について、理解したことを言ったり書き出したりしている。</li> <li>○剣道に関連して高まる体力について、学習した具体例を挙げている。</li> <li>○試合の行い方について学習した具体例を挙げている。</li> </ul>

学習活動に即した評価規準	①剣道の学習に積極的に取り組もうとしている。 ②用具の準備や審判など分担した役割を果たそうとしている。 ③場所の確認や禁じ技を用いないなど、健康・安全に留意している。	①基本動作や基本となる技の行い方のポイントを見付けている。 ②仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた協力の仕方を見付けている。	①相手の動きに応じて歩み足や送り足をすることができている。 ②基本となる技（しかけ技や応じ技）ができている。	①剣道の特性や成り立ちについて言ったり書き出したりしている。 ②基本動作や基本となる技の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。
--------------	---	--	---	--

※体育分野においては、第1学年及び第2学年で剣道を指導する計画であれば、「技能」「態度」「知識、思考・判断」の指導内容を2学年間に振り分けて指導することが可能です。

#### 4 指導と評価の計画（全12時間）

時	主なねらい・学習活動	評価規準				評価方法
		関	思	技	知	
はじめ 5時間	ねらい 学習の進め方を知り、学習の見通しをもとう。 構え・体さばき・竹刀操作を身に付けよう。					行動の様子 学習カードの記述
	[学習の重点] 武道学習の意義、健康安全の確保、分担した役割を果たす意義					
	1 オリエンテーション				①	
	2 ①共通メニュー ・準備運動、補強運動、学習のねらいの確認	③				
	3 ②相手の動きに応じた基本動作 ・中段の構え、歩み足や送り足、体さばき				①	
本時	4 基本打突の仕方（面、小手）と受け方					
	③ごく簡単な試合		②			
	④共通メニュー ・整理運動、振り返り、次回学習内容の確認					
5 ※第2～5時は、①～④の学習活動をそれぞれ繰り返し行うこととします。				①		
なか 5時間	ねらい 基本となる技を身に付けよう。					行動の様子 学習カードの記述
	[学習の重点] 技の行い方のポイント、積極的に練習に取り組む姿勢					
	6 ①共通メニュー ・準備運動、補強運動、学習のねらいの確認		①			
7 ②基本となる技 ・しかけ技（二段の技、引き技） ・応じ技（抜き技）				②		

「運動についての思考・判断」は、主に、学習カードへの記載内容から実現状況を判断し、評価を行うように計画します。評価機会を設定する際には、指導後間をあげないように留意することが大切です。



	8	③約束練習, 自由練習 ④ごく簡単な試合 ⑤共通メニュー		①			
	9	・整理運動, 振り返り, 次回学習内容の確認 ※第6～10時は, ①～⑤の学習活動をそれぞれ繰り返し行うこととします。		②			
	10					②	
ま と め  2 時 間		ねらい 打ったり受けたりする攻防を楽しもう。  〔学習の重点〕 積極的に試合に取り組む姿勢				②	行動の様子 学習カードの記述
	11	①共通メニュー ・準備運動, 補強運動, 学習のねらいの確認 ②ごく簡単な試合					
	12	③共通メニュー ・整理運動, 振り返り ※第11, 12時は, ①～③の学習活動をそれぞれ繰り返し行うこととします。		①			

### Point1

#### 課題に応じた運動の取り組み方を工夫すること

「運動についての思考・判断」の評価においては、「運動への関心・意欲・態度」「運動の技能」「運動についての知識・理解」と同様に、各運動領域の学習において学習目標を明確化することが大切です。その上で活動の仕方、組み合わせ方、安全上の留意点などの学習した内容を、学習場面に適用したり、応用したりすることを評価します。そのためには、教師が生徒に分担させる役割の内容や試合の進め方などを確認し、生徒に基礎的・基本的な知識や技能を活用させて、学習課題への取り組み方を工夫できるようにさせることが必要です。

### Point2

#### 「運動についての思考・判断」の評価方法を工夫すること

評価方法の例として、①学習カードの活用、②授業の観察、③聞き取りなどがありますが、それぞれが同等な扱いではなく、①の学習カードへの記述や②の授業の観察に重きを置きながら評価し、必要な場合には、③の聞き取りなどを行います。特に「努力を要する」状況(C)と判断した生徒には、「準備や審判などの係の必要性」「ルールを理解した上でどのような役割を果たすか」などを聞き取りながら、助言や補助などの適切な支援をすることが必要です。

## 5 本時案 (第4時)

### (1) 本時の目標

仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた協力の仕方を見付けることができる。

### (2) 展開

主なねらい・学習活動	教師の働きかけ・学習評価 (☆)
1 場や用具の準備をし, 集合する。	○グループで役割を分担し, 協力して準備をさせる。

- 挨拶は座礼で行う（左座右起ができていなければ確認する）。
- 2 準備運動，補強運動をする。 ○生徒の号令で，準備運動，補強運動をさせる。
- 3 本時の目標と授業の流れを確認する。 ○学習カード（個人用）を配付し，本時の目標と授業の流れを確認させる。  
○本時の目標を学習カード（個人用）に記入させる。

グループ対抗戦で，分担された役割に応じた協力の仕方を見付けて取り組もう。

- 安全に試合を行うための注意事項を説明する。
  - 前時までに説明している試合のルールを確認させておく。
- 
- 板書の実例
- 4 基本動作を練習する。 ○前時までに学習した基本動作を行わせる。
  - 5 グループで役割分担をし，グループ対抗戦を行う。 ○グループで話し合いを行い，役割を分担し，それを学習カード（グループ用）に記入させる。  
○グループで協力して準備をさせる。  
○安全に試合を行うために，マーカーコーンで試合用コートを作切る。  
○安全のため，新聞紙刀を使用させ，ヘルメット（面），サポーター（小手），ゴーグルを着けて試合を行わせる（サポーターの色はチームごとに変えさせる）。



話し合いの様子



グループ対抗戦の審判係

**Point 1** 課題に応じた運動の取り組み方を工夫すること

活動の仕方などの学習した内容を学習場面に適用する等，生徒が基礎的な知識や技能を活用して，学習課題への取り組み方を工夫することができる授業をつくる必要があります。例えば，グループ対抗戦の前に話し合いの時間を確保し，生徒が分担された役割に応じた協力の仕方を見付けることができるようにします。

- 6 本時の振り返りをする。 ○本時の内容を学習カード（個人用）に記入させる。  
学習カード（個人用）に記入 ☆仲間と協力する場面で，分担した役割に応じた協力の仕方を見付けている。

個人学習カード		名前	平成24年	月	日	
今日の目標 ・試合が円滑に行えるように、自分の役割を果たす。 ・仲間と協力して活動する。						
1 前回の授業の反省	攻		2 今日の授業の目標	攻		
	防			防		
4 仲間からのアドバイス	アドバイスをしてくれた人		5 試合で活躍していた人	名前( )		
	名前( )			どんなところが?		
7 試合外で話していた人	名前( )		8 今日の授業を振り返って	何を		
	どんなところが?			どのように?		
内容			非常によい	よい	普通	悪い
授業を楽しんでいることができた。			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
試合のルールを守ることができた。			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
審判・時計・記録などの係が積極的にできた。			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
仲間と協力して活動できた。			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
先生の説明をきちんと聞くことができた。			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

〔運動についての思考・判断〕  
(行動の様子，学習カードの記述)



## Point2

### 「運動についての思考・判断」の評価方法を工夫すること

本単元では次の3点に留意して学習カードを活用して評価を行います。

- ・生徒の思考や活動の流れに沿って記入できるように学習カードの記入欄を工夫する。
- ・生徒が記述しやすいように、活動場所に学習カードを準備し、記入する場面を設定する。
- ・課題解決に向けた取り組みが十分にできていない生徒には、共感的に寄り添い、生徒の気持ちを聞き取り、学習カードの記述を支援する。

## 6 指導と評価の実際

### (1) 「おおむね満足できる」状況（B）と判断した生徒の様子

#### 《判断のポイント》

- ◆ 分担した役割に応じた協力の仕方を見付けており、その内容を学習カードに記述していれば、「おおむね満足できる」状況（B）と判断しました。

生徒Aは、授業の最初に確認したルールをしっかりと守りながら、審判の係を行い、もう一人の審判の係と相談をしながらグループ対抗戦の試合を進めていくことができました。学習カードにも、その内容を記述していたので（図1）、「おおむね満足できる」状況（B）と判断しました。

6 試合 以外 で が ん ば っ た 点	何を	審判係
		どのように？
		審判をするときに、判定や 進め方などについて○○と 相談しながらやってきました。

図1 生徒Aの学習カード

生徒Bは、グループ対抗戦を行う前の準備をする場面で、コートを作るために仲間と協力をしながらマーカーコーンを準備することができました。また、活動後の生徒Bの学習カードにもそのことを記述しており、同じグループの生徒の学習カードにも生徒Bについて同様のことが記述されていたことから「おおむね満足できる」状況（B）と判断しました。

### (2) 「十分満足できる」状況（A）と判断した生徒の様子

#### 《判断のポイント》

- ◆ 「おおむね満足できる」状況（B）に加え、分担した役割以外についての協力の仕方などを見付けて学習カードに記述していれば、「十分満足できる」状況（A）と判断しました。

生徒Cは、試合において、審判係として、試合前の挨拶時に両グループのメンバーに声をかけて素早く整列させていました。また、試合中は困っている仲間にも声をかけたり、試合前後の整列、礼や試合中のかけ声なども大きな声で行っていました（図2）。打突に対する判断も的確であり、周囲の仲間にも分かりやすく宣告をするように心がけており、スムーズな試合運びに努めることができていました。さらに、図3の下線に示すように分担した役割以外の協力の仕方なども見付けており、他の生徒の学習カードにも、生徒Cが審判係以外での協力の仕方などを見付けている様子が記述されていたので「十分満足できる」状況（A）と判断しました。



図2 グループ対抗戦での生徒Cの様子

6 試合 以外 で が ん ば っ た 点	何を	審判係やアドバイス
		どのように？
		審判係として正確に判定をしたりしてきちんと仕事 ができた。試合の進行が遅れそうになったので、ま なに早く並ぶよう声をかけた。うまく攻めることが できない友達に、攻め方のコツを教えることができた。

図3 生徒Cの学習カード

### (3) 「努力を要する」状況（C）と判断した生徒に対して行った支援

#### 《具体的な支援》

- ◆ 「努力を要する」状況（C）になると判断した生徒に対して、次の支援が考えられます。
  - ・ 具体的なポイントをアドバイスする。
  - ・ ペア学習を活用し、友達同士で気づきを指摘し合うようにする。
  - ・ 行動の様子が観察できないところは、学習カードの記述を基に、当該生徒が課題にしているところを把握した上で支援を行う。

生徒Dは、審判・時計・記録などの係の仕事をうまく行うことができませんでした。そこで、教師は、生徒Dに「どうして記録係の仕事がうまくいかなかったのだろう。どうしたらいいかな」と問いかけました。

その後の生徒Dには、教師が声かけを複数回行い、今日の目標についての確認をしました。また、同じグループの生徒にも「みんなが協力して分担ができているかな」とグループ内での協力を促すことについても声かけをしました。それにより、同じグループの生徒Eが生徒Dに優しく仕事内容を語りかけ、記録の仕事ができた生徒Dに対して「よくがんばったね」と認め合う姿が見られました。

そして、学習カードの記入に際しても、教師が寄り添いながら書く内容を確認し、アドバイスを行いました。また、同じグループ内で相互に確認したり、教えたりする活動が見られました。

時間内に目標に達しなかった場合には、それ以降の授業での指導の手だてを考え、適切な指導をしていくことが大切です。

## 3 今後の学習評価に向けて

今回の実践では、分担した役割に応じた協力の仕方を見付けることを目指しました。個人の学習カードの記述を中心に評価を行いました。学習する体育分野の内容によっては、グループ用学習カードを利用することも有効な手だてとなります。その場合も、例えば、球技の領域などにおいて個人の課題が記述できるようにカードを工夫すると、グループの作戦に対する個人の思いやグループの中での関わりなどが見え、教師が評価をする際にも有効です。また、体育分野において「運動の技能」の観点を中心に評価を行う傾向がありますが、学習指導要領の内容を理解し、いつ、何を指導するののかの指導計画を明確にし、「運動についての思考・判断」「運動への関心・意欲・態度」「運動についての知識・理解」とともに4観点（表）でバランスよく評価することが大切です。保健分野における評価の観点についても同様であり、「健康・安全についての知識・理解」の観点だけで評価するのではないことに留意する必要があります。

表 保健体育科の評価の観点

体育分野	運動への関心・意欲・態度 (学習指導要領の指導内容の「(2) 態度」に対応)	運動についての思考・判断 (学習指導要領の指導内容の「(3) 思考・判断」に対応)	運動の技能 (学習指導要領の指導内容の「(1) 技能」に対応)	運動についての知識・理解 (学習指導要領の指導内容の「(3) 知識」に対応)
保健分野	健康・安全への関心・意欲・態度	健康・安全についての思考・判断		健康・安全についての知識・理解





## 1 学習評価のポイント

技術・家庭科においては、これまで「生活の技能」の中に位置付けられていた「表現」の学習評価が「生活を工夫し創造する能力」への位置付けに改められました。「生活を工夫し創造する能力」における「表現」は、生活の課題を見付け、その解決のために工夫し創造したことが表れたものとして捉えたものです。例えば、製作品の使用目的や使用条件を明確にし、社会的、環境的及び経済的側面などから材料、使いやすさ及び丈夫さなどを比較、検討した上で、製作品やその構成部品の適切な形状と寸法などを決定している様子を評価することが考えられます。

一方、「生活の技能」における「表現」は、具体的な表現の技能を身に付けているかどうかについて評価します。例えば、製作品やその構成部品の適切な形状と寸法などを決定した後に、製作品の構想をキャビネット図や第三角法などでかき表すことができるかどうかなどを評価することなどが考えられます。

## 2 学習評価のポイントを踏まえた学習指導と評価の実際

ここでは、「C生物育成に関する技術」と「D情報に関する技術」の内容を有機的に関連付けた題材「コンピュータにより照度条件を制御した作物の栽培」の実践事例を基に、「生活を工夫し創造する能力」の評価と言語活動との一体化を図るために、どのように言語活動を設定し、その活動からどのようにして「生活を工夫し創造する能力」について学習評価を行うかについて示します。

### 1 題材名 コンピュータにより照度条件を制御した作物の栽培（第3学年）

### 2 目標

- ・生物育成及び情報に関する技術について関心をもち、技術の在り方や活用の仕方等に関する課題の解決のために、主体的に技術の評価し活用しようとする。  
〔生活や技術への関心・意欲・態度〕
- ・生物育成及び情報に関する技術の在り方や活用の仕方等について課題を見付けるとともに、その解決のために工夫し創造して、技術の評価し活用する。  
〔生活を工夫し創造する能力〕
- ・生物育成及び情報に関する技術を適切に活用するために必要な基礎的・基本的な技術を身に付ける。  
〔生活の技能〕
- ・生物育成及び情報に関する技術についての基礎的・基本的な知識を身に付け、技術と社会や環境との関わりについて理解する。  
〔生活や技術についての知識・理解〕

### 3 評価規準

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を 工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての 知識・理解
・生物育成及び情報に関する技術について関心をもち、技術の在り方や活用の仕方等に関する課題の解決のために、主体的に技術の評価し活用しようとしている。	・生物育成及び情報に関する技術の在り方や活用の仕方等について課題を見付けるとともに、その解決のために工夫し創造して、技術の評価し活用している。	・生物育成及び情報に関する技術を適切に活用するために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。	・生物育成及び情報に関する技術についての基礎的・基本的な知識を身に付け、技術と社会や環境との関わりについて理解している。

#### 4 指導と評価の計画（全17時間）

次	時	主な学習活動	評価規準及び評価方法			
			生活や技術への 関心・意欲・ 態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術に ついての知識 ・理解
一	1	<b>情報モラルについて考えよう</b> ・コンピュータを用い、簡単にWebページやブログなどを作ることができるが、手軽に世界とつながることができる反面、守らなければならないルールやモラル、著作権などの権利があることを知る。	情報社会において適正に活動しようとしている。 （行動の様子）	生活の技能については、繰り返し実習を行うことによって定着することが予想されます。そこで、【栽培1-1（日照栽培）】及び【プログラミング1】における評価は「指導に生かす評価」（「努力を要する」状況（C）と判断される生徒の把握とその手だてを考えるための評価）として、【栽培2-1（電照栽培）】及び【プログラミング2～5】における評価を「記録する評価」として位置付けています。	著作権や、情報の発信者としての責任についての知識を身に付けている。 （ワークシートの記述）	
	2	<b>栽培についての作業工程をフローチャートでまとめよう</b> ・フローチャートを用いると作業の流れが一目で分かることを知る。 ・ものづくり以外にもフローチャートが有用であることを知る。				メディアの特徴と利用方法についての知識を身に付けている。 （ワークシートの記述）
二	1	<b>栽培に適する育成条件と栽培方法を学ぼう</b> ・作物を育成するための条件にはどのようなものがあるのかを知る。 ・栽培の基本的な技術にはどのような方法があるのかを知る。	【栽培1-1（日照栽培）】では、スプラウトの栽培に適した生育条件に基づき、栽培方法を工夫することを重視します。 【栽培1-2（収穫）】（次時）での収穫作業を通し、結果を確認し、自分なりの課題をつかむようにします。	スプラウトの育成に適した管理作業を決定している。 （ワークシートの記述）	環境因子が作物の成長に与える影響についての知識を身に付けている。 （ワークシートの記述）	
	2	<b>スプラウトの種まきをしよう</b> ・スプラウトの栽培計画を立て、種まきをする。 【栽培1-1（日照栽培）】				栽培計画に基づき、適切な資材や用具を用いて、合理的な管理作業ができる。 （行動の様子）
三	1	<b>計測・制御について知り、プログラミングを体験しよう</b> ・計測・制御についての説明を聞き、自分たちの生活に欠かせないものであることを理解する。 ・プログラミングソフトウェアを利用し、LEDライトを様々なパターンで点灯させる。 【プログラミング1】	LEDライトの複雑な点灯パターンをコマンドアイコンの配列を工夫し、適切な情報処理の手順を決定している。	LEDライトの点灯パターンをコンピュータで制御するプログラムを作成できる。 （行動の様子）	計測・制御システムにおける構成や、その中で情報の処理についての知識を身に付けている。 （ワークシートの記述）	
	2	<b>自分で工夫し、点灯パターンを考えよう</b> ・基本の点灯パターン以外に実習問題を利用し、複雑な点灯パターンを考える。 【プログラミング2】				LEDライトの点灯パターンをコンピュータで制御するプログラムを作成できる。 （行動の様子）

5	<p>目的に合うLEDライトの点灯パターンのプログラムを作成しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三つのグループに分け、目的に応じたスプラウトを育てられるよう点灯パターンを考える。</li> </ul> <p>サラダ用（丈は長めで、やわらかく） お吸い物用（丈は短く、茎が太めに） 観賞用（緑が鮮やかなものに）</p> <p>【プログラミング5】</p>		<p>計測・制御の目的や条件を明確にし、効果的な点灯パターンを決定している。</p> <p>（行動の様子） （ワークシートの記述）</p>	<p>設計に基づき、栽培の目的に適したプログラムを作成できる。</p> <p>（ワークシートの記述） （プログラミングデータ）</p>	
<p>【栽培1-1（日照栽培）】及び【栽培1-2（収穫）】の結果に基づき、照度条件を検討し、LEDライトのプログラムを考えるようにします。このとき、情報言語としてのプログラムを通して、技術分野特有の言語活動が行えるようにします。</p>					
6	<p>スプラウトの栽培計画を立て、種まきしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スプラウトの栽培計画を立て、種まきをする。</li> </ul> <p>【栽培2-1（電照栽培）】</p>		<p>スプラウトの育成に適した管理作業を決定している。</p> <p>（ワークシートの記述）</p>	<p>栽培計画に基づき、適切な資材や用具を用いて、合理的な管理作業ができる。</p> <p>（行動の様子）</p>	
7	<p>スプラウトを収穫しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スプラウトを収穫し、成長の様子を写真で記録し、ワークシートにまとめを記入する。</li> </ul> <p>【栽培2-2（収穫）】</p>				<p>照度条件を変化させることにより、成長にどのような影響を与えるのかを理解している。</p> <p>（ワークシートの記述）</p>
8	<p>スプラウトの成長をスライドにまとめよう</p>	<p>スプラウトの育成に関する課題を見付け、適切な解決策を示そうとしている。</p> <p>（行動の様子） （スライドデータ）</p>		<p>スライドの設計に基づき、適切なソフトウェアを用いて多様なメディアを複合し、表現できる。</p> <p>（スライドデータ）</p>	
9	<p>栽培記録を基に、プレゼンテーションソフトウェア等を用い、スライドにまとめる。</p>				

※ 指導と評価の計画の詳細は、『中学校技術・家庭科〔技術分野〕における融合題材を用いた授業づくりに関する提案Ⅱ』（2012、岡山県総合教育センター）を参照してください。（<http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/chousa/kiyou/h23/11-05.pdf>）

## Point1 問題解決的な学習の過程で「工夫・創造」させること

「生活を工夫し創造する能力」の観点については、技術・家庭科〔技術分野〕においては設計や製作、制作、育成の場面及び技術の評価・活用の場面において、目的を達成するために様々な制約条件の下で最適な解決策（「正解」ではなく「最適解」）を考え出すことができているかについて評価することが求められます。完成した製（制）作品や作物からは、生徒の考えを読み取ることができない場合もありますので、製作図、回路図、栽培計画表及びフローチャート等を用いて生徒に考えさせ、その記入内容から、生徒が解決策をどのように考え出したのかを読み取るといった工夫が必要です。

## Point2 言語活動を位置付けて評価すること


「生活を工夫し創造する能力」の評価では、言語活動を中心とした「表現」に係る活動等を通して評価することに留意する必要があることから、実践的、体験的な活動の前後に技術分野特有の言語（設計図、製作図、回路図、部品表、栽培計画表、プログラム等）を用いた言語活動を工夫したり、考えた過程が把握できるワークシートや製作工程表、栽培記録表等の記入欄を工夫したりすることが大切です。

## 5 本時案（第三次 第5時）

### (1) 本時の目標




- ・計測・制御の目的や条件を明確にし、効果的な点灯パターンを決定することができる。
- ・設計に基づき、栽培の目的に適したプログラムを作成することができる。

### (2) 展開

学習活動	教師の支援	学習評価																		
1 本時の目標について知る。	○コンピュータを用い、目的とするスプラウトを栽培するために、LEDライトの点灯パターンを考え、プログラミングすることを伝える。																			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     目的に合うLEDライトの点灯パターンのプログラムを作成しよう。                 </div>																				
2 どのようなスプラウトを育成するのかを知る。	○次に示す三つの目的に合ったスプラウトを育成することを伝える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サラダ用かいわれだいこんの栽培 丈は長めで、やわらかく成長させる。</li> <li>・お吸い物用かいわれだいこんの栽培 丈は短く、茎を太めに成長させる。</li> <li>・観賞用かいわれだいこんの栽培 緑が鮮やかなものに成長させる。</li> </ul> </div>	<div style="border: 1px solid blue; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p><b>Point1</b></p> <p>問題解決的な学習の過程で「工夫・創造」させること</p> <p>目的とする栽培結果（丈の長さ、茎の太さ、葉の色）となるようにするために、【栽培1-1（日照栽培）】及び【栽培1-2（収穫）】の結果に基づき、照度条件を検討し、LEDライトのプログラムを工夫できるようにします。</p> </div>																		
3 目的に合ったスプラウトに成長させるための点灯パターンを考える。  グループ協議の様子	○目的に合うスプラウトを育てるにはどうすればよいか、グループで話し合いをさせる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに記載しているヒントを参考にするように伝える。</li> <li>・ホワイトボードを使用し、話し合いの結果をまとめさせる。</li> <li>・グループごとに発表させる。</li> </ul>	○計測・制御の目的や条件を明確にし、効果的な点灯パターンを決定している。 〔生活を工夫し創造する能力〕 （行動の様子、ワークシートの記述）																		
<div style="border: 1px solid blue; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>Point2</b> 言語活動を位置付けて評価すること</p> <p>考えた過程を把握することができるよう、ワークシートの記入欄を工夫し、評価するようにします。</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>目的にあったLEDライトの点灯パターンを考えよう！</p> <p>( ) 明るく ( ) 暗く ( ) 遅く ( ) 早く</p> <p>● 育てたい かいわれ ( ) だいこん</p> <p>● 1回目の収穫を遅くまで点灯パターンを考えよう！</p> <p>(プログラミングに使用する主なアイコン)</p> <p>LED ON・OFF</p> <p>だんだん明るく・遅く</p> <p>ボタンを押すのを待機</p> <p>明るさを変える</p> <p>時間設定</p> <p>プログラムをくり返す</p> </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>点灯パターンのアイデアを基にプログラムを考えよう</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>0</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td> </tr> </table> <p>自分の意見を友だちに発表しよう！</p> <p>互だちの意見を</p> <p>↓</p> <p>みんなの意見を聞いて改善することを試みよう！</p> <p>もう一度プログラムを考えよう！</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>0</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td> </tr> </table> </div> </div>			0	1	2	3	4	5	6	7	8	0	1	2	3	4	5	6	7	8
0	1	2	3	4	5	6	7	8												
0	1	2	3	4	5	6	7	8												
4 コンピュータを用い、LEDライトの点灯パターンをプログラミングする。	○ワークシートを用い、各自でプログラムを考えさせた後、グループごとに協議させ、点灯パターンをプログラミングさせる。	ワークシート ○設計に基づき、栽培の目的に適したプログラムを作成できる。 〔生活の技能〕																		
5 本時のまとめをし、次時の予告を聞く。	○次時は種をまき、今回の授業でプログラミングしたLEDライトを用い、栽培を開始することを伝える。	（ワークシートの記述、プログラミングデータ）																		



### (3) 板書計画

目標	目的に合うLEDライトの点灯パターンのプログラムを作成しよう		
目的	○サラダ用  ・長い丈 ・やわらかい	○お吸い物用  ・短い丈 ・太い茎	○鑑賞用  ・鮮やかな緑
アイデア	・遮光期間を長くする ・光量を少なくする ・点灯時間を短くする	・光量を多くする ・点灯時間を長くする	・発芽後、すぐに遮光をやめる ・光量を多くする ・点灯時間を長くする
	プログラミングの留意点 1 発芽後、何日目から光を当てるか 2 ライトを当てる時間は1日何時間にするか 3 ライトの光量は何%にするか 4 途中で光量を変えるか (5 水やりの回数)		

## 6 指導と評価の実際

### (1) 「おおむね満足できる」状況（B）と判断した生徒の様子

#### 《判断のポイント》

◆本時の学習では、【栽培1-1（日照栽培）】及び【栽培1-2（収穫）】の結果を生かし、目的とするスプラウトを栽培するためのアイデアを考えさせます。そして、そのアイデアを実現するためのプログラムを作成させます。ここでは、単に多様なプログラムを作成するのではなく、計測・制御の目的や条件を明確にした上で効果的な点灯パターンを決定することを求めています。そこで、栽培の目的を達成するためのアイデアを考え、それに基づき点灯パターンを決定しているかということ判断の目安としました。

生徒Aは、目的とするスプラウトを栽培するためのLEDライトの点灯パターンを考えていました。プログラミングの際に、適切にコマンドアイコンを並べたり数値入力を行ったりすること（図1）については若干精彩を欠いていましたが、目的を達成するためのアイデアについて適切な記述ができていた（図2）ので「おおむね満足できる」状況（B）と判断しました。



図1 「おおむね満足できる」状況（B）と判断した生徒のプログラム例

👤 みんなの意見を聞いて改善することを書いてみよう！

お吸い物用は、熱い汁の中に入れるので置く(太く)しないといけない。茎の長さはどうでもいいので、芽が出てある程度伸びたら、すぐに光を当てる。LEDの光を強くする。

図2 「おおむね満足できる」状況（B）と判断した生徒の記述例

### (2) 「十分満足できる」状況（A）と判断した生徒の様子

#### 《判断のポイント》

◆「十分満足できる」状況（A）の判断の目安として、次の2点が両方とも捉えられているかどうかで判断しました（図3、4）。

- ・【栽培1-1（日照栽培）】及び【栽培1-2（収穫）】の結果を生かしたアイデアの記述ができていること。
- ・自分の考えを適切なプログラムに表現できていること。

みんなの意見を聞いて改善することを書いてみよう！

前の栽培の時、早くおおいをとり、しまったのび、短くて回くなく、しまった。今度は、芽が出ても葉が十分な長さになるまで光を当てないようにする。光を当てないように、LEDの強さをあまり強くない。(最初だけは、すぐ伸びるように強い光を当てる。)

この生徒は、【栽培1-1 (日照栽培)】で、早めに遮光を中止してしまったことにより十分な長さに成長しなかったことに気付いています。その反省を生かした取り組みが記述されています。

図3 「十分満足できる」状況 (A) と判断した生徒の記述例

この生徒は、目的とするスプラウト (お吸い物用) の栽培に適したプログラミングができています。



図4 「十分満足できる」状況 (A) と判断した生徒のプログラム例

### (3) 「努力を要する」状況 (C) が生じないように行った支援

#### 《具体的な支援》

◆本時の「生活を工夫し創造する能力」の観点では「努力を要する」状況 (C) と判断する生徒はいませんでした。これは、前回の【栽培1-1 (日照栽培)】及び【栽培1-2 (収穫)】の際、目的とするスプラウトの状態と実際の栽培活動、栽培結果を十分に比較・検証させており、ある程度の原因究明を行わせたり、その検証内容を学級内で発表させ、情報を共有させたりしていたからです (図5)。また、プログラミングに際しても、十分に協議・検討する時間を確保しました (図6)。

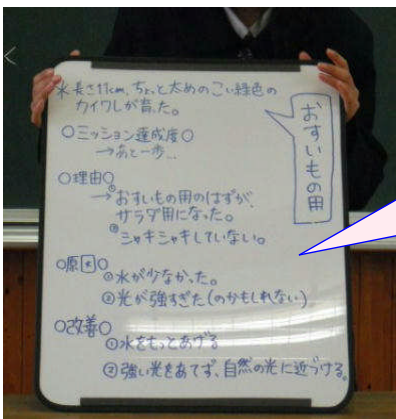


図5 検証内容の発表に用いたホワイトボード

今回の実践では、話し合い活動の際にホワイトボードに検証内容をまとめるようにしました。手軽に情報を集約したり、発表したりすることができました。

技術分野特有の言語の一つである「プログラム」を用い、十分に時間を確保しながらこの教科でしか体験できない「言語活動」に取り組みました。

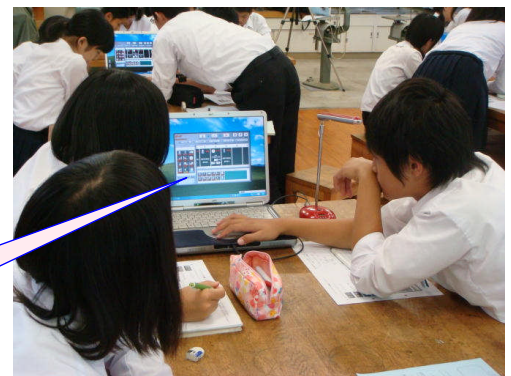


図6 プログラミング実習

## 3 今後の学習評価に向けて

学習指導要領に示された教科目標及び分野目標を達成するためには、適切な題材を設定することが重要です。「指導者が扱い慣れた題材」「指導が得意な題材」で指導するのではなく、今、目の前にいる生徒に最適な題材を検討しなければなりません。その際、必要に応じて学習指導要領に示された内容を有機的に関連付けて指導することも有効です。

設定した題材の指導計画を立てる際に、併せて評価計画も立てることが大切です。このことにより、「この時間で、生徒にどのような力を身に付けさせるか」が明確に意識できます。また、「技能」の評価は完成した製 (制) 作品から見取るだけでなく、各製 (制) 作工程において分析的に捉えておくことが必要です。



## 1 学習評価のポイント

技術・家庭科においては、従来、「生活の技能」の中に位置付けられていた「表現」が「生活を工夫し創造する能力」への位置付けとなりました。「生活を工夫し創造する能力」の観点では、家庭分野で学習したことを基に「衣食住や家族の生活などについて見直し、課題を見付けているか」「課題を多面的に考察しているか」「学習した知識と技術を活用して課題解決をしているか」「解決を目指して自分なりに工夫したり、自分の考えを生かした取り組みをしているか」などについて評価します。その際、課題の解決を目指して工夫している過程を含めて評価することが重要です。また、「生活を工夫し創造する能力」に係る学習評価は、言語活動を中心とした「表現」に係る活動等を通じて行うことが明確にされました。技術・家庭科の言語活動では、衣食住やものづくりなどに関する実習等の結果を整理し考察する学習活動や、生活における課題を解決するために言葉や図表、概念などを用いて考えたり、説明したりするなどの学習活動が充実するよう配慮します。



## 2 学習評価のポイントを踏まえた学習指導と評価の実際

ここでは、第1学年「環境に優しい生活を考えよう」の実践事例を基に、「生活を工夫し創造する能力」の評価と言語活動との一体化を図るために、どのように言語活動を設定し、その活動からどのようにして学習評価を行うのかについて示します。

### 1 題材名 環境に優しい生活を考えよう（第1学年）

### 2 目標

- ・環境に配慮した消費生活について関心をもって学習活動に取り組み、よりよい生活を実践しようとする。 [生活や技術への関心・意欲・態度]
- ・環境に配慮した消費生活について課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造することができる。 [生活を工夫し創造する能力]
- ・消費生活と環境との関わりについて理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けることができる。 [生活や技術についての知識・理解]

### 3 評価規準

生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
・環境に配慮した消費生活について関心をもって学習活動に取り組み、よりよい生活を実践しようとしている。	・環境に配慮した消費生活について課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。		・消費生活と環境との関わりについて理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。

#### 4 指導と評価の計画（全5時間）

次	時	主な学習活動	評価規準及び評価方法			
			生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
一	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                     地域のごみの分別方法を知り、ごみを分別しよう                 </div> <p>○地域のごみの分別方法について理解し、分別しようとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のごみの実態を知る。</li> <li>・地域のごみの分別方法を調べる。（「地域のごみの分別区分シート」を参考にする）</li> <li>・各自で部屋のごみ15種類を、「可燃ごみ」「不燃ごみ」「資源化物」「その他の方法」に分別する。</li> </ul>	地域の分別方法に沿って、ごみを分別しようとしている。 （行動の様子、ワークシートの記述）			地域のごみの分別方法について理解している。 （ワークシートの記述）
	2 本時	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                     ごみを減らすために、自分にできることを考えよう                 </div> <p>○ごみを減らすためにできることを具体的に考え、工夫することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の学習を基にグループで話し合い、部屋のごみ15種類を分別し、分別方法を発表する。</li> <li>・ごみを減らすための3R（リデュース、リユース、リサイクル）を知る。</li> <li>・自分の生活に生かせることを考える。</li> </ul>		ごみを減らすためにできることを具体的に考えたり、自分なりに工夫したりしている。 （ワークシートの記述）		
二	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                     自分たちの生活が環境に与える影響について理解しよう                 </div> <p>○様々な環境問題を知り、自分や家族の消費生活が環境に与える影響について理解することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な環境問題を知り、その原因の一つが生活の中で排出しているCO<sub>2</sub>であることに気付く。</li> <li>・CO<sub>2</sub>削減のためにできることが節電であることに気づき、グループで電気製品の消費電力を調べる。</li> <li>・調べた結果を基に、電気製品の賢</li> </ul>				様々な環境問題を知り、自分や家族の消費生活が環境に与える影響について理解している。 （ワークシートの記述）

本題材では、自分の生活が環境に与える影響や環境に配慮した消費生活を送ることの必要性について実感させ、家庭での実践に結び付けることが大きな課題です。そのためには生徒の実際の生活の場面において、環境との関わりを考えさせる必要があります。

地球規模で問題になっている環境問題について、具体的な資料や写真、グラフ、図等を用いて示すことにより、自分や家族の消費生活が環境に与える影響について理解させます。また、日本では、二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）は自動車や発電によって排出される割合が多いことをグラフで確認し、自分たちにできることが節電であることに気付かせます。



		い使い方についてグループで話し合う。				
2		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">電気製品の節電方法を考え、自分にできる省エネルギーの方法を工夫しよう</div> <p>○電気製品の節電方法を考え、自分の生活で取り組める省エネルギーの方法を工夫することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとに、自分たちが調べた電気製品の節電方法を考え、発表する。</li> <li>・家庭で使われている電気製品の消費電力の内訳を知る。</li> <li>・今日から家庭で自分ができる省エネルギーの方法を工夫する。</li> </ul>	電気製品の節電方法を考えようとしている。 (行動の様子、ワークシートの記述)	自分の生活で取り組める省エネルギーの方法を具体的に考え、工夫している。 (ワークシートの記述)		
<div style="border: 1px solid purple; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%; text-align: center;"> <p>技術・家庭科では、実践的・体験的な学習活動や問題解決的な学習を重視しています。前時の「電気製品の消費電力を調べる」学習活動で実感を伴った理解が得られ、確かな知識を習得することができています。本時ではその知識を活用して「電気製品の節電方法」を考え、自分の生活で問題解決的な学習に取り組むことができるようになります。</p> </div>						
三	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">環境に配慮した生活の工夫を考え、実践しよう</div> <p>○環境に配慮した消費生活の工夫を考え、家庭での実践の内容を決定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水、ガス、買物、交通などのテーマをグループごとに分担し、どんな工夫をしたらよいか話し合う。</li> <li>・各グループの発表を参考にしながら、家庭実践のテーマと内容「私のエコ活動宣言」を決める。 (課外：家庭で環境に配慮した消費生活の工夫を実践する。【課題プリント】)</li> </ul>	環境に配慮した消費生活の工夫を積極的に考えようとしている。 (行動の様子、ワークシートの記述)	自分や家族の消費生活を点検し、環境に配慮した消費生活について考えたり、実践を通して自分なりに工夫したりしている。 (ワークシートの記述、課題プリント)		
<div style="border: 1px solid purple; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%; text-align: center;"> <p>学んだことを日常生活で生かすことができるよう、家庭実践を取り入れます。なお、家庭実践の評価については教師が直接見取ることができないため、「生活の技能」以外の観点で評価します。</p> </div>						

## Point1 問題解決的な学習の過程で「工夫・創造」させること

「生活を工夫し創造する能力」の評価については、技術・家庭科では問題解決的な学習を重視することから、生徒一人一人が自分の課題をもつことができるようにし、その課題に沿って実践的、体験的な学習活動を行うことで意欲的に課題解決に取り組み、実感として捉えることができるような学習を充実させることが重要です。学習の進め方として、計画・実践・評価・改善などの一連の学習過程を適切に組み立て、生徒が段階を追って学習を深めることができるよう配慮します。

## Point2 言語活動を位置付けて評価すること

「生活を工夫し創造する能力」の評価では、言語活動を中心とした「表現」に係る活動等を通して評価することに留意することから、実践的、体験的な学習活動の前後の言語活動を工夫したり、ワークシートや調理計画表、実習記録表などの記入欄を、生徒が考えた過程が把握できるように工夫したりすることが大切です。

## 5 本時案（第一次 第2時）

### (1) 本時の目標

ごみを減らすために自分にできることを具体的に考え、工夫することができる。

### (2) 展開

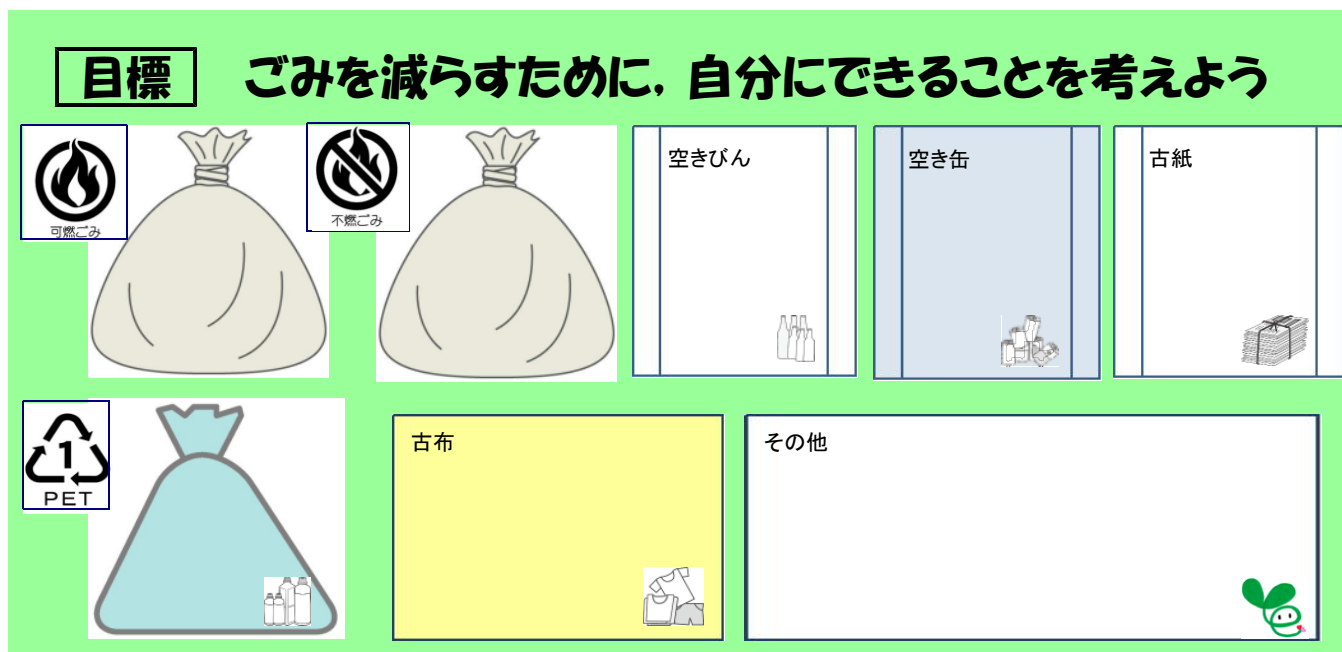
学習活動	教師の支援	学習評価
1 前時の復習をする。	○前時はごみの分別方法の学習をしたことを確認する。	<div style="border: 1px solid green; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p><b>【部屋のごみ15種類】</b></p> <p>①不要になった学校のプリント ②使い終わったノート ③ジュースの缶 ④お茶のペットボトル ⑤お店のレジ袋 ⑥お菓子の箱 ⑦ポテトチップスの袋 ⑧お菓子の缶 ⑨プリンのカップ ⑩壊れたシャープペンシル ⑪汚れたティッシュペーパー ⑫ひびの入ったガラスコップ ⑬使い終わった制汗スプレー缶 ⑭小さくなったトレーナー ⑮穴が開いた靴下</p> </div>
2 本時の目標を確認する。	○本時はごみを減らすために、自分にできることを具体的に考えることを知らせる。	
ごみを減らすために、自分にできることを考えよう。		
3 グループで部屋のごみ15種類を分別する。	○前時の学習を基にグループで話し合わせる。 ・リーダーを中心に話し合いながら、分別シートの上に「ごみカード」※を置いて分別するように説明する。 （※部屋のごみ15種類の絵をカード化したもの） ・必ずしも、ごみや資源化物として収集に出さなくてもよいことに気付かせる。 ○ごみの分類について迷っている場合は、見分ける方法を助言する。	
<p><b>Point1</b> 問題解決的な学習の過程で「工夫・創造」させること</p> <p>生活の課題を解決するために考えたり、説明したりする言語活動の充実を図るために、グループでの話し合い活動を取り入れます。多様な価値観に触れることで、ごみの減量化について考えを深め、生徒が自分なりの工夫ができるようにします。</p>		
4 グループごとに、ごみの分別方法を発表する。	○話し合ったことを基に「ごみカード」を黒板の所定の場所に貼らせることで、ごみの分別方法の発表に代える。 ・他と違う分別方法を行ったグループには、その理由を発表させる。	
5 ごみを減らすための3Rを知る。	○ごみを減らすための3Rについて、具体例を挙げながら説明する。 ○毎日の生活の中での少しの工夫で、ごみが減らせることに気付かせる。	
6 自分の生活に生かせることを考える。	○本時の学習を基に、自分の生活の中でできそうなことを考えさせ、「今日から家庭で自分ができる工夫」を具体的にワークシートに記述させる。 ・思い付かない場合は、3Rの中から自分にできそうなものを探すように助言する。	
7 本時のまとめをし、次時の予告を聞く。	○ワークシートに本時の活動の振り返りを書かせる。 ○次時は、自分たちの生活が環境に与える影響について考えることを知らせる。	○ごみを減らすためにできることを具体的に考えたり、自分なりに工夫したりしている。 [生活を工夫し創造する能力] (ワークシートの記述)

図1 ワークシート（本時）

### Point2 言語活動を位置付けて評価すること

考えた過程が把握できるよう、ワークシートの記入欄を工夫し、評価するようにします（図1：点線囲みと矢印➡の部分）。

(3) 板書計画



※15種類の「ごみカード」を準備し、班ごとに話し合った結果、どう分別するかを黒板に貼らせるようにします。

## 6 指導と評価の実際

### (1) 「おおむね満足できる」状況（B）と判断した生徒の様子

《判断のポイント》

◆本時の学習では、前時でごみの分別方法について学習したことを基に、必ずしもごみや資源物として出さなくてもよいことに生徒自らが気付き、工夫などを行うことで、ごみを減らすことができることに注目して考えることを求めています。したがって、判断の目安をごみを減らすための工夫を自分なりに考え、具体的に表現しているかどうかということにしました（図2、3）。

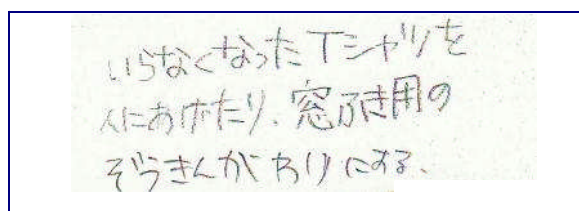


図2 「おおむね満足できる」状況（B）と判断した生徒の記述例1

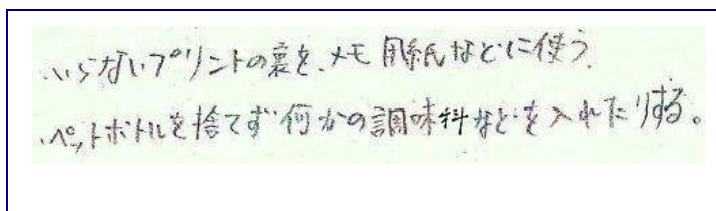


図3 「おおむね満足できる」状況（B）と判断した生徒の記述例2

### (2) 「十分満足できる」状況（A）と判断した生徒の様子

《判断のポイント》

◆「十分満足できる」状況（A）の判断の目安として、次の2点が捉えられているかで判断しました。

- ・これまでの家庭でのごみの分別の課題などを踏まえ、「環境に配慮した」視点での気付きから具体的な行動として表現していること（図4）。
- ・ごみ減量のために、3Rに焦点を絞りながら自分なりに考え、具体的に表現していること（図5）。

くっ下に穴があいてもぬってほくなど  
特にリユースを心がけたい。  
今までほとんど燃えるごみで捨ててきたので、今後はよく  
考えていきたい。

図4 「十分満足できる」状況（A）と判断した生徒の記述例1

今までほとんどのごみを燃えるごみとして捨ててきた経験を踏まえ、「環境に配慮した」視点での気付きから具体的な行動として表現しています。

○レジ袋からエコバッグにする。  
○いらぬものを買わない。  
○やっぱり分別をちゃんとしないといけない。  
○ものを大事にする。  
○やっぱり環境を守ろうと思ったら1人1人の取り組みが必要でみんなが支えていかないといけないことがわかった。

図5 「十分満足できる」状況（A）と判断した生徒の記述例2

環境を守るために一人一人の取り組みが必要なことに気づき、学習した3Rを踏まえて、自分なりに取り組むことができることを考え、表現しています。

### (3) 「努力を要する」状況（C）が生じないように行った支援

#### 《具体的な支援》

◆本時の「生活を工夫し創造する能力」の観点では「努力を要する」状況（C）と判断する生徒はいませんでした。これは、事前の課題（家庭学習）で地域のごみの分別方法を調べ、15種類のごみの分別について考えさせておき、さらに、授業で個人やグループで具体的に「ごみの減量」の視点で考える活動（図6，7）が十分に行われていたことと、思い付かない生徒には、机間指導で3Rの中から自分にできそうなものを探すように助言したからです。



図6 グループで検討する生徒の様子

各自が考えたごみの分別方法を、さらにグループで話し合うことにより、考えを深めます。互いの考え方について質疑応答の中で、思考力が高まります。



図7 生徒が考えたごみの分別方法

他のグループの発表を聞くことを通して、多様な考えに触れ、自分自身の生活に生かすことができる工夫について、新たな視点に気付くことができます。

## 3

### 今後の学習評価に向けて

今回の実践では、生活の仕方と環境との関わりについて気付くようにし、限りある資源を有効に利用するための工夫ができることを目指しました。生徒の記述を中心に評価を行いました。生徒の書く能力も関係するので、書く時間の十分な確保と、書く内容の的確な指示が重要になってきます。また、行動の様子や発言の内容などによる評価では、短時間で見取ることができるよう、評価のポイントを基にチェックリストを作成したり、座席表を活用したりするなど、記録の方法を工夫する必要があります。





## 1 学習評価のポイント

外国語科においては、評価の観点である「表現の能力」及び「理解の能力」が、それぞれ「外国語表現の能力」及び「外国語理解の能力」に変更されていますが、観点の趣旨そのものの変更を伴うものではありません。これはこれまで通り、学習指導要領の言語活動における「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の四つの言語領域を内容のまとめりとして、それに、四つの評価の観点をそれぞれ適用して、評価規準を作成します。



## 2 学習評価のポイントを踏まえた学習指導と評価の実際

ここでは、第1学年の「サンフランシスコの学校」の実践事例を基に、生徒が英語を使用してコミュニケーションを図る場面の工夫を紹介するとともに、その言語活動の場面で、どのようにして「外国語理解の能力」を評価するかを示します。

本単元は、サンフランシスコの有名なジャーナリストであるナンシーが、日本にいる孫のベッキーのためにサンフランシスコの中学校をビデオで紹介しています。最初に案内役となるシンガポール生まれの中学生、双子のメイとビンを紹介し、次に社会科の授業の様子を紹介します。その後、メイへの授業についてのインタビュー、ビンへの昼食の様子、放課後や週末の過ごし方についてのインタビューと続きます。What time ~?, What + 名詞 ~?, Which ~? などの文法事項を学習し、全体としては海外情報の取得、特にアメリカの学校生活について知るといふ異文化理解の単元となっています。最終的には、日本の中学校生活との共通点や相違点について理解を深め、Webページを通して日本の中学校や学校生活についての情報発信をすることを目指しています。

### 1 単元名 サンフランシスコの学校（第1学年）


### 2 目標

- ・ペアワークにおいて、間違ふことを恐れず話す。  
〔コミュニケーションへの関心・意欲・態度〕
- ・自分の学校生活についてのWebページ原稿を英語で書く。〔外国語表現の能力〕
- ・聞いたり読んだりしたインタビューの内容を深く理解する。〔外国語理解の能力〕
- ・疑問詞 what と which を用いた文の構造を理解する。  
〔言語や文化についての知識・理解〕

### 3 評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
・ペアワークにおいて、間違ふことを恐れず話そうとしている。	・自分の学校生活についてのWebページ原稿を英語で書いている。	・聞いたり読んだりしたインタビューを深く理解している。	・疑問詞 what と which を用いた文の構造を理解している。

#### 4 指導と評価の計画（全8時間）

次	時	主な学習活動	評価の観点				評価規準及び評価方法
			関	表	理	知	
一	1	<p>疑問文 What time ~?, What +名詞~, Which ~? を理解して使えるようにしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>What time ~? の使い方を理解して使う。</li> </ul>				○	<ul style="list-style-type: none"> <li>What time ~? の文構造を理解し、言語の使用場面において正しく使っている。 (ペーパーテストの記述)</li> </ul>
	2, 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>What + 名詞~, Which ~? の使い方を理解して使う。</li> </ul>				○	<ul style="list-style-type: none"> <li>What + 名詞~, Which ~? の文構造を理解し、言語の使用場面において正しく使っている。 (ワークシートの記述)</li> </ul>
	1, 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビデオレターという情報の発信方法があることを知る。</li> <li>社会科の授業を舞台とした英文を読むことを通して、世界各地には時差があることを知る。</li> </ul>				○	<ul style="list-style-type: none"> <li>内容に即した発問をつくることを通して、聞いたり読んだりした内容に対する理解を深めている。 (ワークシートの記述)</li> </ul>
二	3	<p>・英語を正確に聞き取り、インタビューの内容を理解しよう。 ・英語を適切に読み取り、話し手の意向を理解しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アメリカの中学生に対する学校での授業についてのインタビューを通してアメリカの学校生活についての理解を深める。</li> </ul>  <p>導入の様子</p>				○	<ul style="list-style-type: none"> <li>インタビューを聞いて、英語の内容を正しく聞き取っている。 (ワークシートの記述)</li> <li>教師の発問に対して、Yes / No の答えと、その根拠を適切に理解している。 (ワークシートの記述)</li> </ul>
	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>アメリカの中学生の昼食や放課後の活動などの学校生活について知る。</li> </ul>	○				<p>日常的に行われる授業改善のための評価、指導に生かす評価を大切に する一方で、指導後の生徒が「おお むね満足できる」状況（B）等に あるかどうかを記録するための評価場 面を設定します。</p>
三	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の学校のWebページの原稿を書く。</li> </ul>				○	<ul style="list-style-type: none"> <li>この単元で学習した文法項目を使用してWebページの原稿を書いている。 (行動の様子、ワークシートの記述)</li> </ul>

## Point1

### 「外国語理解の能力」の評価における「正確さ」の視点からの評価

「聞くこと」においては、強勢やイントネーション、区切りなどの特徴を捉えて聞き取ることができることや、語句や表現、文法事項などの知識を活用して短い英語の内容を正しく聞き取ることができるかを評価します。

「読むこと」においては、語句や表現、文法事項などの知識を活用して内容を正しく読み取ることができるかを評価します。

本単元では、ナンシーがメイに対して、アメリカの授業について尋ねているインタビューを聞きます。語句や表現などに留意させてメモを取りながら正確に聞き取らせませす。そのメモを基にして、聞き取った内容についてのワークシートへの記述ができているかどうかで「外国語理解の能力」を評価します。

## Point2

### 「外国語理解の能力」の評価における「適切さ」の視点からの評価

「聞くこと」においては、会話などで話されている内容から話し手の意向を理解できているかや、まとまりのある英語を聞き、全体の概要や内容の要点を適切に聞き取ることができるかなどを評価します。

「読むこと」においては、ワークシートなどに書かれている内容から書き手の意向を読み取ることができるか、伝言や手紙などを読んでその内容に合わせて適切に応じることができるか、話の内容や書き手の意見などを批判的に読むことができているかなどを評価します。


本単元では、前述の「聞く活動」に続き、実際に文字を見ながら英文を読み、教師による発問に対して、書き手の意向を読み取り、適切な内容理解ができているかを見取り「外国語理解の能力」を評価します。

## 5 本時案（第二次 第3時）

### (1) 本時の目標

- ・英語を正確に聞き取り、インタビューの内容を理解することができる。
- ・英語を適切に読み取り、話し手の意向を理解することができる。

### (2) 展開

学習活動・内容	教師の支援	学習評価
1 英語で挨拶をする。 2 ウォームアップをする。 (1) 既習事項を復習する。 (2) スピーチをする。 3 本時の目標を知る。	○明るく元気よく挨拶することで、これから授業が始まることを意識できるようにする。 ○曜日や日付の質問から、これまでに学習した内容を確認できるようにする。 ○スピーチのポイントを意識させる。スピーチした後に、互いに質問し合うことで質問する力が高まるようにする。 ○生徒とのインタラクションが途切れないようにする。	 <p>発問に答える生徒の様子</p>

- ・英語を正確に聞き取り、インタビューの内容を理解しよう。
- ・英語を適切に読み取り、話し手の意向を理解しよう。

<p>(1) 本パートについての内容を読み取る。</p> <p>(2) ナンシーとメイのインタビューを聞いてメモを取り、その内容をワークシートに記入する。</p> <p>(3) ペアでワークシートの内容を確認する。</p> <p>(4) 全体でワークシートの内容を確認し、内容を適切に読み取る。</p>	<p>○ピクチャーカードを活用し、本パートの内容理解を促す。</p> <p>"Let's learn about American School Life."</p> <p>○机間指導により、メモの語句や表現を確認して、ワークシートに記入ができるように支援を行う。</p> <p>○ワークシートに記入した内容をペアで確認できるようにするためにポイントを口頭で示す。</p> <p>○ワークシートの内容を全体で共有させる。</p> <p>○内容に関する発問を行い、生徒に解答とその根拠を考えさせることで内容の適切な理解へと導く。</p>
<p>4 音読練習をする。</p> <p>(1) CDの後に続き音読する。</p> <p>(2) CDの音声に合わせて音読する。</p>	<p>○イントネーションを意識させる。難しい箇所はゆっくりと発音し模範を示す。</p>
<p><b>Point2</b> 「外国語理解の能力」の評価における「適切さ」の視点からの評価</p> <p>生徒が内容を正確に理解した次の段階として、適切に書き手の意向を読み取らせる活動を取り入れます。これは、英文の内容を適切に理解させるための活動で、教師が生徒に対して問いを投げかけます。そして、生徒に英文の内容を深く理解させるものです。問いに対して、答えとその根拠を適切に示すことができているかどうかを評価します。</p>	
<p>5 まとめの活動を行う。</p>	<p>○本時の学習内容について全体で確認する。その内容と自分の学校生活とを比較するように指示を行う。</p>

**Point1**

「外国語理解の能力」の評価における「正確さ」の観点からの評価

聞いた英語の内容を正しく理解することができているかを評価します。語句や文法事項などの知識を活用しながら、内容を正確に聞き取ることができているかを確認します。実際には、聞いた内容をワークシートに正しく記入することができているかどうかで評価します。

- ・インタビューを聞いて、英語の内容を正しく聞き取っている。  
〔外国語理解の能力〕  
〔ワークシートの記述〕
- ・教師の発問に対して、Yes / Noの答えと、その根拠を適切に理解している。  
〔外国語理解の能力〕  
〔ワークシートの記述〕

### (3) 板書計画

**目標** 発問に答えることで書き手の意向を適切に読み取ろう

(教師の) 発問 Do you think Mei is busy every day?

(生徒の) 答え Yes, I do. She only has five minutes between classes.  
No, I don't. She has much time after school.  
No, I don't. 休み時間が5分なら放課後の時間がたくさんあると思う。  
No, I don't. もうこの生活に慣れているから忙しいとは思っていない。

教師による発問は内容についての理解を深めさせることが目的ですから、解答の根拠については英語のみならず、日本語による解答も積極的に取り上げます。実際には、文法や語法等の誤りの含まれた英文もありますが、生徒に誤りを気付かせた上で、正しい英文を板書します。



## 6 指導と評価の実際

### (1) 「おおむね満足できる」状況（B）と判断した生徒の様子

#### 《判断のポイント》

- ◆今回の評価は、学習指導要領の内容（1）言語活動 ウ 読むこと（ウ）「話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえること」と関連しています。「読むこと」について、「話すこと」や「書くこと」につながる活動にするためには、単に内容を理解するだけではなく、読み手として主体的に考えたり、判断したりしながら理解していく必要があります。そこで、主体的な思考や判断を促すために、書き手の意向を読み取らせる発問として「Do you think Mei is busy every day? 」と問いかけます。この発問に対して、内容を大まかに理解し、Yes / No で答えた上で、不十分ではありますが根拠を述べている場合、「おおむね満足できる」状況（B）と判断しました。

(例)

Yes, I do. She only has five minutes.

( between classes のような情報が不足している。 )

No, I don't. She reads books.

( to children in hospitals のような情報が不足している。 )

⇒発問に対して Yes / No で答えることはできています。しかし、上記の例にある

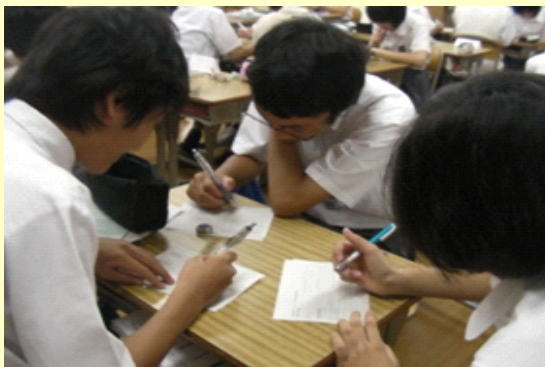
**She only has five minutes. / She reads books.**

の二つの具体例は、メイが忙しいことの根拠として十分な内容であるとはいえないと判断しました。十分な根拠としては、

**She only has five minutes between classes.**

**She reads books to children in hospitals.**

などの情報を加えて述べるが必要であると考えられます。



ワークシートの内容を確認している様子

**サンフランシスコの学校** Unit 7-③

**Step 1** Let's listen and take notes.

①1日の授業回数	②授業の長さ	③休み時間	④第二外国語	⑤その他の情報
Mei's school				

**Step 2** Let's make fact-finding questions.

( ) does Mei have each day?  
 ( ) the classes?  
 ( ) does she study?

**Step 3** 質問に Yes / No で答え、なぜそのように判断したのかを考えよう。

---

**Step 4** あなたの日常生活について、Meiに教えてあげよう!

Hi! I am

**自己の振り返り**

・聞き取った内容に関する事実関係を作ることができた	5	4	3	2
・インタビューの内容についてより深く考えて、その内容を理解することができた	5	4	3	2
・Meiの手紙の返事として、自分たちの学校生活について英語で表現できた	5	4	3	2

ワークシートの例

(2) 「十分満足できる」状況（A）と判断した生徒の様子

《判断のポイント》

◆教師の発問「Do you think Mei is busy every day?」に対して、内容を十分に理解し、Yes / No で答えた後に、根拠を適切に述べていれば（A）と判断しました。実際には次のような理由を示す生徒もいました。

(例)

Yes, I do. She has six classes each day.  
And they are fifty minutes long.

Yes, I do. She only has five minutes between classes.  
So she changes classrooms quickly.

No, I don't. She can read books to children in hospitals.

⇒英文を読み、教師の発問に対して適切に応じることができていると判断しました。

(3) 「努力を要する」状況（C）と判断した生徒に行った支援

《具体的な支援》

◆教師の発問に答えられない生徒には、その生徒に寄り添い、本文の内容をより平易な英語表現に言い換えたり、日本語で補足を加えたりしました。また、発問に対して、Yes / No を一緒に考え、その答えの根拠となる部分を教科書の中から探させるようにしました。

### 3 今後の学習評価に向けて

評価規準を明らかにすることで、活動中の生徒の様子を観察する視点やワークシートの発言内容を見取る観点が明確になります。

今回は「外国語理解の能力」についての評価事例を示しました。「聞くこと」においては、「正確な聞き取り」と「適切な聞き取り」を、「読むこと」においては、「正確な読み取り」と「適切な読み取り」を考慮します。語句や表現、文法事項などの知識を活用した「正確さ」と同時に、話されている内容や書かれている内容から話し手や書き手の意向を理解する「適切さ」についても評価する必要があります。そして、「書かれた内容から書き手の意向を読み取ること」や「伝言や手紙などを読み、その内容に合わせて適切に応じること」ができているかどうかということも評価規準の一つとして考えられます。



## 1 学習評価のポイント

総合的な学習の時間においては、学習指導要領に示された目標を踏まえ、各教科等で身に付けた知識を生かすとともに、実社会で活用できる資質や能力及び態度を育成するよう、各学校において目標や内容を定めて実施することが求められています。そして、生徒の学習状況からどのように内容が学ばれているのかを丁寧に見取り、その評価を指導や学習の改善につなげていくことが重要となります。そのためには、期待される生徒の姿を想定して、単元計画の作成時に指導と評価の計画を立て、特に、生徒の内に育まれているよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、生徒自らが可能性や成長を実感できるようにすることを重視します。そのためには、どの場面で、誰がどのように評価するのかを明確にし、教師間で評価の観点や評価規準を共有しておくことが大切です。また、学習状況の評価を適切に実施するためには、異なる方法や様々な評価者による多様な評価とともに、学習状況の過程を評価することなどにも配慮する必要があります。

## 2 学習評価のポイントを踏まえた学習指導と評価の実際

### I 特別活動との関係

総合的な学習の時間と特別活動との関連については、学習指導要領「総則」において「総合的な学習の時間における学習活動により、特別活動の学校行事に掲げる各行事の実施と同様の成果が期待できる場合においては、総合的な学習の時間における学習活動をもって相当する特別活動の学校行事に掲げる各行事の実施に替えることができる」とされています。

ここでは、特別活動と関連した総合的な学習の時間を通して、学校で定めた育てようとする資質や能力及び態度を踏まえた観点に基づく第2学年追究学習（実践校における探究的な学習の呼称）「日本を知ろう」の実践事例を基に、どのように学習評価を行うのかについて示します。中心学習として、研修型の宿泊体験行事を設定し、その研修旅行を中心に自己の課題に迫るとともに、第3学年で取り組む卒業研究としての個人研究の手法を学ぶこともねらいとしています。

### II 探究的な学習にするために

総合的な学習の時間における探究的な学習とは、「物事の本質を探って見極めようとする一連の知的営みのこと」を示しています。また、「協同的に取り組む態度」とは、自己との対話を重ねつつ、他者や社会、自然や環境とともに生きる積極的な「開かれた個」であることといえます。そして、他者と協力しながら身近な地域社会の課題の解決に主体的に参画したり、その発展に貢献しようとしたりする態度を育むことが必要とされています。

この過程を見取りながら、評価をしていくためには生徒の学習記録や自己評価及び発表資料や発表の様子などの分析など、多様な評価方法によって評価をしていく必要があります。また、質の高い探究的な学習を行うに当たっては外部リソースの活用が重要です。ただし、外部の講師に講話内容や体験活動を任せきりにせず、学習のねらいについて事前に十分な打ち合わせを行い、活動の様子を見取るとともに事後に活動時の様子を聞き取るなどして、評価の資料とすることが大切です。

- 1 単元名 追究学習「日本を知ろう」（第2学年）
- 2 目標

自分が生きている国について、様々な学び方や調べ方を活用しながら学ぶ中で、自分の将来や日本のよりよい未来の在り方を考え、社会全体としての「よりよい生き方」について考えることができる。

### 3 評価規準

課題設定能力	問題解決能力	プレゼンテーション能力	生き方、自己実現に向けて行動する能力
①興味や関心を基に、様々な事象に積極的に関わり、課題を見付けている。 ②課題が社会全体としての「よりよい生き方」に向けた提言を含んだものとなっている。	①課題を設定し、その解決のために学習の内容と学び方の両面において見通しをもっている。 ②調べたことや考えたことなどを図や表などを活用して表現したり、異なる意見や他者の考えを受け入れたりし、課題のよりよい解決方法をまとめている。 ③校外学習や協同研究を行う中で、コミュニケーション能力を高めている。	①必要な情報を様々な手段を活用して収集・選択し、整理・分析している。 ②ICTを活用するなど、追究した課題に応じて適切なプレゼンテーションの方法を選んで情報を発信している。	①設定した課題を計画的、主体的に追究している。 ②学んだことや学び方を振り返り、学習計画を修正したり、他の学習に役立てようとしていたりしている。 ③現在の自分の生活を見つめ直し、将来の目標に向かって、意欲的に学習しようとしている。

#### Point1 学習過程において多様な評価を行うこと

評価の信頼性を高めるためには、学習過程における生徒の学習状況を多様な評価方法を用いて見取り、それを指導に役立てることが大切です。特に、総合的な学習の時間においては、生徒の内に育まれているよい点や進歩の状況などを積極的に評価することが求められます。例えば、生徒の中で特に進歩したこと、意欲的に取り組んだこと、努力や工夫が見られたこと、ものの見方や考え方が変わったこと、自己の生き方につなげて考えようとしたことなどを、生徒の学習の姿や学習シート、制作物などから見取るようにします。また、生徒が自分のよい点や進歩の状況などに気づき、自らの可能性や成長が実感できるようにすることも重要です。本単元では、行動の様子や学習シート、相互評価シート等の記述、ポートフォリオ、プレゼンテーションなどを評価方法として用いて多様な評価を行いました。

#### Point2 期待される生徒の姿をイメージして評価規準を設定すること

評価規準を設定する際には、各観点に即して実現が期待される生徒の姿が、単元のどの場面のどのような学習活動において、どのような姿として実現されるかをイメージすることが大切です。そして、実現が期待される生徒の姿について、実際の学習活動の場面を想起しながら具体的に設定していきます。また、体験活動を課題の解決や探究活動の過程に適切に位置付け、積極的に取り入れることにより学習の質を高めることができます。この活動を通して、他者と協同して課題を解決しようとする学習活動を重視するとともに、言語により探究した課題を整理したり分析したりして考え、それをまとめたり表現したりして自分の考えを深める学習活動を充実させることが可能となります。その際、教師は体験活動でしか得ることができない知見が何かを適切に把握し、生徒に対して効果的なアドバイスを与えながら、課題解決に向けての見通しをもつことができるよう支援していきます。

### 4 指導と評価の計画（全50時間）

小単元名 (時数)	主な学習活動	評価規準及び評価方法
1 「日本を知ろう」学年オリエンテーション (1単位時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度の「日本を知ろう 研究成果発表会」での先輩の様子やその取り組み等を知り、自分の追究したい課題についてのイメージを高める。</li> <li>設定した課題の解決に向け、調べる内容とその方法についての学習計画を立てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題を設定し、その解決のために学習の内容と学び方の両面において見通しをもっている。 [問題解決能力] (行動の様子、学習シートの記述)</li> </ul>



## Point1

### 学習過程において 多様な評価を行う こと

総合的な学習の時間においては、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」という一連の学習活動を展開します。こうした探究的な学習の過程における学習活動や配当時間に応じて、重点的に評価する場面を想定して評価規準を設定し、生徒の学習状況をよりよく見取るために設定した評価規準に適した多様な評価方法を位置付けています。そして、評価を生徒にフィードバックすることにより、生徒自身の成長を実感させるとともに学習の質を高めていくことが大切です。

## 『日本を知ろう』 追究テーマを設定しよう

2024.6.20

2年( )組( )番 名前( )

1 課題設定の手がかりを見付けましょう

① あなたの興味関心があること（趣味や習い事とか）は何ですか。

・ピアノを弾くこと。

・テレビを見ること。

② あなたが得たいことは何ですか。

・医療に関する仕事

・人の役に立つ仕事

③ 最近に見たり、観たり、聞いたりした話題でおもしろかったものは何ですか。

・トキが育つこと

・水素の商部にあるリットがベニコニークラスに似ていること

2 テーマの候補を2つ考えましょう。（テーマが決まっている生徒も必ず3つ考えて可能性を検討すること）

A 日本の子供の健康 ～ 京都のお茶や食べ物 ～

B 日本の子供のアレルギー ～ 子供の食べ物のアレルギーの現状 ～

3 2で考えたテーマで調べる具体的な内容を6個ずつ考えましょう。

A 日本の子供の健康 ～ 京都のお茶や食べ物 ～

京都茶の交り果	お茶の交り果	高麗参の食のレシピ
栄養価の高い食べ物	好き嫌いの多い食べ物	子供の食べ物

B 日本の子供のアレルギー

子供のアレルギー	栄養価の高い食べ物	お茶の交り果
京都茶の交り果	アレルギー発生	アレルギーの向き合い方

4 『日本を知ろう』のテーマを1つに絞りましょう

日本の子供の健康 ～ 京都のお茶と食べ物 ～	1年生で追究していたテーマ 小児科医について
2年生で発表したい内容や提言	希望する研究形態 協同研究 複合研究

子供の好き嫌いを調べる。  
 それに好き嫌いを無くすために自分で考えに「ご飯のレシピや栄養を」発表したり、  
 今回、調べ京都の京都茶の栄養や体への交り果、お茶の栄養や体への交り果も  
 知り、これからの子供の生活習慣も見直し、健康志向はものに変われるように  
 提言やレシピ作り。また、お茶や体から小学生までのいろいろに「お茶に合う栄養  
 価の高い食べ物や飲み物」も調べよう。最近の子供はジュースをよく飲むので  
 と「食生活」が「お茶」に「お茶」の改善の仕方などを発表したい。

5 3年生の見通しを考えてまとめましょう。

① 3年生で行う卒業研究のテーマ

小児科医としての子供の接し方、親への対応

② 卒業研究で発表したい内容や提言

京都府立で調べた事を通して親と子に「食」の指導を上手にするには  
 どうするかを自分はこのようは医者により「お茶」の改善の仕方などを発表したい。

### 生徒の学習シート

2 個人追究テーマの決定 (2単位時間)	・自らがイメージした課題を具体化するために、ウェビング等の手法を用いながら課題を決定する。	
3 個人課題による追究学習 (4単位時間)	・書籍やインターネットなど、様々な方法で自らが設定した課題を検証し、収集した情報を整理・分析する。	・設定した課題を計画的、主体的に追究している。 〔生き方、自己実現に向けて行動する能力〕 (行動の様子、学習シートの記述)
4 共同研究チームによる追究学習 (12単位時間)	・課題ごとに編成した学習グループで、京都での調査の計画を立てるとともに、インタビュー等で明らかにしたい内容についての情報を収集する。 ・事前に、各チームでそれぞれの訪問先に連絡を取り、課題を明確にするとともに当日の行動の詳細を確認する。	・課題を設定し、その解決のために学習の内容と学び方の両面において見通しをもっている。 〔問題解決能力〕 (ポートフォリオ、学習シートの記述) ・必要な情報を様々な手段を活用して収集・選択し、整理・分析している。 〔プレゼンテーション能力〕 (ポートフォリオ、学習シートの記述)
5 プレ発表会 (3単位時間)	(準備) ・グループ別自主研修で追究している課題とその成果の予想を発表するために、資料をまとめる。 (発表会) ・決められた時間内で行う発表を通して、課題をより明確にするとともに、他者の発表を聞く中で追究学習のヒントを得る。	・調べたことや考えたことなどを図や表などを活用して表現したり、異なる意見や他者の考えを受け入れたりし、課題のよりよい解決方法をまとめている。 〔問題解決能力〕 (行動の様子、スライド資料) ・ICTを活用するなど、追究した課題に応じて適切なプレゼンテーションの方法を選んで情報を発信している。 〔プレゼンテーション能力〕 (発表の様子、評価シートの記述)
6 共同研究チームによる追究学習 (2単位時間)	・プレ発表会を通して見えてきた課題を整理し、当日の自分たちの行動を修正するとともに課題を明確にする。	・課題を設定し、その解決のために学習の内容と学び方の両面において見通しをもっている。 〔問題解決能力〕 (行動の様子、学習シートの記述)

7 京都研修 (10単位時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コース別研修（5コース）</li> <li>・グループ別自主研修（30グループ） 各グループの課題に即した事業所や大学の研究室等を訪問し、インタビューや体験活動を通して情報を収集する。</li> <li>・卒業生に学ぶ会 京都の大学に通う卒業生から大学の情報等を聞くとともに、総合的な学習の時間が現在の生活にどのように関係しているかを聞き、学びの価値を再認識する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設定した課題を計画的、主体的に追究している。 〔生き方、自己実現に向けて行動する能力〕 (報告書の内容、事後の調査、アンケートの記述)</li> <li>・現在の自分の生活を見つめ直し、将来の目標に向かって、意欲的に学習しようとしている。 〔生き方、自己実現に向けて行動する能力〕 (報告書の内容、感想文の内容)</li> </ul>
--------------------	---	---

**Point1** 学習過程において多様な評価を行うこと

評価を学習活動の終末だけでなく、事前や途中など様々な場面で適切に位置付けて実施することが重要です。このことにより、生徒の実態や学習状況が把握できることに加え、生徒が学習への取り組みを見直したり活動への意欲を高めたりすることができるよう適切な指導に役立てることもできます。

8 追究学習レポート作成 (6単位時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コース別研修及びグループ別自主研修を経て明らかになった知見を基に、更に書籍やインターネットなど、様々な方法で情報を収集する。そして、仮説を検証し、収集した情報を整理・分析し、学習の質を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調べたことや考えたことなどを図や表などを活用して表現したり、異なる意見や他者の考えを受け入れたりし、課題のよりよい解決方法をまとめている。 〔問題解決能力〕 (行動の様子、制作物、学習シートの記述)</li> </ul>
9 発表準備 (4単位時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションソフトウェアを用いて調べたことを文章、絵や写真、図表、グラフなどを用いてまとめる。また、発表原稿を作成したり、発表の練習をしたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要な情報を様々な手段を活用して収集・選択し、整理・分析している。 〔プレゼンテーション能力〕 (発表資料、ポートフォリオ)</li> </ul>
10 学級発表会 (2単位時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表者は追究学習の成果を効果的に伝える発表の工夫するとともに「よりよい生き方」についての提言をする。</li> <li>・聞き手の生徒は、発表者の学習成果を自分の考えと比較し、「よりよく生きる」ための提言がなされているかを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題が社会全体としての「よりよい生き方」に向けた提言を含んだものとなっている。</li> <li>・ICTを活用するなど、追究した課題に応じて適切なプレゼンテーションの方法を選んで情報を発信している。 〔課題設定能力、プレゼンテーション能力〕 (発表資料、ポートフォリオ、自己評価シート及び相互評価シートの記述)</li> </ul>
11 学年代表者発表会 (4単位時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・代表者による発表を聞くことで、新たな価値観の気付きや共有を図りながら、よりよく生きるための多様な提言を受け入れるとともに、そこから新たな課題を見つけ、自らの仮説に結び付けることで第3学年での追究学習に生かそうとする。</li> <li>・単元全体の学習活動について振り返り、まとめをする。</li> </ul>  <p style="text-align: center;">ポートフォリオの例</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の自分の生活を見つめ直し、将来の目標に向かって、意欲的に学習しようとしている。また、学んだことや学び方を振り返り、学習計画を修正したり、他の学習に役立てようとしていたりしている。 〔生き方、自己実現に向けて行動する能力〕 (学習シートの記述、感想文の内容)</li> </ul>  <p style="text-align: center;">学年発表会の様子</p>

## 5 京都研修における事後追究学習の展開

### (1) 事後追究学習のねらい

京都研修のねらいは「様々な分野の専門家を訪問し、日本の伝統文化や最先端の科学技術などに触れ、追究テーマについての学習を深める」ことでした。この活動においては、実際に体験したことを基に、それぞれの追究課題に向けて、資料を整理・分析したり、新たに見つけた課題について再度情報を収集したりすることにより、追究学習の質を高めることが大きなねらいです。また、京都研修は、課題別のグループによる協同学習のスタイルをとってきましたが、事後追究学習からは、より個人の課題に即した形になってきます。

### (2) 第8小単元の展開

(追究学習レポート作成：第1～6時)

学習活動	教師の支援	学習評価															
1 京都研修で得た知見を想起し、本小単元の目標を確認する。	○京都研修の取り組みを想起させ、課題解決に向けての今後の見通しをもたせるとともに、課題追究の手法や整理の仕方を確認する。																
<p>発表会に向けて、京都研修を通して分かったことを整理するとともに、「よりよい生き方について」提言するため、更に課題を追究しよう。</p>																	
2 事前学習で設定した課題に対して、現地での調査活動を通して得た知見をまとめる。	○事前学習での「行動計画と課題」と「研修を通して得たこと」を学習シートに記入させて意識付ける。 ○最終的には「よりよい生き方」の提言につなげていくことを確認する。	○現地で得た様々な情報について調べたことや考えたことなどを分かりやすくまとめ、表現している。															
<p><b>Point2</b> 期待される生徒の姿をイメージして評価規準を設定すること</p> <p>ここでは、現地研修を通して得た知見を基に、仮説の見直しをさせたり、まとめに向けて更に深く追究したりする姿を想定して評価規準を設定しました。</p>		<p>〔問題解決能力〕 (行動の様子、制作物、学習シートの記述)</p>															
3 より深く追究する学習計画を立てる。	○グループ別自主研修を通して解決できた課題を整理するとともに、新たに見えてきた課題に向けての学習計画を立てさせ、課題解決の見通しをもたせる。	<p style="text-align: center;"><b>卒業研究論文に向けて追究学習レポートの書き方</b></p> <p><b>1 追究学習の仮説</b> “はじめに”で紹介した問題点を解決するための研究目的を明らかにする。 文献研究から導き出された仮説の重要性 仮説の検証 「音楽はリラクゼーション効果をもつ。」 「スポーツは、心と体の健康に重要である。これからの高齢化社会にスポーツは必要である。」</p> <p><b>2 テーマ設定の理由・追究学習の目的</b> 研究に至る経緯を紹介する。 「なぜこのテーマを選んだのかなど」 課題や疑問点など、自分が考えたいことをあげる。 「日本の中にある音、音色が、人々の心にどう影響を与えるか。」 「これからの日本（人）はスポーツとどう関わっていくべきか。」</p> <p><b>3 追究学習したこと（仮説 → 検証、実験 → 考察 → 結論）</b> 研究の手順を説明する。なるべく具体的に書く。 この課題を解いていくためには、このようなことを調べなければ答えが出ない。 だから、最初に○○、次に△△…というように立証するための方法をあげていく。  図や写真、統計資料などを使って表すことが有効。 文献やインタビュー内容をもとに追究したことをまとめる。</p> <p><b>4 よりよく生きるための提言</b> 調べたことから、オリジナルアイデアあふれる見解や解釈、結論を述べる。 他の文献やインタビュー内容をもとに自分の意見を裏付けることも必要。 調べて出た結果から、自分なりの提案ができることと良い。</p> <p><b>5 追究学習の総括（3年生での追究活動に向けて）</b> 研究した、調べて出た問題点や反省を今後の展望として入れる。</p> <p><b>6 参考文献一覧（Web ページのURLなども含む）</b></p> <p>○ 論文は、問いを立て、その答えを自分で見つけること 取り組むべきテーマについて自分の頭で考え、問いを立て、何を達成するのか、そのためにどうすればいいのかを考えること。 ○ まずしっかり課題を立て、それをどのような方法で解決し、自分なりの提案ができるかが大切です。 アウトラインをしっかり立て、最終の提案までをイメージして取り組むとつくりやすくなります。</p>															
4 様々な手法で情報を収集するとともに、得た情報を整理・分析する。	○収集した情報のまとめ方や効果的な発表の仕方についての助言をする。 ○得た情報から仮説に対する検証を行うだけでなく、よりよい生き方につながる具体的な提言ができるように助言をする。																
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="font-size: small;">追究（調べて発表）したいこと</th> <th style="font-size: small;">追究手段</th> <th style="font-size: small;">どう検証するか</th> <th style="font-size: small;">どう発表するか</th> <th style="font-size: small;">完了する期日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>子供の好き嫌いについて</td> <td>資料を調べ</td> <td>実際に子供に聞いてみる。</td> <td>グラフにしたりして好き嫌いの理由の多さが目に見えるように発表する。</td> <td>10/12</td> </tr> <tr> <td>京野菜の体の効果や栄養価</td> <td>パソコンで調べ資料</td> <td>京都の方に話を聞いて、パソコンで調べた成分がどのくらいあるか伺う。</td> <td>パワーポイントを使ってイラストを使い、資料集のものを出して示していく。</td> <td>11/16</td> </tr> </tbody> </table>	追究（調べて発表）したいこと	追究手段	どう検証するか	どう発表するか	完了する期日	子供の好き嫌いについて	資料を調べ	実際に子供に聞いてみる。	グラフにしたりして好き嫌いの理由の多さが目に見えるように発表する。	10/12	京野菜の体の効果や栄養価	パソコンで調べ資料	京都の方に話を聞いて、パソコンで調べた成分がどのくらいあるか伺う。	パワーポイントを使ってイラストを使い、資料集のものを出して示していく。	11/16		
追究（調べて発表）したいこと	追究手段	どう検証するか	どう発表するか	完了する期日													
子供の好き嫌いについて	資料を調べ	実際に子供に聞いてみる。	グラフにしたりして好き嫌いの理由の多さが目に見えるように発表する。	10/12													
京野菜の体の効果や栄養価	パソコンで調べ資料	京都の方に話を聞いて、パソコンで調べた成分がどのくらいあるか伺う。	パワーポイントを使ってイラストを使い、資料集のものを出して示していく。	11/16													
生徒の学習シート（一部抜粋）		課題追究のまとめに向けて															



## 6 指導と評価の実際

### (1) 「評価規準に示す生徒の姿が実現している」状況と判断した生徒の様子

#### 《判断のポイント》

- ◆まとめを作成する場面においては、プレゼンテーションソフトウェア上にグラフなどを効果的に用いながら、相手意識をもって表現できているかを評価しました(図1, 2)。

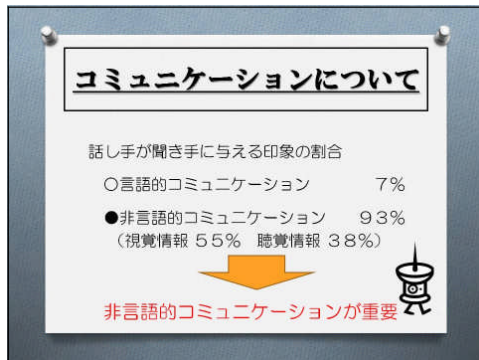


図1 生徒が当初作成したスライド

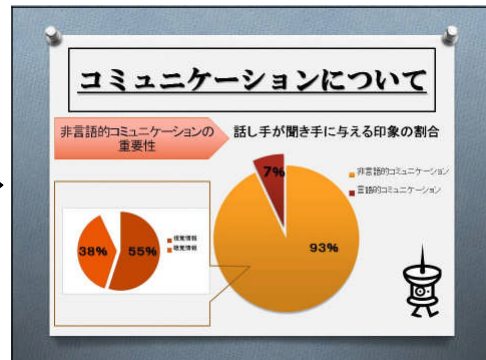


図2 相手を意識したことで改善したスライド

<質問したいこと>	
・	この病院で音楽療法の治療を受けている方の中でいちばん多い病気はなんですか。
・	音楽療法を実施している病院は他にありますか。ご存じの範囲でお願いします。
・	音楽療法で使う楽器には「体に負担がかからず簡単に演奏できる」という共通点を発見しました。他にも共通点はあるのでしょうか。また、創作楽器などを使うことがあるのであれば、その楽器の工夫点を教えてください。

図3 生徒が送付した専門家への質問事項(一部抜粋)

### (2) 「評価規準に示す生徒の姿が実現していない」状況が生じないように行った支援

#### 《具体的な支援》

- ◆「問題解決能力」の観点では、生徒の学習活動に沿って次のような支援を適宜行ったため、「実現していない」状況と判断する生徒がいませんでした。これは授業者が次のような、生徒が主体的に課題解決に取り組める支援を行ったからです。
  - ・課題が多岐にわたるため、外部リソースへの橋渡しを行い、適切な課題追究が行えるようにする(図3)。
  - ・まとめを作成する場面では、伝えたい内容が聞き手に的確に伝わるかどうかについて、担当教師や友人に確認しながら修正する。

## 3 今後の学習評価に向けて

総合的な学習の時間では、創意工夫を生かした特色ある教育活動が展開されます。そこで、評価規準の設定に当たっては、各学校で定めた「育てようとする資質や能力及び態度」や「内容」を網羅することが大切です。そして、指導と評価の計画を立てる際には、小單元ごとにそれぞれの段階で期待する生徒の姿をイメージしながら適切な評価場面を設定する必要があります。同時に1年間、あるいは3年間を見通した長い期間での評価規準を設定することも重要です。特に、中学校は教科担任制のため、各教科等で身に付けた知識や技能等を関連付けさせることにより、日常の学習活動や生活における様々な課題に対する解決においても、その知識や技能等を活用している生徒の姿が想像できるようになります。教師の専門性を積極的に生かし、生徒個々の学習活動の特性に応じた指導体制を工夫するためには、目標に照らし合わせながら学習活動の充実に向けて全教職員が協力することが大切です。そのためにも、適切な評価方法で一人一人の学習状況を見取り、その学習評価を基にして学習指導や指導計画の改善も行い、実践の質を高めていくことが求められます。





## 1 学習評価のポイント

特別活動には、「望ましい集団活動を通して」という特質及び方法原理があります。特別活動の学習評価に際しては、学習指導要領に示された特別活動全体の目標のほかに、学級活動、生徒会活動及び学校行事という集団活動の具体的な目標を十分踏まえた上で行う必要があります。その際、各学校において重点化した内容、育てたい態度や能力に即して具体的に定めた評価の観点に照らして評価することが求められています。

また、特別活動の学習評価は図1に示すように、2段階で行うという点で各教科等（図2）とは異なります。さらに、何か一つの姿を示して満足できる状況かどうかを評価するのではなく、観点に照らして「十分満足できる」状況を具体的な姿として多様に示し、評価することが必要です。

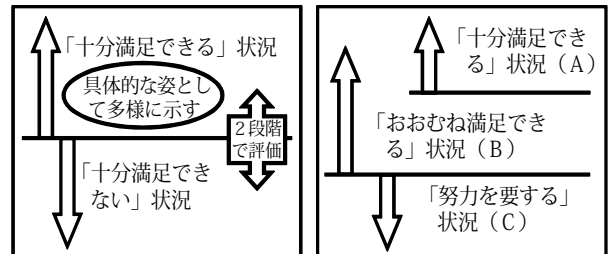


図1 特別活動の評価  
(イメージ)

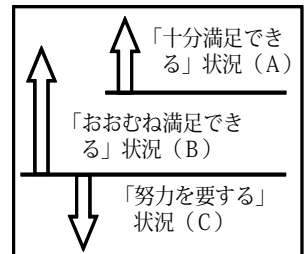


図2 各教科等の評価  
(イメージ)

## 2 学習評価のポイントを踏まえた学習指導と評価の実際

ここでは、学級活動において、平成24年度から全面実施された中学校学習指導要領に示された目標及び内容に基づき、生徒一人一人のよさや可能性を積極的に評価することを目指した実践事例、「学級活動(1) 第1学年『学級目標の決定』」の概要を示します。

### 1 題材名 学級目標の決定 (第1学年)

※イ 学級内の組織づくりや仕事の分担処理

### 2 題材について

#### (1) 生徒の実態

本学級の生徒は、明るく素直で男女の仲もよい。中学校入学後間もないので、グループの固定化もなく、互いのよい点を探し、新しい友達と関係を築こうとしている生徒も多い。しかし、授業中や帰りの会では積極的な生徒の発言に押され、なかなか自分の意見を発表できない生徒もいる。

#### (2) 題材設定の理由

中学校へ入学した直後に、宿泊研修（5月実施）に向けての話し合い活動を実施した。その中で、積極的に発言し活動する生徒も現れたが、自分の意見を言えなかったり、消極的になってしまったりする生徒も現れてきた。そこで、中学校の最初の1年間を、今の仲間とともにどのように過ごしていくかを生徒自身で決める「学級目標の決定」を通じて考えさせ、実践できるようにさせたいと考えた。集団生活の中で、一人一人のよさを生かしたよりよい集団になるように、互いの意見を聞くこと、考えること、伝えることの大切さを認識させたい。さらに、学級の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする態度を育てたいと考えた。

#### (3) 事前の指導

##### ア よりよい人間関係づくりのために

「このクラスが団結するために、何が必要か」という教師の問いに、「クラス全員で目指すことができる目標」という声が上がった。適切な学級目標を決定するためには、必要な話し合い活動を円滑に運ぶことが重要で、そのためには、まず、よりよい人間関係を築くことが必要であると考えた。そこで、「聞くこと、伝えること」を大切に事前の活動を、朝の会、帰りの会等において実施するよう計画した。この活動は、生徒各自がもっ

ている部分的な情報を互いに説明し合ったり、必要な情報を得るために他の生徒に質問し合ったりすることにより、情報の全容を解き明かしていくものである。

この活動を通して話し合い活動を充実させ、一人では解決できない課題に対して他者と協力して取り組むことにより課題解決を図り、よりよい人間関係を築かせることをねらった。振り返りシートに記入させることにより、自他の価値を見付けさせたり、次の活動につながる意識付けを行ったりした。表に事前の活動の流れを、図3に活動後の振り返りシートの記述例を示す。

表 事前の活動の流れ

1	活動テーマを確認し、その目的を知る。
	○情報を正しく伝えたり、正確に聞いたりする活動であることを知らせる。
	○質の高い意思疎通ができるように意識させる。
2	活動のルールを聞き、活動する。
	○話し合い活動を充実させるために、次のことに留意させる。
	・他者の話を注意深く聞く      ・他者に伝わるように丁寧に説明する      ・納得がいくまで質問する
3	活動を振り返る。
	○活動を通して気付いたこと、感じたことを書かせる。
	○学級目標の決定に向け、自分たちが努力するべきことを考えさせる。
4	振り返りの内容を発表する。
	○各班の意見を聞き、新たな気付きができるように助言する。
5	教師の話を聞く。
	○よりよい学級目標づくりのために、互いの意思疎通を十分に行い、相互理解することが重要であることに気付かせる。

1 この活動で、だれの（自分も含めて）どういう話や行動が、グループの協力の助けになりましたか。  
次の [ ] に、当てはまる名前と、よかったことを書きましょう。

よかったこと	ぼくが わたしが	自分のヒントをし、かりいっ た。
よかったこと	さんが	盛り上げてくれた。
よかったこと	さんが さんが	いらぬことを言わずに、 重要なことをしかりいってくれた。 意見をまとめてくれた。

2 この活動で気付いたこと、感じたことを書きましょう。  
昨日のんと 発表すること

3 学級目標の決定に向けて、頑張っていきたいことは何ですか？  
班の仲間と協力して、自分勝手にしない

自他の価値を見付ける振り返り

次の活動につながる振り返り

図3 事前の活動後の生徒の記述例

この活動を通して、入学当初、自分の意見を言えず、消極的になってしまっていた生徒や、自分の意見を一方的に押し付けていた生徒も、ある程度自分の意見を述べたり、他者の意見に耳を傾けたりすることができるようになってきた。しかし、これらの活動は小集団で行ったものであったため、学級という、より大きな集団の中においては積極的な人間関係を築くまでには至らなかった。

そこで、一人一人のよさを生かし、よりよい人間関係づくりができる学級にしていくために生徒の願いをまとめ、「学級目標の決定」につなげていきたい。

イ 自分たちで学級目標を決定する意味を理解させるために

中学生ともなると、話し合い活動が単調になったり、機械的になったりすることがある。

そこで、目指す学級の在り方について願いを出し合い、学級目標を決定することの意味を生徒自身に理解させ、納得させることが重要である。そのため、事前に朝の会、帰りの会等において、次のことについて意見交換させた。

- ・もし、学級目標がなかったらどうなると思うか。
- ・もし、学級目標を一部の代表者だけで決めたらどう思うか。
- ・もし、学級目標を担任が一方的に決めたらどう思うか。

生徒からは「学級目標がなかったら、クラスの団結力が低くなるような気がする」「どんなによい目標でも、押し付けは嫌だ」「自分たちで話し合っただけで決めた目標だからこそ、守ろうという気になる」などの意見が出された。これらの気持ちを常に意識させながら、「学級目標の決定」に取り組ませたい。

### Point1 「自己決定」に向けた「自己内省」を大切にする

今回、学習指導と評価の実践事例として取り上げた学級活動(1)においては、まず、生徒に共通の問題を取り上げ、話し合いを通して解決の方法を考えさせるとともに、自己の問題の解決方法について「自己決定」させ、実践させていく一連の活動を設定することが大切です。その上で、実践の基となる的確かつ適切な「自己決定」をさせていきます。

そこで大切になるのが、自己を客観的に振り返らせ、見つめさせる的確な「自己内省」です。自己評価シート等に加え、実態調査による数値データ等を整理した資料や、これまでの取り組みの様子を記録した写真やビデオなどの資料、友達や家族など、他者からの評価資料等を積極的かつ効果的に活用することが大切です。

### Point2 「自己決定」を「書くこと」等を通して見取る

本実践時は、「集団活動や生活への関心・意欲・態度」の評価事例として紹介しています。こうした観点の評価方法としては、生徒の話し合いや活動の様子などを教師が観察する「観察法」が主になると考えられますが、生徒が自分の考えや取り組みを記録したポートフォリオとしてのワークシート、製作物、振り返りシート等による「作品法」による評価を組み合わせることも考えられます。つまり、「自己決定」を「書くこと」等を通して見取ることも大切にしていくということです。また、今回の実践事例では扱いませんが、「集団活動や生活についての知識・理解」を評価する場合には、「質問紙法」による評価も考えられます。つまり、これらの「書くこと」の指導や工夫が求められます。



## 3 本題材のねらい

「学級目標の決定」の話し合い活動において、事前の活動で学級目標の意義について考えたり、自分たち自身で学級目標を決定することの意味・意義について意見交換をしたりしたことを振り返らせ、活動への関心・意欲を高めたい。また、互いの意見を聞くこと、考えること、伝えることの大切さを認識させ、一人一人のよさを生かしたよりよい集団になるようにしたい。さらに、学級の一員としてよりよい生活づくりに取り組んだり人間関係を築こうとしたりする態度を育てたい。

## 4 学級活動(1)の評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級や学校の生活の充実と向上に関わる問題に関心をもち、他の生徒と協力して、自主的、自律的に集団活動に取り組もうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級や学校の一員としての自己の役割と責任を自覚し、他の生徒の意見を尊重しながら、集団におけるよりよい生活づくりなどについて考え、判断し、信頼し支え合って実践している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・充実した集団生活を築くことの意義や、学級や学校の生活づくりへの参画の仕方、学級集団として意見をまとめる話し合い活動の仕方などについて理解している。</li> </ul>

## 5 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
導入	1 活動内容を確認し、その目的を知る。  2 学級目標を決定する意味・意義を振り返る。	○事前に考えた学級目標の意義について振り返らせ、話し合い活動に対する意欲の向上を図る。 ○積極的な意見交換が、よりよい学級目標の決定に結び付くことに気付かせる。  ○自分たち自身で学級目標を決定することの意味・意義について振り返らせ、積極的な意見交換につなげる。	
展開	3 「どんな学級にしたいか」各班で意見をまとめる。 ・カード分類法を用いて班内で意見を出し合う。	○入学後の学級の様子から、学級として伸ばすべき点、改善すべき点について考えさせる。 ○小学校のときに学級目標の決定の経験があれば、よかったことや改善すべきことなどの意見を出させる。 ○留意したい言葉については、意図を添えて説明するように指示する。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p><b>Point1</b> 「自己決定」に向けた「自己内省」を大切にする</p> <p>カード分類法において、カード（付箋紙）に自分の考えを数多く書き出します。これは、自分で自分を振り返り、自分の理想をアイデアとして書き出すことにより、自分の考えを広げ、深めることができます。そして、その過程が、自分の考えを明確にし、自分の考えをもつこと（自己決定）にもつながります。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #ffffcc;"> <p>元気な クラスにしたい</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #ffffcc;"> <p>支え合う クラスにしたい</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #ffffcc;"> <p>差別のないやさしいクラス</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">生徒が書いた付箋紙</p> <div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center;">   </div> <p style="text-align: center;">カード分類法を用いた話し合い活動の様子</p> </div>			
	・班の意見として黒板に掲示する。  4 全体で学級目標を考える。	○正しいと思えば、他者の意見を積極的に受け入れるよう助言する。 ○学級に対する一人一人の願いを素直に書くように助言する。 ○各班の意見を聞いて新たな気付きができるよう、自分の考えと照らし合わせるよう助言する。 ○自分の班と異なる意見が出た場合は、積極的に質問・協議するよう助言する。  ○建設的な意見が出るように司会の生徒を支援する。 ○必要に応じて学級目標の意義、自分たち自身で学級目標を決定することの意味・意義について振り返らせる。 ○話し合い活動に消極的な生徒がいた場合、班内で意見を交換させることにより活動を活性化させる。	○学級や学校の生活の充実と向上に関わる問題に関心をもち、他の生徒と協力して、自主的、自律的に集団活動に取り組もうとしている。 [集団活動や生活への関心・意欲・態度] (行動の様子、付箋紙の記述、振り返りシートの記述)



終末	5 振り返りシートでまとめをする。	○学級目標の決定を通して学んだこと、気付いたことを、これからの生活に生かすことができるよう助言する。	<p style="text-align: center;">振り返りシート</p> <p>1 今回の活動について書きましょう。( ) でした。 ①自分の考え・意見は ( ) でした。 それをきちんと伝えたり、発表したりすることが ( ) 。</p> <p>②他の人の意見・考えを・・・</p> <p>③他の人の意見を聞いて気付いたことを書きましょう。</p> <p>2 このクラスの学級目標をどう思いますか。</p> <p>3 今回の活動で感じたことを書きましょう。</p>
	6 教師の話を聞く。	○今後の様々な活動の中で、決定した学級目標を意識した行動を取るの大切さを伝える。 ○学級の現状を話し、学級全員が成長することを願っていることを伝える。	

**Point2** 「自己決定」を「書くこと」等を通して見取る

「振り返り」の中で、集団で決定した目標をどのように捉え、その達成に向け、自分自身がどのように取り組むか（「自己決定」）について考えることにつなげるため、振り返りシートは活動の過程や集団として決定した内容について客観的に振り返り、整理して書けるように問いの内容や順序を工夫しています。

## 6 指導と評価の実際

### (1) 「十分満足できる」状況と判断した生徒の様子

#### 《判断のポイント》

- ◆本実践では、振り返りシートは次の視点から分析します。
  - ・他の生徒の意見や考えも尊重しながら、よりよい生活を送ろうとする意欲をもち、具体的な活動につなげようとしているか。
- ◆授業後の生徒の行動については、授業中における生徒の姿との関連から、一貫性や整合性を基に分析を行うようにします。

生徒Aは学級委員に立候補したり、班長に選出されていたりしており、リーダーとしての経験も積んできていました。今回の「学級目標の決定」の活動においても、自分の意見を主張しつつ、他者の意見も偏ることなく聞くことができていました。また、振り返りシートには他者のよいところを認め、自分の目標にしたい旨の記述もありました(図4)。

③他の人の意見を聞いて気付いたことを書きましょう。

やはり考えることは同じだなと思ったり、自分が思いつかなかったことを言う人もいたりして、いろいろな意見が一緒になることで良いものになっていくと思いました。

図4 生徒Aの記述

生徒Bは理解力が高く、発想の転換も素早い生徒です。また、論理的に意見を述べることもできます。しかし、自分の意にそぐわない状況になると冗談ばかり言って活動の雰囲気を壊すこともあり、最初の事前の活動においては十分な活躍ができませんでした。しかし、その活動の中において友人からの手助けや助言の大切さに気付く、「学級目標の決定」では、他の者の意見を聞きながら班の意見をまとめ、楽しく有益な話し合いをしていました。振り返りシートの記述にもそのことが現れています(図5)。「頼りになる」「A君の意見のおかげでみんなが納得できた」など友人からの信頼感も増しています。

3 今回の活動で感じたことを書きましょう。

とても楽しく話し合いながら意見を出しあうことができました。いろいろな考えがでたのでそういうのもあるんだ!!ということも思いました。

図5 生徒Bの記述

## (2) 「十分満足できない」状況が生じないように行った支援

### 《具体的な支援》

- ◆事前に活動や話し合いの内容を伝え、準備や心構えをさせました。
- ◆学級活動においては、適宜、助言や必要があれば指導を行います。班全体に「班の中で、みんなの意見を出し合ってまとめてみよう」「〇〇さんの意見も入れてるかな」などと声をかけるようにしました。
- ◆また、当該生徒への指導だけではなく、学級集団にも、全員で共に成長していく仲間であるという意識をもたせるようにし、集団として、あるいは集団の中の一人として生活しているのだと意識できるようにしました。

生徒Cは普段は明るい生徒で友人も多く、笑顔の絶えることのない仲間に囲まれています。しかし、最初の頃は自分から意見を言えず、友人から催促や助言をされていました。次第に自分の意見は伝えることができるようになってきましたが、他の生徒の意見を聞いて考えたり、発展的な意見交換をしたりということがありませんでした。そこで、「学級目標の決定」では、話し合いの内容と流れを伝えて自分の意見を準備しておくように前日に伝えておきました。その結果、当日は積極的に意見を出し、班の考えを発表することができました。

## 7 本題材の学習による生徒の変容

4月に行った宿泊研修に向けての話し合いでは、班長や係を決めるときに役割を押し付けようとしたり係分担を拒否したりする生徒もいました。しかし、「学級目標の決定」に向けた一連の活動を通して、ルールに従って「自分の意見を言おう」「人の意見を聞かなくては」といった姿勢が現れ始め、生徒の活動の様子が徐々に変化していきました。班替え後、最初に行った事前の活動では、新しいメンバー構成の各班で司会役やまとめ役のような役割分担が自然にできていました。いずれの班でも、控えめな生徒も適切に発表できるように工夫していました。

これらの活動で人間関係づくりを行った後、5月に「学級目標の決定」の話し合い活動を行いました。どのような学級にしたいかを全員で考え、その考えを発表し、互いの意見を合わせたり分類したりしながら工夫して作り上げることができました。決定した学級目標「〇組 仲良くけんかなく けじめ 協力 助け合い」を見て、「みんなよく話し合ったね」「自分の意見は（消えたけど）あの（言葉の）中に（自分たちの思いが）入っているよね」などという声が多く聞かれました。

「学級目標の決定」の活動後、様々な活動の中で学級目標を意識した生徒の姿を見ることができました。例えば、7月に実施した体育会の選手決めにおいては、体育委員及び学級委員を中心に、生徒同士、互いの意見を出し合い、尊重し、工夫しながら取り組むことができました。宿泊研修の係を強く拒否していた生徒も全体のバランスを考え、自分の出場種目だけではなく、他の運動の苦手な生徒の出場種目にも気を配って意見を発表していました。このように、意見の交換をしながら特にトラブルもなく、互いを尊重し思いやりをもって選手決めができました。これらの活動の中で「集団や社会の一員としての思考・判断・実践」「集団活動や生活についての知識・理解」の評価を行いました。

## 3 今後の学習評価に向けて

特別活動では、育てたい態度や能力が一層明確にされました。「この題材をなぜ取り上げるのか」「この話し合いは、どういった結論に至ればよいのか」など、指導には明確な意図や見通しが求められます。そのような明確な意図や見通しの下でこそ、学習評価も有意義なものとなります。さらに、特別活動の目標には「人間関係」という文言が付加されています。このことにより、集団や社会の一員として、協力して学校生活の充実と発展に主体的に関わる教育活動としての意義が明確になりました。ただし、このことは特別活動の時間だけでは十分に果たすことはできません。「学級活動の指導は、学級経営と密接に関連している」といわれるように、日々の教育活動全般を見越した指導と評価の実践が求められます。

## 〈参考文献〉

- ・ 上岡誉富（2005）『かんたん！ プランター菜園コツのコツ 上岡流写真図解でわかる逸品づくり』農山漁村文化協会
- ・ エネルギー環境教育研究会（2008）『持続可能な社会のためのエネルギー環境教育』国土社
- ・ 竹村久生（2009）『図解 おもしろ子ども菜園 ー教室，ベランダ，軒下でー』農山漁村文化協会
- ・ 辰野千壽編集代表（2010）『月刊誌 指導と評価 2010年10月号』図書文化
- ・ 小島宏，岩谷俊行／編著（2010）『新しい学習評価のポイントと実践 第1巻 生きる力と新しい学習評価』ぎょうせい
- ・ 小島宏，岩谷俊行／編著（2010）『新しい学習評価のポイントと実践 第2巻 各教科等の新しい学習評価の展開』ぎょうせい
- ・ 小島宏，岩谷俊行／編著（2010）『新しい学習評価のポイントと実践 第3巻 学習評価を充実させる工夫改善』ぎょうせい
- ・ 国立教育政策研究所（2010）『評価規準の作成のための参考資料』
- ・ 国立教育政策研究所（2011）『評価方法等の工夫改善のための参考資料』
- ・ 辰野千壽編集代表（2011）『月刊誌 指導と評価 2011年4月号』図書文化
- ・ 辰野千壽編集代表（2011）『月刊誌 指導と評価 2011年5月号』図書文化
- ・ 国立教育政策研究所（2011）『総合的な学習の時間における評価方法等の工夫改善のための参考資料』
- ・ 田中耕治編著（2011）『パフォーマンス評価 思考力・判断力・表現力を育む授業づくり』ぎょうせい
- ・ 辰野千壽編集代表（2011）『月刊誌 指導と評価 2011年8月号』図書文化
- ・ 辰野千壽編集代表（2011）『月刊誌 指導と評価 2011年9月号』図書文化
- ・ 北尾倫彦監修 山森光陽・鈴木秀幸全体編集 永田潤一郎編集（2011）『[平成24年版]観点別学習状況の評価規準と判定基準 中学校数学』図書文化
- ・ 岡山県総合教育センター（2012）「中学校技術・家庭科〔技術分野〕における融合題材を用いた授業づくりに関する提案Ⅱ」、『岡山県総合教育センター研究紀要第5号』

〈3年間の研究を終えるに当たって〉

## 「学習評価研究を授業改善に生かす」

### 1 学習評価の二つの焦点

教育評価の枠組みは、目標・標準・評価、評価規準、評価方法、観点別学習状況、評定等の用語や概念で構成され、評価の目的に応じて評価活動に生かされている。私たちが課題としている児童生徒の学習指導の改善の視点から捉えると、教育評価には二つの焦点があることが分かる。

一つは、指導と評価の一体化といわれてきたことがらである。ここで「一体化」とは両者を切り離さず相互に結び付けながら教育指導の効果を高めるとの意味である。教育活動は児童生徒を対象にしかも少なくとも1年を見通して展開されるため、いわば分節化、焦点化して活動が展開されることが多い。そのため、ともすれば授業は授業、評価は評価といった形で自己目的化した活動になりやすい。指導と評価の一体化とは、評価の結果得られた情報を児童生徒の学習や教師の指導の見直しに生かすようにしていくことを意味している。

次に、二つ目の焦点は評価の妥当性、信頼性を高めることである。評価を学習指導に生かすにしても、前提となる評価の妥当性や信頼性に課題があれば、評価の働きも十分に機能しない。妥当性、信頼性を高めるためのポイントは、目標分析を踏まえた適切な評価規準の設定と活用、観点到にふさわしい評価方法の工夫、得られた評価資料の適切な解釈などにある。学習状況を的確に評価することが、児童生徒のその後の指導改善の前提となる。

### 2 学習評価の機能を生かす取り組み

学習評価は授業実践のモニターの働きを持っており、その後の計画や実践につながるように流れを作ることが重要である。PDCAサイクルはP（計画）からスタートするというよりも、Cの点検・評価からスタートする流れの方が実際的であるともいえる。学習評価の学習指導改善の機能をより一層発揮するためには、少なくとも指導計画が従前と比べてどのように見直されているのか、また、その根拠は何かといったことが明示される必要がある。つまり、それまでの学習評価の情報が次の指導計画に反映され、具体的な実践につなげられることが大切である。例えば、指導の重点化を図ったり、繰り返し学習を実施したり、あるいはワークシートを工夫したりといった具体的な取り組みとして設定することが考えられる。学習評価と指導改善とをつなぐためには、前者が後者に具体的にどのように反映されているのかを、明確にすることが必要である。この関係が定着することによって、学習評価の働きの実効性が高まり、授業や児童生徒の学習状況の改善に生かされることになる。



### 3 研究の成果を生かす

岡山県総合教育センターでは、平成22～24年度の所員研究として「新学習指導要領の趣旨を踏まえた新しい学習評価の在り方に関する研究」を進めてきた。研究の成果は学習評価の考え方や進め方等をまとめた『学習評価ガイドブック』と『学習評価授業実践事例集』としてまとめられている。『学習評価ガイドブック』は「学習評価の基本的な考え方」及び「学習評価の手順」を提示し、各教科等ごとにポイントがまとめられている。特に、「学習評価の手順」では、目標設定、評価計画の位置付け、授業における評価、評価結果のまとめ、評価を生かすといった五つの点で整理されており、まさにPDCAサイクルを具体化するためのポイントが明確にされている。各教科等における学習評価については、『学習評価ガイドブック』において「学習評価のポイント」が示され、また、小学校、中学校別に『学習評価授業実践事例集』が作成されている。

各学校においては、これらの報告書を手がかりに、授業と評価の見直しを進め、結果として児童生徒の学習状況の改善に結実していくことを期待したい。

平成25年2月

国立教育政策研究所  
初等中等教育研究部長  
工藤文三

#### 新学習指導要領の趣旨を踏まえた新しい学習評価の在り方に関する研究

『子どもたちに「生きる力」をはぐくむ 学習評価ガイドブック』（平成22年度）

【小学校編】 <http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/chousa/kiyou/h22/10-01sho.pdf>

【中学校編】 <http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/chousa/kiyou/h22/10-01chu.pdf>

『子どもたちに「生きる力」を育む 学習評価 授業実践事例集 小学校編』（平成23年度）

<http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/chousa/kiyou/h23/11-01.pdf>

『子どもたちに「生きる力」を育む 学習評価 授業実践事例集 中学校編』（平成24年度）

<http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/chousa/kiyou/h24/12-03.pdf>

平成22～24年度岡山県総合教育センター所員研究  
(共同研究；教科教育)

「新学習指導要領の趣旨を踏まえた新しい学習評価の在り方に関する研究」

研究委員会

指導助言者

工藤 文三 国立教育政策研究所初等中等教育研究部長

協力委員

森 裕司 岡山県立岡山操山中学校教諭

三村 悠美子 岡山市立芳泉中学校教諭

横田 綾子 倉敷市立東中学校教諭

吉田 和示 倉敷市立南中学校教諭

下山 正智 津山市立加茂中学校教諭

片山 健治 井原市立木之子中学校教諭

青山 敏之 赤磐市立桜が丘中学校教諭

大坂 敬介 赤磐市立磐梨中学校教諭

山田 恭之 美作市立美作中学校教諭

伊東 賢吾 美作市立勝田中学校教諭

筒井 洋美 浅口市立鴨方中学校教諭

坂 孝博 新庄村立新庄中学校教諭

兼田 幸恵 岡山大学教育学部附属中学校教諭

授業実践事例提供者

大場 めぐみ 高梁市立成羽中学校教諭

実践事例協力校

和気町立和気中学校

研究委員

石田 隆 岡山県総合教育センター教科教育部長 (平成22年度)

(現 岡山県教育庁指導課生徒指導推進室長)

平賀 和治 岡山県総合教育センター教科教育部長 (平成23, 24年度)

中川 雅之 岡山県総合教育センター教科教育部指導主事 (平成23, 24年度)

大月 一泰 岡山県総合教育センター教育経営部指導主事 (平成22年度)

(現 岡山市立岡山後楽館中学校教頭)

金井 庸記 岡山県総合教育センター教育経営部指導主事 (平成22年度)

(現 岡山県立倉敷青陵高等学校教諭)

大辻 慎一郎 岡山県総合教育センター教育経営部指導主事 (平成23, 24年度)

土田 雅己 岡山県総合教育センター教科教育部指導主事 (平成22年度)

(現 矢掛町立矢掛中学校教頭)

川西 隆 岡山県総合教育センター教科教育部指導主事 (平成22, 23年度)

(現 倉敷教育センター指導主幹)

信宮 誠 岡山県総合教育センター教科教育部指導主事 (平成22, 23年度)

(現 岡山県立岡山城東高等学校教頭)

前田 敦子 岡山県総合教育センター教科教育部指導主事

塩崎 弘之 岡山県総合教育センター教科教育部指導主事

正好 東洋 岡山県総合教育センター教科教育部指導主事

長谷川 陽子 岡山県総合教育センター教科教育部指導主事

植月 慎二 岡山県総合教育センター教科教育部指導主事

守分 久人 岡山県総合教育センター教科教育部指導主事 (平成22, 23年度)

(現 岡山教育事務所指導主事 (副参事))

河本 尚 岡山県総合教育センター教科教育部指導主事

中野 修一 岡山県総合教育センター教科教育部指導主事 (平成24年度)

西林 哲郎 岡山県総合教育センター教科教育部指導主事

苅田 直樹 岡山県総合教育センター教科教育部指導主事 (平成23, 24年度)

平田 朝一 岡山県総合教育センター教科教育部指導主事 (平成24年度)

本学習評価授業実践事例集は、(財)福武教育文化振興財団の平成24年度教育研究助成を受けて作成したものです。

平成25年2月発行  
子どもたちに「生きる力」を育む 学習評価 授業実践事例集  
中学校編

編集兼発行所 岡山県総合教育センター  
〒716-1241 岡山県加賀郡吉備中央町吉川7545-11  
TEL (0866)56-9101 FAX (0866)56-9121  
URL <http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/>  
E-MAIL [kyoikuse@pref.okayama.lg.jp](mailto:kyoikuse@pref.okayama.lg.jp)

お問い合わせ 教科教育部 TEL (0866)56-9103  
Copyright © 2013 Okayama Prefectural Education Center

\*本文掲載イラストは、株式会社ジャストシステム、神奈川県立総合教育センターのものを使用しています。

